

小金井市立
はけの森美術館
年報

平成18年度 - 平成22年度

ANNUAL REPORTS OF
Koganei city HAKENOMORI Art Museum

御挨拶

中村研一記念 小金井市立はけの森美術館は、財団法人中村研一記念美術館から建物およびコレクションの寄贈を受け、平成 18 年 4 月に開館いたしました。延床面積 775.1㎡、展示室数 2 という小規模な館ですが、小金井市にとっては初の市立美術館です。市民参加・参画型の美術館、子どもたちの教育プログラムを充実させ、市民の芸術文化活動の拠り所となることを目指し、中村研一作品を中心にコレクションを紹介する所蔵作品展、他機関が所蔵する作品を併せて展示し、多彩な視点からテーマを掘り下げる企画展、実際に手を動かし体験することで、美術への親しみを深めてもらうワークショップなど、様々な取組を進めてまいりました。

平成 22 年度には開館 5 周年を迎え、これを機に開館から今までの活動の記録をまとめ、年報を刊行することとなりました。

今後も、市民に寄り添い、親しまれる美術館として精力的な活動を行いたいと考えておりますので、多くの皆様に本年報をご覧いただき、当館の活動内容についてのご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

これまで当館を支えていただいた皆様に感謝するとともに、今後もより一層のご支援を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

小金井市立はけの森美術館館長
鈴木茂哉

目次

1. 沿革	6
2. 展覧会	
平成 18 年度	12
平成 19 年度	23
平成 20 年度	34
平成 21 年度	43
平成 22 年度	53
3. 教育普及事業	
1. 展覧会関連事業	61
2. 展覧会別立事業	83
3. 学校教育との連携	86
4. 団体見学・団体への解説	96
4. 作品及び資料	
1. 作品収集	97
2. 作品貸出	99
5. 刊行物・販売物	100
6. 広報活動	103
7. 調査研究	
1) 平成 20 年度 福岡県における中村研一作品についての調査記録	105
2) 5 年間の出張の一覧	110
3) 文化遺産オンラインへの作品掲載について	111
8. 管理運営	
1) 日誌	112
2) 入館者数	117
3) 予算一覧	119
9. 資料	
1. 小金井市立はけの森美術館運営協議会	121
2. 小金井市立はけの森美術館 職員	123
《参考》財団法人中村研一記念美術館の展覧会	124
10. 関連条例・規定	126
11. 施設概要	133

凡例

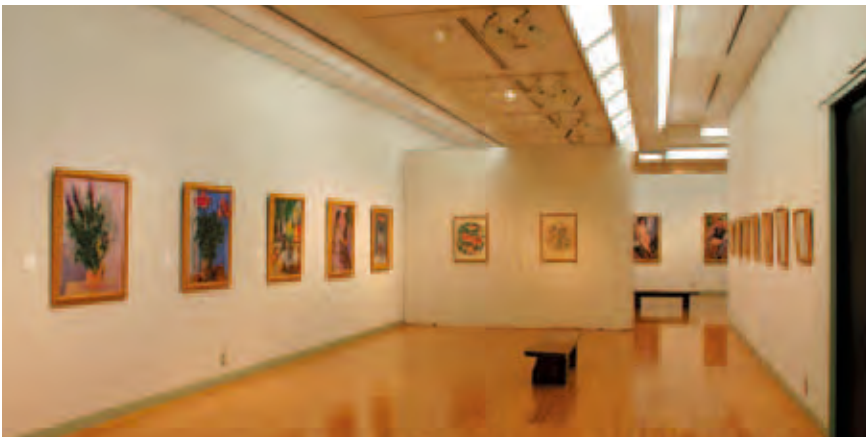
- 一、本年報は、平成 18 年度から 22 年度までの小金井市立はけの森美術館の活動内容を収録している。
- 一、展示リスト記載内容は、展示が開催された時点でのものに基づいている。そのため、作品名等が現在使用しているものは必ずしも一致しないが、そのまま掲載した。
- 一、展示リストにおいて、特に記載のない作品は小金井市立はけの森美術館の所蔵である。ただし、企画展「Art-Full アート湧くはけの森」「Art-Full2 CIRCULATION 天から 地から」の展示リストに関しては、当館の所蔵作品に関わらず、全ての出展作品について、所蔵先が記載されていない。
- 一、本年報および別冊シンポジウム集の編集は、当館学芸員中村ひの、岩崎みどりが行った。

1. 沿革

平成元年(1989) 5月	中村研一記念美術館開館
平成3年(1991) 2月	中村研一記念美術館を財団法人化、財団法人中村研一記念美術館とする
平成13年(2001) 3月	(財)中村研一記念美術館が「財団法人中村研一記念美術館を小金井市へ寄贈しますこと」の嘆願書を小金井市に提出する
平成15年(2003) 2月	小金井市内の1000世帯に対して「美術館に関するアンケート」調査を実施する
平成15年(2003) 6月	(仮称)中村研一記念美術館管理運営基本計画策定委員会設置要綱が施行され、(仮称)中村研一記念美術館管理運営基本計画検討委員会が設置される
平成15年(2003) 8月	小金井市に対して、(財)中村研一記念美術館から寄附申出書が提出される
平成15年(2003) 9月	小金井市議会において、(財)財団法人中村研一記念美術館よりの負担付き寄附が議決される
平成15年(2003) 11月	(仮称)中村研一記念美術館管理運営基本計画策定委託 美術館運営・展示ボランティア養成講座 ワークショップ「みんなの美術館づくり～美術館運営にあなたも～」(全5回、～12月)が実施される
平成16年(2004) 3月	(仮称)中村研一記念美術館管理運営基本計画策定委員会より小金井市に「(仮称)中村研一記念美術館管理運営基本計画策定調査報告書」、「『小金井市民の美術館』をめざして (仮称)中村研一記念美術館管理運営基本計画策定委員会 提言」が提出される
平成16年(2004) 6月	小金井市が中村研一記念美術館寄附を受領する
平成16年(2004) 11月	(仮称)小金井市立美術館管理運営実施計画検討委員会設置要綱が施行され、小金井市立美術館管理運営実施計画検討委員会が設置される
平成17年(2005) 6月	(仮称)小金井市立美術館管理運営実施計画検討委員会より小金井市に「(仮称)小金井市立美術館管理実施計画について〔中間提言〕」が提出される
平成17年(2005) 9月	小金井市議会第3回定例会で「小金井市立はけの森美術館条例」が可決され、美術館名称を「小金井市立はけの森美術館」に決定する
平成18年(2006) 2月	(仮称)小金井市立美術館管理運営実施計画検討委員会より小金井市に「小金井市立はけの森美術館 管理実施運営計画について―提言―」が提出される
平成18年(2006) 4月	小金井市立はけの森美術館開館、「小金井市立はけの森美術館条例施行規則」が施行される



小金井市立はけの森美術館外観



1階展示室



2階展示室



中村研一旧居入口付近



茶室「花侵庵」





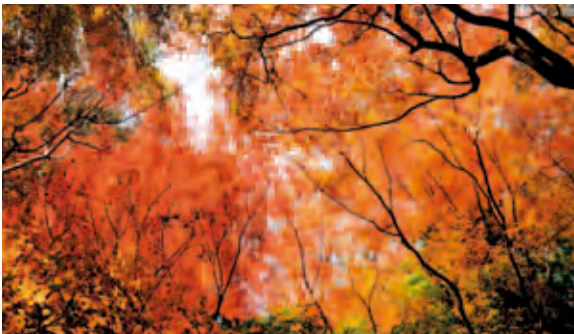
湧水側から中村研一旧居を望む



「美術の森」緑地入口



北側入口からの眺め



紅葉する「美術の森」緑地



秋の湧水

2. 展覧会

概要

平成 18 年 4 月 1 日に開館した「中村研一記念 小金井市立はげの森美術館」は、平成 16 年に財団法人中村研一記念美術館より小金井市に寄贈された、財団所蔵作品約 800 点をコレクションの基本としている。「様々なテーマによる企画展示を行い、市民に優れた作品鑑賞の場を提供する」との提言を受けたことに基づき（註 1）、平成 18 年度より、以下のように展示を実施した。

まず、美術により深く接するためのテーマを設定し他機関が所蔵する作品等も含めて構成する「企画展」、中村研一の功績を偲び、その画業に対する理解を深めるために様々な切り口で中村作品を中心としたコレクションを紹介する「所蔵作品展」を、年にそれぞれ 2 回程度開催した。館内 2 つの展示室のうち、1 階展示室は企画展開催時の展示会場、また所蔵作品展時は主たる展示会場とし、2 階展示室は〈中村研一記念室〉として位置づけ、企画展・所蔵作品展の開催毎に展示替を行い、中村や、関連画家の絵画作品、自作の陶器のほか、遺品、資料などで中村の幅広い創作活動を紹介してきた。

5 年間の歩み（平成 18～22 年度）

- | | |
|---------|---|
| 1. 企画展 | 開館年（平成 18 年度）、開館 5 周年（平成 22 年度）には中村研一の画業を生涯にわたって概観する企画展を開催した。所蔵作品だけでなく他館からの借り入れ作品を含めて展示を構成した。さらに、当館企画展の特色としては以下の 2 点があげられる。まず第 1 点として全国のユニークな公立美術館コレクションを紹介する企画を、平成 19 年度から平成 22 年度の 4 回行った。第 2 点として、「子どもワークショップ」による創作活動をメインとして、その成果の展示と現代芸術作家作品展を組合せた「Art-Full」を平成 18・19 年度に開催した。平成 21 年度には美術館周辺の「はげ」が舞台の映画「武蔵野夫人」を中心に、女優・田中絹代に関する企画展を開催し、展示と連動したユニークな関連企画の数々が好評を得た。 |
| 2. 所蔵品展 | 所蔵作品から中村研一の絵画作品、陶芸作品、遺品などの関連資料、中村と交流のあった画家たちの作品を展示した。「風景」「裸婦」「静物」などテーマを毎回設定することで、画一的な印象を避けると共に、来館者が所蔵作品の新たな魅力を発見したり、近代日本洋画への興味を持ってもらえるようにした。平成 22 年度には新収蔵作品の公開を併せた「中村研一の人物画」を開催するなど、当館の代表作品の周知を図る場としても活用した。さらに「「けんぼしゅん」とあそぼう！」と題した一連のワークショップは平成 20 年度より所蔵作品展開催期間中に継続的に行われ、リピーターも増加している。特に若年層に向け、美術館を訪れるきっかけづくりとなることを期待している。 |
| 3. 展示室 | <u>1 階展示室</u>
可動壁の調節によって最大 5 エリア、くの字型の 1 エリア（可動壁を収納した状態）となり、展示構成に沿って多様な導線を想定することが可能である。状況に応じて企画展開連事業のワークショップやギャラリートークを行った。また小金井市立小学校対象の鑑賞教室等も、1 階展示室を中心に実施した。
<u>2 階展示室</u>
企画展開催時も中村研一作品を展示する〈中村研一記念室〉として位置づけ、所蔵作品による展示を行っている。
可動壁は設置されておらず壁面と展示ケースを中心とした展示を行っている。ケースを用いた陶芸作品の展示、また中村愛用のパレットといった遺品の類など、絵画に限定せず多様な展示品で中村研一の創作活動をうかがうことができる。 |

註 1：（仮称）小金井市立美術館管理運営実施計画検討委員会による「小金井市立はげの森美術館管理実施運営改革について〔提言〕」（平成 18 年 2 月）による。以降、本年報においては、特筆しない限り『提言』と記載する。

平成 18 (2006) 年度

所蔵作品展



1 開館記念所蔵作品展Ⅰ、Ⅱ

会 期：Ⅰ期 平成 18 年 4 月 1 日 (土) ～ 7 月 2 日 (日)

Ⅱ期 平成 18 年 7 月 11 日 (火) ～ 9 月 24 日 (日)

会 場：1 階・2 階展示室

開催日数：Ⅰ期 80 日

Ⅱ期 66 日

観覧料：一般 200 円、小中学生 100 円

※未就学児、障害者手帳をご提示の方および付添者 1 名は無料

開館記念無料開館 4 月 1 日 (土)、2 日 (日)

入場者数：Ⅰ期 2,312 人

Ⅱ期 711 人

一日平均：Ⅰ期 29 人

Ⅱ期 9 人

出品点数：Ⅰ期 77 点 (1 階展示室 31 点、2 階展示室 46 点)

Ⅱ期 78 点 (1 階展示室 32 点、2 階展示室 43 点)

※1 階 12 点、2 階 13 点を入替え

担 当：横田佳世

印刷物：〔ポスター〕 B2 判カラー、〔チラシ〕 A4 判両面 (カラー／白黒)、

〔リーフレット〕 A3 ニツ折 (カラー／2 色)



(Ⅰ期)



(Ⅱ期)

開催趣旨

平成 16 年に財団法人中村研一記念美術館より寄贈を受けた所蔵作品約 800 点のうち、77 点を紹介した。会期を第Ⅰ期、第Ⅱ期に分け、1 階・2 階ともに一部作品の入れ替えを行った。

1 階展示室は各年代における油彩画の代表作を紹介した。2 階展示室は、油彩、水彩、陶芸など中村研一の幅広い創作活動を紹介するとともに、遺品、書簡などでその人物像を浮彫りにした。明治に生まれ、大正から昭和にかけて激動の時代を生きた画家、中村研一が追い求めたことは、目の前の対象をあるがままにとらえ、その存在をただ一つの線に置きなおすことだった。画家が何を見、真実として描こうとしたのか、所蔵作品を通して振り返った。

関連事業

(1) 開館セレモニー

日時：平成 18 年 4 月 1 日（土） 10:30～11:00

会場：1 階展示室

(2) 「夏休みキッズ・トーク」

日時：平成 18 年 8 月 29 日（火）、30 日（水） 13:30～14:30

会場：1 階・2 階展示室、「美術の森」緑地

対象：小学生

定員：各 20 人

担当：大野玲

(3) ギャラリートーク

会期中 5 回実施

主要関連記事

(1) 新聞

「初の『市立美術館』はけの森美術館オープン 中村研一作品展を開催中」『小金井新聞』、2006 年 4 月 11 日

「『中村研一美術館』まるごと市に寄贈 巨匠洋画家の妻・富子さん 高齢ため 夫への思い『末永く』」『読売新聞』[武蔵野版]、2006 年 4 月 13 日

(2) 雑誌

「小金井市にはけの森美術館オープン」『月刊展覧会ガイド』、2006 年 8 月号、p.14

[作品リスト]

開館記念所蔵作品展Ⅰ 会期 平成18年4月1日(土)～7月2日(日)

	作者	題名	制作年	技法	寸法(cm)		
1階展示室	中村研一	中村正奇氏の肖像	1929年	油彩・キャンパス	91.0×73.0		
		風景	1922年	油彩・板	53.0×65.0		
		フランス婦人像(滞欧作)	1928年	油彩・キャンパス	60.5×50.0		
		花(滞欧作)	1924年	油彩・キャンパス	51.8×44.2		
		F氏像	1934年	油彩・キャンパス	80.5×65.0		
		足柄より	1938年	油彩・キャンパス	45.7×53.5		
		南の海	1942年	油彩・板、張キャンパス	54.0×46.0		
		宿泊先	1942年	油彩・キャンパス	45.0×53.0		
		コタ・バルにて	1942年	油彩・キャンパス	53.0×41.0		
		家居	1945年	油彩・キャンパス	33.5×24.5		
		婦人像	1945年	油彩・キャンパス	100.0×80.3		
		夏	1948年	油彩・キャンパス	91.0×73.0		
		画室	1949年	油彩・キャンパス	116.7×90.0		
		夏	1950年	油彩・キャンパス	116.7×90.0		
		裸婦	1952年	油彩・キャンパス	100.0×80.3		
		裸婦	1953年	油彩・キャンパス	72.8×91.0		
		早春	1962年	油彩・キャンパス	91.0×73.0		
		バラ	1962年	油彩・キャンパス	90.5×73.0		
		花	1960年	油彩・キャンパス	91.0×72.8		
		裸体	1964年	油彩・キャンパス	91.0×116.6		
		家居	1958年	油彩・キャンパス	91.0×73.0		
		夏の庭	1964年	油彩・キャンパス	116.5×91.0		
		坐裸婦	1965年	油彩・キャンパス	130.5×97.0		
		木陰	1963年	油彩・キャンパス	91.0×116.5		
		自画像	1958年	油彩・キャンパス	73.0×61.0		
		静物	1955年	油彩・キャンパス	45.5×53.0		
		静物	1950年頃	油彩・キャンパス	31.8×41.0		
		野村邸	1955年	油彩・キャンパス	45.8×53.0		
		初夏	1957年	油彩・キャンパス	45.5×53.0		
		花	1950年	油彩・キャンパス	60.7×50.0		
バラ	1967年	油彩・キャンパス	40.9×31.8				
2階展示室/油彩画	中村研一	夏庭	1963年	油彩・キャンパス	80.5×65.3		
		バラ	1965年	油彩・キャンパス	80.5×65.3		
		花を生ける	1963年	油彩・キャンパス	91.0×72.8		
/素描	中村研一	旧家屋	制作年不詳	紙	23.0×29.0		
		渓流	制作年不詳	墨・紙	24.0×30.0		
		どくだみ	制作年不詳	墨・紙	22.0×30.0		
		猫	制作年不詳	筆・墨・紙	35.0×22.0		
		チューリップ	制作年不詳	水彩・墨・紙	52.0×36.0		
		ペランダ	制作年不詳	水彩・紙	43.0×35.0		
		朝食卓	制作年不詳	コンテ、水彩・紙	50.0×33.0		
		バラ	制作年不詳	水彩・墨・紙	52.0×36.0		
		花	制作年不詳	水彩・墨・紙	48.0×36.0		
		裸婦	制作年不詳	鉛筆、筆、墨・紙	43.0×31.0		
		室内	制作年不詳		36.0×28.0		
		花束をもつ女	制作年不詳	紙	36.0×25.0		
		居間	制作年不詳	水彩・紙	38.0×53.0		
		自画像	制作年不詳	バステル、墨・紙	33.0×24.0		
		庭	制作年不詳	水彩・墨・紙	35.0×28.0		
		うつぎ(九谷半筒形茶碗下図)	制作年不詳	水彩・墨・紙	29.0×30.0		
		室内図(居宅兼茶ノ間兼画室兼書斎図)	制作年不詳	水彩・墨・紙	26.5×35.5		
		小金井住家ノ図	1958年頃	水彩・墨・紙	30.0×60.0		
		/陶器	中村研一	出雲浅皿雉頭付	1950年頃以降	陶	
				出雲浅皿羊頭付	1950年頃以降	陶	
出雲浅皿鶏頭付	1950年頃以降			陶			
出雲取手付猫面壺	1950年頃以降			陶			
出雲カップ薔薇図	1950年頃以降			陶			
備前角形水指	1950年頃以降			陶			
備前水指	1950年頃以降			陶			
瀬戸黒桃形	1950年頃以降			陶			
志野熊川形	1950年頃以降			陶			
信楽半筒形(銘 君が代)	1959年			陶			
出雲深皿羊歯図	1950年頃以降			陶			
出雲人面図	1950年頃以降			陶			
出雲深皿合歡図	1950年頃以降			陶			
出雲大皿うまたで図	1950年頃以降			陶			
出雲飾皿夫人像	1950年頃以降			陶			
出雲飾皿自画像	1950年頃以降			陶			
香合	1950年頃以降			陶			
信楽丸形香合	1950年頃以降			陶			
九谷香合梅図	1950年頃以降			陶			
九谷半筒形うつぎ図	1950年頃以降			陶			
九谷腕形藤ノ絵	1950年頃以降			陶			
九谷大皿牡丹図	1950年頃以降			陶			
九谷大皿菊図	1950年頃以降			陶			
九谷丸皿薔薇図	1950年頃以降			陶			
瀬戸絵付デミタスすみれ図	1950年頃以降			陶			
瀬戸絵付灰皿パイプ図	1950年頃以降			陶			

[作品リスト]

開館記念所蔵作品展Ⅱ 会期 平成18年7月11日(火)～9月24日(日)

	作者	題名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)
1階展示室	中村研一	風景	1922年	油彩・板	53.0 × 65.0
		フランス風景	1923年	油彩・キャンバス	60.0 × 50.0
		フランス婦人像 (滞欧作)	1928年	油彩・キャンバス	60.5 × 50.0
		花 (滞欧作)	1924年	油彩・キャンバス	51.8 × 44.2
		F氏像	1934年	油彩・キャンバス	80.5 × 65.0
		アデン	1948年	油彩・キャンバス	53.0 × 45.5
		足柄より	1938年	油彩・キャンバス	45.7 × 53.5
		宿泊先	1942年	油彩・キャンバス	45.0 × 53.0
		コタ・バルにて	1942年	油彩・キャンバス	53.0 × 41.0
		室内	1945年	油彩・キャンバス	41.0 × 31.8
		ゴルフ場の朝	1942年	油彩・キャンバス	45.5 × 53.0
		裸婦	制作年不詳	油彩・キャンバス	45.7 × 38.0
		静物	制作年不詳	油彩・キャンバス	38.0 × 45.5
		ナデシコ	1948年	油彩・キャンバス	53.0 × 45.5
		夫人像	1945年	油彩・キャンバス	100.0 × 80.3
		夏	1950年	油彩・キャンバス	116.7 × 90.9
		裸婦	1961年	油彩・キャンバス	116.7 × 80.9
		花	1960年	油彩・キャンバス	91.0 × 72.8
		早春	1962年	油彩・キャンバス	91.0 × 73.0
		バラ	1962年	油彩・キャンバス	90.5 × 73.0
		花を生ける	1963年	油彩・キャンバス	91.0 × 72.8
		夏の庭	1964年	油彩・キャンバス	116.5 × 91.0
		夫人像	1963年	油彩・キャンバス	100.5 × 81.0
		坐裸婦	1965年	油彩・キャンバス	130.5 × 97.0
		木陰	1963年	油彩・キャンバス	91.0 × 116.5
		自画像	1958年	油彩・キャンバス	73.0 × 61.0
		鴨	制作年不詳	油彩・キャンバス	31.8 × 41.0
		海水浴	制作年不詳	油彩・キャンバス	40.9 × 31.8
		野村邸	1955年	油彩・キャンバス	45.8 × 53.0
		台北風景	1962年	油彩・キャンバス	45.5 × 53.0
		裸婦	1952年	油彩・キャンバス	38.0 × 45.5
		バラ (絶筆)	1967年	油彩・キャンバス	40.9 × 31.8
		2階展示室 / 油彩画	中村研一	庭	1963年
新緑	制作年不詳			油彩・キャンバス	45.5 × 53.0
アトリエにて	1947年			油彩・キャンバス	45.5 × 38.0
/ 素描	中村研一	猫	制作年不詳	紙	35.0 × 22.0
		包頭	制作年不詳	紙	24.5 × 36.0
		花籠	制作年不詳	紙	31.0 × 30.0
		船	制作年不詳	紙	19.5 × 25.5
		船	制作年不詳	紙	26.0 × 35.0
		台北風景	制作年不詳	紙	30.0 × 40.0
		漁港	制作年不詳	紙	29.0 × 38.0
		窓辺	制作年不詳	紙	24.0 × 35.0
		コーヒー碗	制作年不詳	紙	16.0 × 22.0
		中禅寺湖	制作年不詳	紙	26.0 × 36.0
		とり	制作年不詳	紙	31.0 × 30.0
		樹	制作年不詳	和紙	33.0 × 24.0
		タバコ具	制作年不詳	紙	14.0 × 20.0
		開封新民公園	制作年不詳	紙	31.0 × 43.0
		婦人像	制作年不詳	紙	31.0 × 26.0
ゆり	制作年不詳	紙	60.0 × 45.0		
/ 陶器	中村研一	黒楽	1950年頃以降	陶	
		備前 丸紋皿	1950年頃以降	陶	
		備前 蟹図紐付偏平壺	1950年頃以降	陶	
		備前 足付深鉢	1950年頃以降	陶	
		備前 カップ	1950年頃以降	陶	
		出雲 羊歯図大皿	1950年頃以降	陶	
		出雲 丸皿	1950年頃以降	陶	
		出雲 取手付壺	1954年	陶	
		出雲 鶏図耳付角皿	1950年頃以降	陶	
		出雲 菜果図耳付角皿	1950年頃以降	陶	
		出雲 果物図深皿	1950年頃以降	陶	
		出雲 ドンキホーテ図深皿	1950年頃以降	陶	
		瀬戸 レモン図絵飾皿	1950年頃以降	陶	
		瀬戸 裸婦図絵皿	1950年頃以降	陶	
		瀬戸 羊図飾皿	1950年頃以降	陶	
		瀬戸 絵付デミタスすみれ図	1950年頃以降	陶	
		志野 筒型	1950年頃以降	陶	
		大樋 碗形	1950年頃以降	陶	
		信楽 半筒形 (銘 君が代)	1950年頃以降	陶	
		信楽 透し入り角深皿	1950年頃以降	陶	
		九谷 浜なし図丸皿	1950年頃以降	陶	
		九谷 深鉢	1950年頃以降	陶	
		九谷 藤ノ絵碗形	1950年頃以降	陶	
		九谷 牡丹図大皿	1950年頃以降	陶	



- 2 2007年所蔵作品展I～特集 中村研一と花々～
 会期：平成19年3月20日（火）～6月10日（日）
 会場：1階・2階展示室
 開催日数：73日
 観覧料：一般200円、小中学生100円
 ※未就学児、障害者手帳をご提示の方および付添者1名は無料
 入場者数：延べ2,364人
 一日平均：32人
 出品点数：80点（1階展示室36点、2階展示室43点）
 担当：大野玲
 印刷物：〔ポスター〕B2判カラー、〔チラシ〕A4判両面（カラー／白黒）

開催趣旨

中村研一の画風の変遷を、コレクションで振り返るとともに、春という季節にあわせて花々を描いた作品を特集した。1階展示室は、「特集 中村研一と花々」と、初期作品から晩年作までを概観できる主要作品コーナーの2部構成とした。中村研一が生涯をかけて追求した「真実の線」、その厳しい視線は、花を主題とした作品群のなかにも、様々に表われている。また、「特集 中村研一と花々」では、油彩・水彩だけでなく、ペン画や陶器下絵など、バラエティー豊かな中村研一の花の世界を紹介した。2階展示室では、風景、静物、人物など「花」以外をテーマとした油彩、墨絵、水彩や陶芸など、多岐に渡る中村の創作活動を紹介した。

関連事業

(1) 美術館で花を描く

第1部 講演「人はなぜ花を描くのか」

第2部 ワークショップ「美術館で花を描く」

日時：平成19年3月24日（土）13:00～16:00

講師：河村正之（東京学芸大学教授）

(2) ギャラリートーク

会期中5回実施

[作品リスト]

2007年所蔵作品展Ⅰ～特集 中村研一と花々～ 会期 平成19年3月20日(火)～6月10日(日)

	作者	題名	制作年	技法・材質	寸法 (cm)		
1階展示室／特集 中村研一と花々	中村研一	花 (滞欧作)	1924年	油彩・キャンバス	51.8 × 44.2		
		ナデシコ	1948年	油彩・キャンバス	53.0 × 45.5		
		花	1950年	油彩・キャンバス	60.7 × 50.0		
		花	1960年	油彩・キャンバス	91.0 × 72.8		
		バラ	1962年	油彩・キャンバス	90.5 × 73.0		
		早春	1962年	油彩・キャンバス	91.0 × 73.0		
		花を生ける	1963年	油彩・キャンバス	91.0 × 72.8		
		バラ	1965年	油彩・キャンバス	80.5 × 65.5		
		チューリップ	制作年不詳	水彩・紙	52.0 × 36.0		
		花	制作年不詳	水彩・紙	48.0 × 36.0		
		バラ	制作年不詳	水彩・紙	52.0 × 36.0		
		パンジー	制作年不詳	水彩・紙	33.0 × 34.0		
		山茶花	制作年不詳	水彩・紙	30.0 × 39.0		
		静物	制作年不詳	水彩・紙	32.0 × 24.0		
		雪梅	制作年不詳	墨・紙	25.0 × 33.0		
		蛙	制作年不詳	墨・紙	28.0 × 20.0		
		虎ノ尾	制作年不詳	墨、淡彩・紙	33.0 × 24.0		
		つる草	制作年不詳	墨、淡彩・紙	34.0 × 22.0		
		紅梅	1946年	墨、淡彩・紙	34.0 × 25.0		
		秋海棠	制作年不詳	墨、淡彩・紙	36.0 × 25.0		
		九谷半筒形茶碗下図 (うつぎ)	制作年不詳	水彩・紙	29.0 × 30.0		
		九谷焼大皿下図 (八重椿)	制作年不詳	水彩・紙	59.0 × 48.0		
		九谷焼大皿下図 (カーネーション)	制作年不詳	水彩・紙	56.0 × 45.0		
		風景	1922年	油彩・キャンバス	53.1 × 65.0		
		K夫人肖像	1922年	油彩・キャンバス	53.0 × 45.5		
		フランス風景	1923年	油彩・キャンバス	60.5 × 50.0		
		フランス婦人像 (滞欧作)	1928年	油彩・キャンバス	60.5 × 50.0		
		中村正奇氏の肖像	1929年	油彩・キャンバス	91.0 × 73.0		
		F氏像	1934年	油彩・キャンバス	80.5 × 65.0		
		足柄より	1938年	油彩・キャンバス	45.7 × 53.5		
		婦人像	1945年	油彩・キャンバス	100.0 × 80.3		
		画室	1949年	油彩・キャンバス	116.7 × 90.9		
		夏	1950年	油彩・キャンバス	116.7 × 90.9		
		裸婦	1952年	油彩・キャンバス	100.0 × 80.3		
		夏の庭	1964年	油彩・キャンバス	116.5 × 91.0		
		坐裸婦	1965年	油彩・キャンバス	130.5 × 97.0		
		2階展示室／絵画	中村研一	自画像	1958年	油彩・キャンバス	73.0 × 61.0
				静物	1955年	油彩・キャンバス	45.5 × 53.0
				台北風景	1962年	油彩・キャンバス	45.5 × 53.0
				海水浴	制作年不詳	油彩・キャンバス	31.8 × 40.9
				家居	1945年	油彩・キャンバス	33.5 × 24.5
				裸婦	1952年	油彩・キャンバス	38.0 × 45.5
				静物	1950年	油彩・キャンバス	31.8 × 41.0
				自画像	制作年不詳	墨・紙	30.0 × 23.0
				婦人像	制作年不詳	墨・紙	35.0 × 25.0
				ミカン摘み	制作年不詳	墨・紙	35.0 × 29.0
				風景	制作年不詳	墨・紙	16.0 × 18.0
港	制作年不詳			墨・紙	24.0 × 30.0		
筆立て	制作年不詳			墨・紙	24.0 × 17.0		
コタバルの女	1942年			水彩、コンテ・紙	24.0 × 17.0		
刺繍	制作年不詳			水彩・紙	37.0 × 25.0		
残雪	制作年不詳			水彩・紙	30.0 × 31.0		
室内図 (居室兼茶の間兼画室兼書斎図)	1930年頃			墨、水彩・紙	53.0 × 45.5		
／陶器	中村研一			瀬戸黒 桃形	1950年頃以降	陶	
				大樋 桃形	1950年頃以降	陶	
				信楽 半筒形 (銘初雪)	1950年頃以降	陶	
				信楽 半筒形 (銘君が代)	1959年	陶	
		九谷 うつぎ図半筒形	1950年頃以降	陶			
		志野 熊川形	1950年頃以降	陶			
		備前 半筒形	1950年頃以降	陶			
		備前 半筒形	1950年頃以降	陶			
		備前 半筒形	1950年頃以降	陶			
		信楽 杵形	1950年頃以降	陶			
		九谷 牡丹図大皿	1950年頃以降	陶			
		備前 角形水指	1950年頃以降	陶			
		備前 足付深鉢	1950年頃以降	陶			
		出雲 羊歯図大皿	1950年頃以降	陶			
		九谷 菊図丸皿	1950年頃以降	陶			
		九谷 薔薇図丸皿	1950年頃以降	陶			
		瀬戸 野菜図丸皿	1950年頃以降	陶			
		瀬戸 蘭花図飾皿	1951年	陶			
		瀬戸 蘭図絵付飾皿	1950年頃以降	陶			
		瀬戸 レモン図絵付飾皿	1950年頃以降	陶			
		出雲 うまたで図大皿	1950年頃以降	陶			
		出雲 夫人像飾皿	1954年	陶			
		信楽 透し入り角深皿	1950年頃以降	陶			
		裸婦図丸皿	1950年頃以降	陶			
		出雲 猫面取手付壺	1950年頃以降	陶			
		瀬戸 パイプ図絵付灰皿	1950年頃以降	陶			

企画展



3 中村研一回顧展

会 期：平成 18 年 10 月 7 日 (土) ～ 11 月 26 日 (日)

会 場：1 階展示室

開催日数：44 日

観覧料：一般 600 円、小中学生 300 円

※未就学児、障害者手帳をご提示の方および付添者 1 名は無料

入場者数：1,402 人

一日平均：31 人

出品点数：30 点 (2 階展示室 29 点)

担 当：横田佳世

協 力：東京藝術大学大学美術館、東京国立近代美術館、目黒区美術館、横浜美術館

印刷物：〔ポスター〕 B2 判カラー、〔チラシ〕 A4 判両面 (カラー / 1 色)

〔カタログ〕 A4 判 52 頁

開催趣旨

大正から昭和にかけて、画壇の重鎮として活躍した洋画家・中村研一 (1895～1967) の生涯を、時代の流れと各時期の主要作品を中心に振り返った。画風の変遷と、作家が生涯をかけた「観たものを描く」ことの意味に注目した。

1 階展示室にて、当館所蔵作品を中心に、東京藝術大学大学美術館、目黒区美術館、横浜美術館、東京国立近代美術館などが所蔵する作品 7 点を含む、油彩画 30 点で中村の画業を回顧した。展示構成は、①東京美術学校卒業から渡欧前、②渡欧中から戦前まで、③戦争画および戦時中に描かれた作品、④戦後の 4 ブロックに分け、作品を展示した。

関連事業

(1) オープニングセレモニー

日時：平成 18 年 10 月 7 日 (土) 9:00～9:50

会場：1 階展示室

(2) ギャラリートーク

会期中 5 回実施

関連記事

(1) 新聞

「中村研一氏の画業回顧 小金井」『読売新聞』、2006 年 10 月 12 日

(2) 雑誌

「中村研一回顧展開催中」『ミセス』No. 622、2006 年 11 月号、文化出版局

[作品リスト]

中村研一回顧展 会期 平成 18 年 10 月 7 日 (火) ~ 11 月 26 日 (日)

	作者	題名	制作年	材質・技法	寸法 (cm)	所蔵	
1 階展示室 / I. 東京美術学校 卒業から渡欧まで	中村研一	自画像	1920 年	油彩・キャンバス	59.7 × 44.7	東京藝術大学大学美術館	
		風景	1920 年頃	油彩・板	53.0 × 65.0		
		山本ヒロ像	1920 年	油彩・キャンバス	63.5 × 56.0		
		K 氏夫人像	1922 年	油彩・キャンバス	53.0 × 45.5		
	II. 渡欧中から 戦前まで		フランス風景 (滞欧作)	1923 年	油彩・キャンバス	60.5 × 50.0	
			花 (滞欧作)	1924 年	油彩・キャンバス	51.8 × 44.2	
			ジャンヌ・マリー・ ジャクレーの肖像	1924 年	油彩・キャンバス	65.3 × 54.2	横浜美術館 (寄託作品)
			モレー風景	1923 年 ~ 28 年頃	油彩・キャンバス	60.5 × 50.0	目黒区美術館
			フランス婦人像 (滞欧作)	1928 年	油彩・キャンバス	60.5 × 50.0	
			中村正奇氏の肖像	1929 年	油彩・キャンバス	91.0 × 73.0	
			菊花	1930 年	油彩・板	38.0 × 56.0	個人蔵
			F 氏像	1934 年	油彩・キャンバス	80.5 × 65.0	
	III. 戦時中		アデン	1937 年	油彩・キャンバス	45.5 × 53.0	
			足柄より	1938 年	油彩・キャンバス	45.7 × 53.5	
			北京	1940 頃	油彩・キャンバス	22.0 × 27.3	
			タサファロンダ (ガダルカナルに於ける陸海共同作戦図)	1944 年	油彩・キャンバス	187.0 × 301.0	東京国立近代美術館 (無期限貸与)
			コタ・バル B	1944 年	油彩・キャンバス	130.0 × 162.0	東京国立近代美術館 (無期限貸与)
			田園	1945 年	油彩・キャンバス	38.0 × 45.5	
			縫物	1945 年	油彩・キャンバス	45.5 × 37.9	
	IV. 戦後から 晩年まで		婦人像	1945 年	油彩・キャンバス	100.0 × 80.3	
		マラヤの装い	1946 年	油彩・キャンバス	90.5 × 71.7	東京藝術大学大学美術館	
		画室	1949 年	油彩・キャンバス	116.7 × 90.9		
		夏	1950 年	油彩・キャンバス	116.7 × 90.9		
		室内	1957 年	油彩・キャンバス	116.7 × 90.9		
		花	1960 年	油彩・キャンバス	91.0 × 72.8		
		早春	1962 年	油彩・キャンバス	91.0 × 73.0		
		夏の庭	1964 年	油彩・キャンバス	116.5 × 91.0		
		裸体	1964 年	油彩・キャンバス	91.0 × 116.6		
		坐裸婦	1965 年	油彩・キャンバス	130.5 × 97.0		
		バラ (絶筆)	1967 年	油彩・キャンバス	40.9 × 31.8		
2 階展示室 / 絵画		中村研一	コタバルの女	1942 年	水彩、黒インク	24.0 × 17.0	
	モーリス・アスラン	裸婦	1927 年頃	水彩	32.0 × 24.0		
	藤島武二	婦人像	制作年不詳	鉛筆、パステル	33.0 × 27.0		
	岡田三郎助	青墨風 素描・水辺	制作年不詳	墨	21.0 × 30.5		
	中村研一	徐州	1940 年	水彩、鉛筆	24.0 × 34.0		
		マラヤの装い	1946 年頃	墨	36.0 × 27.0		
	岡田三郎助	風景スケッチ	制作年不詳	鉛筆	18.0 × 25.0		
	中村研一	バラ	1965 年	油彩・キャンバス	80.5 × 65.5		
		自画像	1958 年	油彩・キャンバス	73.0 × 61.0		
	石井拍亭	朝の雲	1955 年	油彩・キャンバス	15.0 × 21.0		
	中村琢二	江ノ浦	1974 年	油彩・キャンバス	36.0 × 45.0		
	辻永	タテ科	1938 年	油彩・板	24.3 × 33.4		
	岡田三郎助	風景	制作年不詳	油彩・キャンバス	13.0 × 22.0		
	中村研一	果物	制作年不詳	墨、水彩	37.0 × 43.0		
	藤田嗣治	研一猫	制作年不詳	水彩	30.0 × 20.0		
	中村研一	富子猫	制作年不詳	水彩	23.0 × 23.0		
		猫	制作年不詳	墨	35.0 × 22.0		
		タバコ具	制作年不詳	墨	14.0 × 20.0		
		静物	1955 年	油彩・キャンバス	45.5 × 53.0		
	/ 陶器	中村研一	九谷うつぎ図半筒形	1950 年頃以降	陶		
		備前角形水指	1950 年頃以降	陶			
		出雲取手付猫面壺	1950 年頃以降	陶			
		出雲羊頭付浅皿	1950 年頃以降	陶			
		出雲雉頭付浅皿	1950 年頃以降	陶			
		出雲鶏頭付浅皿	1950 年頃以降	陶			
		出雲うまたで図大皿	1950 年頃以降	陶			
		出雲夫人像鉢皿	1950 年頃以降	陶			
		出雲合歡図深皿	1950 年頃以降	陶			
		備前透し入り深鉢	1950 年頃以降	陶			



4 アートって何?

会 期：平成 18 年 12 月 8 日（金）～ 12 月 10 日（日）

会 場：1 階展示室

開催日数：3 日

観覧料：無料

入場者数：218 人

一日平均：72 人

出品点数：10 点

担 当：横田佳世

助 成：多摩・島しょ子ども体験塾市町村助成金

印刷物：〔チラシ〕 A4 判片面（カラー）



開催趣旨

平成 18 年 9 月の毎週土曜日に、小学 4 年生を対象とする様々なワークショップを実施（全 4 回）、その際に制作した子どもたちが作品を、ワークショップ講師として指導した現代美術作家の手で、美術館 1 階展示室に再構築し、展示した。子どもたちの作品が新たな美術作品に変貌する様子を、子どもたち自身が目の当たりにすることで、現代アートを身近に感じ、楽しんでもらうことを期待した。

関連事業

(1) ワークショップ「アートって何?」 ※市内小学校 4 年生対象

学生ボランティア：東京学芸大学、東京工学院専門学校

①音に向かうこと・出会うこと～自然素材とエレクトロニクスで遊ぶ～

日時：平成 18 年 9 月 2 日（土）10:00～17:00

講師：多田正美（フォト・サウンドアーティスト）

②じぶんがいた場所～いつも歩く道、ひみつ基地、自分のテリトリーにじぶんの「あと」を残そう～

日時：平成 18 年 9 月 9 日（土）10:00～17:00

講師：吉澤美香（画家）

③ 10 年後のわたし～君がぼくを写す。わたしが君を写す。そこに 10 年後のわたしたちがいる。

10 年後のその時に、ひとりひとりが君たちに伝える言葉を捜す～

日時：平成 18 年 9 月 16 日（土）10:00～17:00

講師：松下誠子（画家）

④大きな写真～巨大化した写真から何がみえる?～

日時：平成 18 年 9 月 30 日（土）10:00～17:00

講師：柴田敏雄（写真家）

関連記事

(1) 新聞

「現代美術って楽しい 小金井市立はけの森美術館 小学生がオブジェ作り」『読売新聞』、平成 18 年 9 月 15 日付



5 Art-Full アート湧くはけの森

会 期：平成 18 年 12 月 16 日（土）～平成 19 年 2 月 12 日（月）

会 場：1 階展示室

開催日数：46 日

観覧料：一般 600 円、小中学生 300 円

※未就学児、障害者手帳をご提示の方および付添者 1 名は無料

入場者数：1,164 人

一日平均：25 人

出品点数：21 点（2 階展示室 26 点）

協 賛：キヤノン株式会社

ゲストキュレーター：双ギャラリー 塚本豊子

ゲストエディター：岡衡平（高麗博物館企画担当）、塚本瑞恵（双ギャラリー）

協 力：双ギャラリー、M.I. スタジオ、東京学芸大学デザイン研究室、
東京工学院専門学校

担 当：横田佳世

印刷物：〔ポスター〕B2 判カラー、〔チラシ〕A4 判両面（カラー）、
〔カタログ〕B5 横判 52 頁（カラー）



開催趣旨

ワークショップと展示による「アートって何？」に関わった 4 人の現代美術作家、多田正美、松下誠子、柴田敏雄、吉澤美香の作品展。共通のテーマは設定せず、作家たちはそれぞれの作品を独自の的方法論で制作した。また 4 人の作品を展示するだけでなく、「アートって何？」の際の子どもワークショップの映像を上映し、「アートって何？」展の記録を閲覧できるようにした。作家の手法、思考の様子をなぞりながら、難解で縁遠い存在と思われがちな現代美術を体感し、子どもから大人まで幅広い鑑賞者が、視覚、聴覚を存分に使い、「観る力」「感じとる心」を養う場となることを期待した。

関連事業

(1) 内覧会

平成 18 年 12 月 15 日（金）18:00～19:30

(2) ギャラリートーク

日時：平成 18 年 12 月 23 日（土）、平成 19 年 1 月 28 日（日）14:00～

平成 18 年 1 月 13 日（土）、2 月 4 日（日）11:00～

担当：当館学芸員、学生ボランティア（東京学芸大学、東京工学院専門学校）

(3) パフォーマンス「サウンド・エンカウンター」

日時：平成 19 年 1 月 20 日（土）14:00～

講師：多田正美（フォトサウンドアーティスト）

[作品リスト]

Art-Full アート湧くはけの森 会期 平成 18 年 12 月 16 日 (土) ~ 平成 19 年 2 月 12 日 (月)

	作者	題名	制作年	材質・技法等	作品サイズ等	
1 階展示室	多田正美 TADA Masami	# 20061029 - A	2006 年	レーザープリント	120 × 180cm	
		# 20061029 - B	2006 年	レーザープリント	120 × 180cm	
		# 20061029 - C	2006 年	レーザープリント	120 × 180cm	
		# 20061029 - D	2006 年	レーザープリント	120 × 80cm	
		# 20061029 - E	2006 年	レーザープリント	120 × 80cm	
		works20051125 I	2005 年	DVD	24' 59"	
		works20051125 II	2005 年	DVD	24' 59"	
			Untitled 20060805	2006 年	DVD	12' 00"
	柴田敏雄 SHIBATA Toshio	NOMUGI	2004 年	ゼラチンシルバープリント	92.7 × 114.8cm	
		# 3056-4-5	2005 年	ゼラチンシルバープリント	83 × 207cm	
		# 516 東京西多摩郡奥多摩町	2006 年	タイプC プリント	100 × 125cm	
		# 581 青森県黒石市	2006 年	タイプC プリント	100 × 125cm	
	吉澤美香 YOSHIZAWA Mika	を - 67	2004 年	アクリル、グワッシュ・合成紙	218 × 158cm	
		を - 72	2004 年	アクリル、グワッシュ・合成紙	109 × 158cm	
		わ - 19	2006 年	アクリル、グワッシュ・合成紙	158 × 218cm	
		わ - 45	2006 年	アクリル、グワッシュ・合成紙	300 × 228cm	
	松下誠子 MATSUSHITA Seiko	庭 # 1	2005 年	Ekitacolour print	103.5 × 144.5cm	
		庭 # 2	2005 年	Ekitacolour print	103.5 × 144.5cm	
		河 # 1	2006 年	Ekitacolour print	96.5 × 144.5cm	
		channel # 1	2006 年	紙に写真、木炭、パステル	86.7 × 121.7cm	
		channel # 2	2006 年	紙に写真、木炭、パステル	86.7 × 121.7cm	
channel # 3		2006 年	紙に写真、木炭、パステル	86.7 × 121.7cm		
2 階展示室 / 絵画	中村研一	食卓	制作年不詳	墨	26.0 × 35.0cm	
		裸婦	制作年不詳	水彩	33.0 × 25.0cm	
		裸婦	制作年不詳	水彩	25.0 × 33.0cm	
		果物	制作年不詳	水彩、墨	26.0 × 39.0cm	
		画室	制作年不詳	水彩	43.0 × 35.0cm	
		バンジー	制作年不詳	水彩	33.0 × 34.0cm	
		天女児	制作年不詳	ペン	18.0 × 19.0cm	
		花	制作年不詳	水彩、墨	48.0 × 36.0cm	
		チューリップ	制作年不詳	水彩	52.0 × 36.0cm	
		朝食卓	制作年不詳	水彩、コンテ	50.0 × 33.0cm	
		バラ	制作年不詳	水彩、墨	52.0 × 36.0cm	
		静物	制作年不詳	水彩、墨	32.0 × 24.0cm	
		役者	制作年不詳	墨	25.0 × 30.0cm	
		猫	制作年不詳	墨	34.0 × 25.0cm	
		夏庭	1963 年	油彩・キャンバス	80.5 × 65.3cm	
		花	1950 年	油彩・キャンバス	60.7 × 50.0cm	
	/ 陶器	中村研一	出雲 薔薇図カップ	1950 年頃以降	陶	
			出雲 人面図取手壺	1950 年頃以降	陶	
			出雲 羊歯図 深皿	1950 年頃以降	陶	
			出雲 ドンキホーテ図深皿	1950 年頃以降	陶	
			出雲 自画像 飾皿	1950 年頃以降	陶	
出雲 夫人像 飾皿			1950 年頃以降	陶		
瀬戸 羊図 飾皿			1950 年頃以降	陶		
瀬戸 裸婦図 飾皿			1950 年頃以降	陶		
九谷 菊図 丸皿			1950 年頃以降	陶		
九谷 薔薇図 丸皿			1950 年頃以降	陶		

平成 19 (2007) 年度

所蔵作品展



- 6 2007年所蔵作品展Ⅱ～特集 中村研一の見た風景～
会期：平成19年6月26日(火)～9月30日(日)
会場：1階・2階展示室
開催日数：84日
観覧料：一般200円、小中学生100円
※未就学児、障害者手帳をご提示の方および付添者1名は無料
入場者数：2,003人
一日平均：23人
出品点数：75点(1階展示室33点、2階展示室42点)
担当：松山ひとみ、奥友絵里子
印刷物：〔チラシ〕A4判両面(カラー／1色)、〔ポスター〕B2判(カラー)、
〔リーフレット〕A3二ツ折両面(1色)

開催趣旨

画家の目によってとらえられ、描かれることによって立ち現われる「自然の風景」。「絵は自然を見ながら描くけれども、自分個のものをこしらえている」と語る中村研一の絵は、写真のようなリアルを目指したものではないが、「自分個のもの」としての目に映る風景を表現している。

1階展示室は、油彩、水彩などの主要な風景画、特に水辺の風景や、小金井の自宅の庭などを描く夏らしい作品を集めたテーマ展示と、初期から晩年まで、中村の画業を概観する常設展示コーナーの2部構成とした。2階展示室は陶器や中村の遺品を中心に展示を構成し、多彩な制作活動を紹介した。また併せて「小特集 戦争の記録」コーナーを設置し、戦争画制作にあたり描かれたエスキースや素描を展示した。

関連事業

- (1) 窓から見た風景～風景画を描こう！～
日時：平成19年8月4日(土) 10:00～15:00
8月23日(木) 10:00～12:00、13:30～15:30
場所：2階会議室、「美術の森」緑地、都立武蔵野公園
- (2) ギャラリートーク
会期中19回実施

主要関連記事

新聞
「アート de 多摩 はけの森美術館小金井市 中村研一の名作そろえる」『定年時代』、2007年9月下旬号

[作品リスト]

2007 年所蔵作品展Ⅱ ～特集 中村研一の見た風景～ 会期 平成 19 年 6 月 26 日 (火) ～ 9 月 30 日

	作者	題名	制作年	材質・技法	寸法 (cm)		
1 階展示室 (特集) 中村研一の 見た風景	中村研一	フランス風景	1923 年	油彩・キャンバス	60.5 × 50.0		
		足柄より (アデン)	1937 年	油彩・キャンバス	45.5 × 53.0		
		ゴルフ場	1942 年	油彩・キャンバス	45.5 × 53.0		
		宿泊先	1942 年	油彩・キャンバス	45.0 × 53.0		
		海に見える庭	1943 年	油彩・キャンバス	45.5 × 53.0		
		田園	1945 年	油彩・キャンバス	38.0 × 45.5		
		戸隠	1952 年	油彩・キャンバス	38.0 × 45.5		
		台北風景	1962 年	油彩・キャンバス	45.5 × 53.0		
		夏庭	1963 年	油彩・キャンバス	80.5 × 65.3		
		木陰	1963 年	油彩・キャンバス	91.0 × 116.5		
		夏の庭	1964 年	油彩・キャンバス	116.5 × 91.0		
		海水浴	制作年不詳	油彩・キャンバス	31.8 × 40.9		
		別子銅山	1940 年	墨・水彩・紙	26.0 × 35.0		
		パリ・カフェ	制作年不詳	墨・紙	19.0 × 22.0		
		戴冠式	制作年不詳	墨・紙	25.0 × 33.0		
		開封新民公園 (中国)	制作年不詳	鉛筆、水彩・紙	31.0 × 43.0		
		仙石原	制作年不詳	墨・紙	42.0 × 62.0		
		水田	制作年不詳	墨・紙	22.0 × 30.0		
		日ノ出	制作年不詳	墨・紙	23.0 × 30.0		
		庭 (梅茶畑)	制作年不詳	墨、水彩・紙	49.0 × 32.0		
2 階展示室 / 絵画	中村研一	風景	1922 年	油彩・キャンバス	53.1 × 65.0		
		K 夫人肖像	1922 年	油彩・キャンバス	53.0 × 45.5		
		花 (滞欧作)	1924 年	油彩・キャンバス	51.8 × 44.2		
		フランス婦人像 (滞欧作)	1928 年	油彩・キャンバス	60.5 × 50.0		
		中村正奇氏の肖像	1929 年	油彩・キャンバス	91.0 × 73.0		
		F 氏像	1934 年	油彩・キャンバス	80.5 × 65.0		
		足柄より	1938 年	油彩・キャンバス	45.7 × 53.5		
		婦人像	1945 年	油彩・キャンバス	100.0 × 80.3		
		画室	1949 年	油彩・キャンバス	116.7 × 90.9		
		夏	1950 年	油彩・キャンバス	116.7 × 90.9		
		早春	1962 年	油彩・キャンバス	91.0 × 73.0		
		坐裸婦	1965 年	油彩・キャンバス	130.5 × 97.0		
		チューリップ	制作年不詳	水彩・紙	52.0 × 36.0		
		(小特集) 戦争の記録	中村研一	家居	1945 年	油彩・キャンバス	33.5 × 24.5
				静物	1955 年	油彩・キャンバス	45.5 × 53.0
自画像	1958 年			油彩・キャンバス	73.0 × 61.0		
婦人像	1963 年			油彩・キャンバス	100.5 × 81.0		
魚 あかふ	1946 年			水彩・紙	22.0 × 25.5		
小金井住家ノ図	1958 年			墨、水彩・紙	30.0 × 60.0		
猫	制作年不詳			墨・紙	34.0 × 25.0		
窓辺 (海)	制作年不詳			水彩・紙	24.0 × 35.0		
刺繍	制作年不詳			水彩・紙	37.0 × 25.0		
/ 陶器	中村研一			軍艦	1941 年	墨・紙	30.0 × 41.0
		飛行機	1941 年	墨・紙	25.5 × 35.5		
		コタバルの女	1942 年	水彩、コンテ・紙	24.0 × 17.0		
		戦争画 (「コタ・バル」 のエスキース)	1943 年	墨・紙	28.0 × 38.5		
		休息 (戦争画のエスキース)	制作年不詳	鉛筆、水彩・紙	24.7 × 34.8		
		戦争画 (「ソロモン海戦図」 のエスキース)	制作年不詳	水彩・紙	24.8 × 34.7		
		基地	制作年不詳	淡彩・紙	39.0 × 50.0		
		瀬戸黒 桃形	1950 年頃以降	陶			
		大樋 桃形	1950 年頃以降	陶			
		信楽 半筒形 (銘初雪)	1950 年頃以降	陶			
信楽 半筒形 (銘君が代)	1959 年	陶					
九谷 うつぎ図半筒形	1950 年頃以降	陶					
志野 熊川形	1950 年頃以降	陶					
備前 半筒形	1950 年頃以降	陶					
備前 半筒形	1950 年頃以降	陶					
備前 半筒形	1950 年頃以降	陶					
信楽 杏形	1950 年頃以降	陶					
九谷 牡丹図大皿	1950 年頃以降	陶					
備前 角形水指	1950 年頃以降	陶					
備前 足付深鉢	1950 年頃以降	陶					
出雲 羊歯図大皿	1950 年頃以降	陶					
九谷 菊図丸皿	1950 年頃以降	陶					
九谷 薔薇図丸皿	1950 年頃以降	陶					
瀬戸 野菜図丸皿	1950 年頃以降	陶					
瀬戸 蘭花図飾皿	1951 年	陶					
瀬戸 蘭図絵付飾皿	1950 年頃以降	陶					
瀬戸 レモン図絵付飾皿	1950 年頃以降	陶					
出雲 うまたで図大皿	1950 年頃以降	陶					
出雲 夫人像飾皿	1954 年	陶					
信楽 透し入り角深皿	1950 年頃以降	陶					
裸婦図丸皿	1950 年頃以降	陶					
出雲 猫面取手付壺	1950 年頃以降	陶					
瀬戸 バイブ図絵付灰皿	1950 年頃以降	陶					



7 2008年所蔵作品展Ⅰ 館藏品にみる 中村研一、人と芸術

会 期：平成20年3月29日（土）～6月1日（日）

会 場：1階・2階展示室

開催日数：56日

観覧料：一般200円、小中学生100円

※未就学児、障害者手帳をご提示の方および付添者1名は無料

入場者数：1,390人

一日平均：24人

出品点数：73点（1階展示室36点、2階展示室37点）

担 当：松山ひとみ

印刷物：〔チラシ〕A4判両面（カラー）、〔ポスター〕B2判（カラー）、
〔リーフレット〕B4二ツ折両面（2色／1色）



開催趣旨

洋画家・中村研一は、戦後、アトリエと住居を小金井の地に築いた。本展では妻をモデルにした婦人像や裸婦など、当館コレクションの主軸である中村研一後期の簡明でのびやかな油彩作品と、1950年代から始めた陶芸を中心に、中村の人と芸術を振り返った。

1階展示室では、戦前の作品と、戦後小金井に移住してからの油彩と素描を、年代を追って展示した。さらに、当館が所蔵する中村旧知の画家たちの作品も併せて紹介することで、中村の交遊関係を視覚化した。2階展示室では、陶器下絵、陶器を中心に、風景や静物をテーマとした素描作品も、併せて展示した。中村研一の画風変遷、また幅広い分野にわたる創作活動など、立体的に紹介した。

関連事業

(1) ミュージアムツアー

日時：平成19年5月24日（土）13:30～14:30

5月25日（日）13:30～14:30

担当：当館学芸員

(2) ギャラリートーク

会期中6回実施

【作品リスト】

2008年所蔵作品展Ⅰ 館蔵品にみる 中村研一、人と芸術 会期 平成20年3月29日(土)～6月1日(日)

	作者	題名	制作年	材質・技法	寸法 (cm)		
1階展示室	中村研一	風景	1922年	油彩・キャンバス	53.0×65.0		
		K夫人肖像	1922年	油彩・キャンバス	53.0×45.5		
	長原孝太郎	農家	1918年	油彩・板	23.0×32.0		
	岡田三郎助	風景	制作年不詳	油彩・キャンバス	13.0×22.0		
	藤島武二	婦人像	制作年不詳	鉛筆、パステル・紙	33.0×27.0		
	中村研一	フランス風景	1923年	油彩・キャンバス	60.5×50.0		
	モーリス・アスラン	無題(裸婦)	1927年頃	水彩・紙	32.0×24.0		
	中村研一	フランス婦人像	1928年	油彩・キャンバス	60.5×50.0		
		中村正奇氏の肖像	1929年	油彩・キャンバス	91.0×73.0		
		足柄より(アデン)	1937年	油彩・キャンバス	45.5×53.0		
		戴冠式	1937年	墨・紙	25.0×33.0		
		戴冠式	1937年	墨・紙	18.0×26.0		
		コタバルの女	1942年	水彩、コンテ・紙	24.0×17.0		
		「コタ・バル」のエスキース	1943年?	墨・紙	28.0×38.5		
		「コタ・バル」のエスキース	1943年?	墨・紙	29.0×40.0		
		田園	1945年	油彩・キャンバス	38.0×45.5		
		画室	1949年	油彩・キャンバス	116.7×90.9		
		裸婦	1952年	油彩・キャンバス	100.0×80.3		
		室内	1957年	油彩・キャンバス	116.7×90.9		
		石井柏亭	朝の雲	1955年	油彩・キャンバス	15.0×21.0	
		辻 永	蓼子の秋	1936年	油彩・キャンバス	24.3×33.4	
	南 薫造	熟麦庵見取図	1949年	墨、水彩・紙	33.5×33.5		
	中村研一	小金井住家ノ図	1958年	墨、水彩・紙	30.0×60.0		
		自画像	1958年	油彩・キャンバス	73.0×61.0		
	中澤弘光	島原大夫(雪の追憶エスキース)	1929年	油彩・板	28.0×22.5		
	中村琢二	江ノ浦	1974年	油彩・キャンバス	36.0×45.0		
	村岡平蔵	風景	1977年	油彩・キャンバス	38.0×45.5		
	中村研一	早春	1962年	油彩・キャンバス	91.0×73.0		
		婦人像	1963年頃	油彩・キャンバス	100.5×81.0		
		花	1960年	油彩・キャンバス	91.0×72.8		
		夏庭	1963年	油彩・キャンバス	80.5×65.3		
		静物	1959年	油彩・キャンバス	53.0×45.5		
	藤田嗣治	白猫	制作年不詳	木版	31.0×44.0		
		研一猫	制作年不詳	水彩・紙	30.0×20.0		
	中村研一	富子猫	制作年不詳	水彩・紙	23.0×23.0		
		バラ(絶筆)	1967年	油彩・キャンバス	40.9×31.8		
	2階展示室/素描	中村研一	パンジー	制作年不詳	墨、水彩・紙	33.0×34.0	
			花	制作年不詳	墨、水彩・紙	48.0×36.0	
			九谷半筒形茶碗下図(うつぎ)	制作年不詳	墨、水彩・紙	29.0×30.0	
			開封新民公園(中国)	制作年不詳	鉛筆、水彩・和紙	31.0×43.0	
パリ・カフェ			制作年不詳	墨・紙	19.0×22.0		
ベランダ			制作年不詳	墨、水彩・紙	43.0×33.0		
四阪島 灯台			制作年不詳	鉛筆、水彩・紙	26.0×34.0		
中禅寺湖			1958年	鉛筆、水彩・紙	29.0×40.0		
自画像			制作年不詳	墨、クレパス・紙	33.0×24.0		
チューリップ			制作年不詳	水彩・紙	52.0×36.0		
/陶器			中村研一	九谷 半筒形うつぎ図	制作年不詳	陶	
				九谷 大皿牡丹図	制作年不詳	陶	
	九谷 丸皿花図	制作年不詳		陶			
	出雲 大皿羊歯図	制作年不詳		陶			
	九谷 碗形藤ノ絵	制作年不詳		陶			
	志野 熊川形	制作年不詳		陶			
	信楽 沓形	制作年不詳		陶			
	信楽 半筒形(銘君が代)	1959年		陶			
	瀬戸 パイプ図絵付灰皿	制作年不詳		陶			
	備前 半筒形	制作年不詳		陶			
	瀬戸黒 筒形	制作年不詳		陶			
	大樋 桃形	制作年不詳		陶			
	瀬戸黒 桃形	制作年不詳		陶			
	出雲 深皿ドンキホーテ図	制作年不詳		陶			
	備前 (水指)	制作年不詳		陶			
	出雲 取手付壺	1954年		陶			
	出雲 取手付猫面壺	制作年不詳		陶			
	出雲 浅皿羊頭付	制作年不詳		陶			
	出雲 浅皿雉頭付	制作年不詳		陶			
	出雲 浅皿鶏頭付	制作年不詳		陶			
	出雲 カップ薔薇図	制作年不詳		陶			
	備前 カップ	制作年不詳		陶			
	出雲 カップ	制作年不詳		陶			
	出雲 深皿合歓図	制作年不詳		陶			
	備前 深鉢透し入り	制作年不詳		陶			
	瀬戸 中皿鷹図	制作年不詳		陶			
	九谷 丸皿たんぼ図	制作年不詳		陶			

企画展



8 京都府立堂本印象美術館展

会 期：平成 19 年 10 月 23 日（火）～ 12 月 9 日（日）

会 場：1 階展示室

開催日数：42 日

観覧料：一般 500 円、小中学生 200 円

※未就学児、障害者手帳をご提示の方および付添者 1 名は無料

入場者数：1,811 人

一日平均：43 人

出品点数：24 点（2 階展示室 42 点）

企画協力：京都府立堂本印象美術館

協 力：東京学芸大学デザイン研究室

担 当：松山ひとみ

印刷物：〔ポスター〕 B2 判カラー、〔チラシ〕 A4 判両面（カラー）、〔リーフレット〕
A5 判三ツ折（2 色／1 色）



開催趣旨

中村研一と同時代を生きた堂本印象（1891～1975）は、官展を中心に京都画壇で活躍した日本画家であり、当館所蔵の中村研一宛書簡からは両者の交流が窺われる。京都府立堂本印象美術館の所蔵作品により、関東では大々的に紹介される機会の少ない印象の芸術を概観し、紹介することを試みた。堂本印象美術館は、1939年に印象によって、自身の作品を展示する私立美術館として設立された。その後、美術館と所蔵作品が京都府に寄贈され、平成4年に公立美術館となった。すなわち、画家同士の交流に留まらず、堂本印象美術館は開館の経緯からして当館との共通点が多い。このような点に着目し、美術館の活動・理念に関する情報を併せて紹介することで、小規模ながら個性ある美術館の面白さ、美術館の多様な在り方について考える機会とした。

展示の構成としては、半世紀に渡る画業において様々に画風を変貌させた印象の作品を、①初期作品、②西洋への接近、③新造形への道、④京都府立堂本印象美術館という4部に分けた。また、印象自身や堂本印象美術館について、写真パネルで紹介するコーナーを設けた。2階展示室は所蔵作品から中村研一による油彩、素描、陶器下絵、陶器などを年代別に紹介した。

関連事業

(1) 公開シンポジウム「小さな美術館からの声～市民と歩む今とこれから～」

日時：平成 19 年 11 月 11 日（日）13:30～15:30

会場：小金井市民会館 「萌え木ホール」

講師：守安美栄（世田谷美術館学芸員）、村山万介（台東区立朝倉彫塑館学芸員）、田中淳（東京文化財研究所美術部黒田記念近代現代美術研究室室長）、鈴木廣之（東京学芸大学教授）、薩摩雅登（東京藝術大学大学美術館教授、小金井市立はげの森美術館学芸顧問）

(2) ギャラリートーク

会期中 4 回実施

主要関連記事

(1) 新聞

「what's ON ARTS はけの森美術館では 19 世紀初めに賞賛を受けた日本画家の堂本印象の仕事を紹介」『ジャパン・タイムズ』、2007 年 11 月 8 日

(2) 雑誌

「《バックシートから》小さいことはいいことだ 一個人美術館をめぐる」『あいだ』No. 142、2007 年 11 月

(3) 放送

「新日曜美術館」アートシーン（NHK エデュケーショナル、2007 年 12 月 2 日放送）

[作品リスト]

京都府立堂本印象美術館展 会期 2007年10月23日(火)～12月9日(日)

	作者	題名	制作年	材質・技法	寸法 (cm)	所蔵
1階展示室／ I. 初期作品 (大正から昭和に かけて)	堂本印象	深草	1919年	絹本着色、二曲一隻	166.0 × 184.0	京都府立堂本印象美術館
		春	1927年	絹本着色、二曲一隻	166.0 × 184.0	京都府立堂本印象美術館
		洛北の家	1919年	絹本着色	129.0 × 42.0	京都府立堂本印象美術館
		春泥	1922年	絹本着色	55.0 × 59.0	京都府立堂本印象美術館
		月裡	1922年	絹本着色	50.0 × 59.0	京都府立堂本印象美術館
		蘇州の家	1922年	絹本着色	134.0 × 42.0	京都府立堂本印象美術館
		柳燕図	1932年	紙本淡彩	26.0 × 72.0	京都府立堂本印象美術館
II. 西洋への接近	堂本印象	或る家族	1949年	紙本着色	120.0 × 164.0	京都府立堂本印象美術館
		少女の佳江像	1950年	紙本着色	52.0 × 52.0	京都府立堂本印象美術館
		カナル サンマルタン	1954年	紙本着色	56.0 × 58.0	京都府立堂本印象美術館
		白いレースの女	1954年	紙本着色	54.0 × 52.0	京都府立堂本印象美術館
		パッシーの家	1957年	紙本着色	45.0 × 51.0	京都府立堂本印象美術館
		厨房	1960年	紙本着色	57.0 × 42.0	京都府立堂本印象美術館
		金の水瓶	1960年	紙本着色	46.5 × 55.0	京都府立堂本印象美術館
III. 新造形	堂本印象	無明	1957年	紙本着色	145.0 × 165.0	京都府立堂本印象美術館
		無間知覚	1960年	紙本着色	160.5 × 129.0	京都府立堂本印象美術館
		浄穢	1957年	紙本着色	160.0 × 130.0	京都府立堂本印象美術館
		久遠発酵	1964年	紙本着色	160.0 × 128.0	京都府立堂本印象美術館
		解脱垠	1967年	紙本着色	160.0 × 130.0	京都府立堂本印象美術館
		喪失と体得	1963年	紙本墨彩	46.5 × 55.0	京都府立堂本印象美術館
IV. 京都府立堂本 印象美術館 (資料展示)	堂本印象	高山右近(下絵) 大阪玉造教会 壁画下絵	1962年	紙本着色	52.0 × 42.0	京都府立堂本印象美術館
		細川ガラシャ夫人(下絵) 大阪玉造教会 壁画下絵	1962年	紙本着色	52.0 × 42.0	京都府立堂本印象美術館
		雷神(小下絵) 竹林寺書院 襖絵下絵	1963年	鉛筆、墨、着色・紙	32.0 × 92.0	京都府立堂本印象美術館
		風神(小下絵) 竹林寺書院 襖絵下絵	1963年	鉛筆、墨、着色・紙	32.0 × 92.0	京都府立堂本印象美術館
その他	堂本印象	椅子2脚		木製		
2階展示室／油彩	中村研一	フランス風景	1923年	油彩・キャンバス	60.5 × 50.0	
		フランス婦人像(滞欧作)	1928年	油彩・キャンバス	60.5 × 50.0	
		足柄より(アデン)	1937年	油彩・キャンバス	45.5 × 53.0	
		自画像	1958年	油彩・キャンバス	73.0 × 61.0	
		花 [展示期間 10月23日-11月11日]	1960年	油彩・キャンバス	91.0 × 72.8	
		婦人像	1963年	油彩・キャンバス	100.5 × 81.0	
		バラ [展示期間 11月13日-12月9日]	1967年	油彩・キャンバス	40.9 × 31.8	
／素描	中村研一	猫	制作年不詳	墨・紙	35.0 × 22.0	
		カラージューム	制作年不詳	水彩・紙	42.0 × 34.0	
		食卓	制作年不詳	墨・羽根ペン・紙	26.0 × 35.0	
		ロブスター	制作年不詳	墨、淡彩・和紙	32.0 × 43.0	
		果物	制作年不詳	墨、水彩・紙	37.0 × 43.0	
		花	制作年不詳	墨、水彩・羽根ペン・紙	48.0 × 36.0	
		バンジー	制作年不詳	墨、水彩・紙	33.0 × 34.0	
		九谷焼大皿下図(カーネーション)	制作年不詳	コンテ、水彩・紙	56.0 × 45.0	
		九谷焼大皿下図(立田川)	制作年不詳	墨、水彩、クレヨン・紙	56.0 × 45.0	
		九谷半筒形茶碗下図(うつぎ)	制作年不詳	墨、水彩・紙	29.0 × 30.0	
		小金井住家ノ図	1958年	墨、水彩・紙	30.0 × 60.0	
		／陶器	中村研一	九谷 半筒形 うつぎ図	1950年頃以降	陶
九谷 大皿 牡丹図	1950年頃以降			陶		
備前 角形水指	1950年頃以降			陶		
九谷 飾皿 栗図	1950年頃以降			陶		
九谷 深鉢	1950年頃以降			陶		
九谷 丸皿 薔薇図	1950年頃以降			陶		
九谷 丸皿 菊図	1950年頃以降			陶		
瀬戸 絵付灰皿 パイプ図	1950年頃以降			陶		
備前 カップ	1950年頃以降			陶		
信楽 透し入り角深皿	1950年頃以降			陶		
瀬戸黒 桃形	1950年頃以降			陶		
信楽 半筒形(銘君が代)	1959年			陶		
備前 足付深鉢	制作年不詳			陶		
出雲 取手付壺	1954年			陶		
出雲 取手付猫面壺	制作年不詳			陶		
出雲 雉頭付浅皿	制作年不詳			陶		
出雲 羊頭付浅皿	制作年不詳			陶		
出雲 鶏頭付浅皿	制作年不詳			陶		
出雲 カップ 薔薇図	制作年不詳			陶		
出雲 深皿 果物図	制作年不詳			陶		
出雲 耳付角皿 鶏図	制作年不詳			陶		
出雲 耳付角皿 菓果図	制作年不詳			陶		
出雲 丸皿	制作年不詳			陶		

(4) ワークショップ

①大きな写真～巨大化した写真から何がみえる?～

日時：平成20年2月2日(土) 13:00～16:00

講師：柴田敏雄(写真家)

②音と宇宙／音あそび／音を作る(自然とエレクトロニクスを通して)

日時：平成20年3月15日(土) 14:00～16:30

講師：多田正美

(5) 鑑賞教室

対象：小金井市立小学校5校

(第二小学校、第四小学校、本町小学校、前原小学校、南小学校)の4年生(総数585人)

関連記事

(1) 新聞

三田晴夫「「CIRCULATION 天から 地から」展 時の絵を刻む視線」『毎日新聞』2008年2月19日夕刊

[作品リスト]

Art - Full II CIRCULATION 天から地から 会期 平成20年1月12日(土)～3月12日(水)

	作者	作品名	制作年	材質・技法等	寸法等		
1階展示室/第一室	多田正美	夜明け 070928.04:31:42am	2007年	カラープリント、油性ペン、ラミネート加工	180×120cm		
		朝 070623.04:39:07am	2007年	カラープリント、油性ペン、ラミネート加工	120×180cm		
		朝 070623.04:39:37am	2007年	カラープリント、油性ペン、ラミネート加工	120×180cm		
		朝の場に Still Time video & sound 20070623/04:23:05am (18'41")	2007年	映像、音声	18'41"		
	第二室	日中 070512.10:29:42am	2007年	カラープリント、油性ペン、ラミネート加工	70×105cm		
		日中 070512.10:35:22am	2007年	カラープリント、油性ペン、ラミネート加工	70×105cm		
		日中 070512.10:43:42am	2007年	カラープリント、油性ペン、ラミネート加工	70×105cm		
		日中 070512.10:44:59am	2007年	カラープリント、油性ペン、ラミネート加工	70×105cm		
	第三室	日中の場に Still Time video & sound 200706012/10:18:20(19'55"")	2007年	映像、音声	19'55"		
		夕方 070801.06:42:35am	2007年	カラープリント、エレクトリックドロワーイング	120×180cm		
		夕方 070801.06:45:32am	2007年	カラープリント、油性ペン、ラミネート加工	90×135cm		
		夕方 070801.06:47:37am	2007年	カラープリント、油性ペン、ラミネート加工	70×105cm		
		夕方 070801.06:53:13am	2007年	カラープリント、油性ペン、ラミネート加工	70×105cm		
		夕方 070801.06:58:34am	2007年	カラープリント、エレクトリックドロワーイング	90×135cm		
		夕方 070801.07:16:52am	2007年	カラープリント、エレクトリックドロワーイング	120×180cm		
		星光軌跡 070909.06:37:14am 夕方の場に Still Time video & sound 20070801/06:41:34pm(21'04"")	2007年	カラープリント、油性ペン、ラミネート加工 映像、音声	180×120cm 21'04"		
第一室	柴田敏雄	屏風 c-679 徳島県那珂郡那珂町	2007年	Archival Pigment Print、ラミネート加工	300×306cm		
		スクリーン c-880 埼玉県秩父市	2007年	Archival Pigment Print、ラミネート加工	240×300cm		
	第二室	c-469 長野県木曾郡王滝村	2005年	Archival Pigment Print	40×50インチ		
		c-473 長野県木曾郡王滝村	2005年	Archival Pigment Print	40×50インチ		
		c-543 山形県西置賜郡飯豊町	2006年	Archival Pigment Print	40×50インチ		
	第三室	c-646 埼玉県秩父市	2006年	Archival Pigment Print	40×50インチ		
		c-583 青森県平川市	2006年	Type-C Print	20×24インチ		
		c-619 長野県南佐久郡南牧村	2006年	Type-C Print	20×24インチ		
		c-649 埼玉県秩父市	2006年	Type-C Print	20×24インチ		
		c-693 高知県長岡郡本山町	2007年	Type-C Print	20×24インチ		
		c-728 愛媛県上浮穴郡久万高原町	2007年	Type-C Print	20×24インチ		
		c-787 群馬県高崎市	2007年	Type-C Print	20×24インチ		
		3点組みインスタレーション c -909_910_911 長野県南佐久郡佐久穂町	2007年	Archival Pigment Print、ラミネート加工	140×240cm		
		2階展示室/油彩	中村研一	花(滞欧作)	1924年	油彩・キャンバス	51.8×44.2cm
フランス婦人像(滞欧作)	1928年			油彩・キャンバス	60.5×50.0cm		
窓辺	1948年			油彩・キャンバス	45.5×53.0cm		
静物	1950年?			油彩・キャンバス	31.8×41.0cm		
裸婦	1951年頃			油彩・キャンバス	50.2×60.5cm		
自画像	1958年			油彩・キャンバス	73.0×61.0cm		
早春	1962年			油彩・キャンバス	91.0×73.0cm		
バラ(絶筆)	1967年			油彩・キャンバス	40.9×31.8cm		
/素描	中村研一			食卓	制作年不詳	墨、羽根ペン・紙	26.0×35.0cm
				人物	制作年不詳	茶コソテ	26.0×35.0cm
		歌劇	制作年不詳	墨	24.0×30.0cm		
		役者	制作年不詳	墨、羽根ペン	25.0×30.0cm		
		千両	制作年不詳	墨、ペン	32.0×23.0cm		
		日ノ出	制作年不詳	墨	23.0×30.0cm		
		松	制作年不詳	彩色・和紙	34.0×25.0cm		
		筍	制作年不詳	水彩・鉛筆	23.0×28.0cm		
		雪梅	制作年不詳	墨、ペン	25.0×33.0cm		
		静物(白菜)	制作年不詳	墨、水彩	30.0×23.0cm		
/陶器	中村研一	ストーブ	制作年不詳	墨、ペン	25.0×17.0cm		
		九谷半筒形茶碗下図(うつぎ)	制作年不詳	墨、水彩・紙	29.0×30.0cm		
		室内図(居室兼茶ノ間兼画室兼書斎図)	1930年	墨、水彩・ペン	26.5×35.5cm		
		九谷 半筒形 うつぎ図	制作年不詳	陶			
		九谷 大皿 牡丹図	制作年不詳	陶			
		九谷 香合 梅図	制作年不詳	陶			
		九谷 角皿 旦那様用	制作年不詳	陶			
		九谷 角皿 奥様用	制作年不詳	陶			
		大樋 桃形	制作年不詳	陶			
		瀬戸 絵付灰皿 パイプ図	制作年不詳	陶			
備前 カップ	制作年不詳	陶					
信楽 透し入り角深皿	制作年不詳	陶					
瀬戸黒 桃形	制作年不詳	陶					
備前 角形水指	制作年不詳	陶					
備前 丸紋皿	制作年不詳	陶					
備前 紐付偏平壺 蟹図	制作年不詳	陶					
信楽 半筒形(銘初雪)	制作年不詳	陶					
出雲 取手付猫面壺	制作年不詳	陶					
出雲 雉頭付浅皿	制作年不詳	陶					
出雲 羊頭付浅皿	制作年不詳	陶					
出雲 鶏頭付浅皿	制作年不詳	陶					
出雲 カップ 薔薇図	制作年不詳	陶					
出雲 耳付角皿 鶏図	制作年不詳	陶					
出雲 耳付角皿 菓図	制作年不詳	陶					
出雲 深皿 羊歯図	制作年不詳	陶					
出雲 丸皿	制作年不詳	陶					



10 「Art-Full」+子どもたち展

会期：平成20年3月14日（金）～3月16日（日）

会場：1階展示室

開催日数：3日

観覧料：一般600円、小中学生300円

※未就学児、障害者手帳をご提示の方および付添者1名は無料

入場者数：116人

一日平均：38人

企画：双ギャラリー 塚本豊子

担当：横田佳世

学生ボランティア：東京学芸大学、武蔵野美術大学

助成：芸術文化振興基金、多摩・島しょ子ども体験塾市町村助成金

開催趣旨

「Art-Full2 CIRCULATION 天から地から」展に関連して、小金井市内在住の小学4年生を対象に2月2日（土）・3月15日（土）の2日間、子どもワークショップを行った。ワークショップの際に出品作家2人と共に子どもたちが創りあげた作品を展示室内に再構成し、作家の作品と共に展示する、ユニークな企画展示とした。

展示最終日である16日の13:00～16:30は、1階展示室内で学生ボランティアが来館した子どもたちへワークシートを配り、鑑賞のサポートを行うなど、展示を基点に多様な活動を展開した。

所蔵作品展



- 11 2008年所蔵作品展Ⅱ 中村研一、画家のまなざし
会 期：平成 20 年 7 月 1 日 (火) ～ 10 月 5 日 (日)
会 場：1 階・2 階展示室
開催日数：84 日
観覧料：一般 200 円、小中学生 100 円
※未就学児、障害者手帳をご提示の方および付添者 1 名は無料
市制施行 50 周年記念無料開館日 10 月 4 日 (土)、5 日 (日)
入場者数：1,636 人
一日平均：19 人
出品点数：72 点 (1 階展示室 28 点、2 階展示室 44 点)
担 当：大野玲
印刷物：〔チラシ〕 A4 判両面 (カラー)、〔ポスター〕 B2 判 (カラー)、
〔リーフレット〕 A4 ニツ折両面

開催趣旨

中村研一は生前、「絵画の真実」「ほんとうの線」について繰り返し語り、裸婦像のモデルを「手本」と呼び、感情に流されず真摯に造形と向き合うことを重んじた。しかしその一方、夫人や愛猫といった親しい、身近な存在を何度も描いている。本展では、これらの中村が好んで描いたテーマを紹介し、対象に注がれた、それぞれの「画家のまなざし」に着目した。

1 階展示室では「肖像画」「風景」「裸婦」「妻」といったテーマを設定し、各々のテーマに沿った油彩画をコレクションから展覧した。2 階展示室では、1 階に展示した油彩に合わせ、「肖像画」のほか、「静物」「戦争」をテーマに描いた素描や、陶器、陶器下図などを紹介した。

また、平成 20 年度は市制施行 50 周年にあたるため、市制施行記念日を含む本展期間中には、各種の事業を企画・実施した。

関連事業

- (1) ワークショップ
「“けんぼしゃん”とあそぼう！～コラージュでアートを楽しむ～」
日時：平成 20 年 8 月 3 日 (日) 10:00 ～ 15:00
- (2) 講座「画家の交流～中村研一の書簡を読む～」
日時：平成 20 年 9 月 6 日 (土) 13:00 ～ 16:00
- (3) ミュージアムツアー
毎週日曜日 14:00 ～ 14:30
会期中 7 回実施
- (4) ギャラリートーク
毎週土曜日 14:00 ～ 14:30
会期中 12 回実施
- (5) 市制施行 50 周年企画
「美術館で模写！」
毎週金曜日 10:00 ～ 16:00
会期中 5 回実施

[作品リスト]

2008 年所蔵作品展Ⅱ 中村研一、画家のまなざし 会期 平成 20 年 7 月 1 日 (火) ~ 10 月 5 日 (日)

	作者	題名	制作年	材質・技法	寸法 (cm)		
1 階展示室	中村研一	K 氏夫人像	1922 年	油彩・キャンバス	553.0 × 45.5		
		K 氏肖像	1922 年	油彩・キャンバス	53.0 × 45.5		
		フランス婦人像 (滞欧作)	1928 年	油彩・キャンバス	60.5 × 50.0		
		花 (滞欧作)	1924 年	油彩・キャンバス	51.8 × 44.2		
		F 氏像	1934 年	油彩・キャンバス	80.5 × 65.0		
		中村正奇氏の肖像	1929 年	油彩・キャンバス	91.0 × 73.0		
		婦人像	1945 年	油彩・キャンバス	100.0 × 81.0		
		立像	1949 年	油彩・キャンバス	91.0 × 72.7		
		夏	1948 年	油彩・キャンバス	91.0 × 73.0		
		夏	1950 年	油彩・キャンバス	116.7 × 90.9		
		花を生ける	1963 年	油彩・キャンバス	91.0 × 72.8		
		バラ	1965 年	油彩・キャンバス	80.5 × 65.5		
		早春	1962 年	油彩・キャンバス	91.0 × 73.0		
		木陰	1963 年	油彩・キャンバス	91.0 × 116.5		
		夏の庭	1964 年	油彩・キャンバス	116.5 × 91.0		
		画室	1949 年	油彩・キャンバス	116.7 × 90.9		
		裸婦	1953 年	油彩・キャンバス	72.8 × 91.0		
		裸婦	1952 年	油彩・キャンバス	100.0 × 80.3		
		坐裸婦	1965 年	油彩・キャンバス	130.0 × 97.0		
		足柄より	1938 年	油彩・キャンバス	45.0 × 53.0		
		足柄より (小鼻舟)	1938 年	油彩・キャンバス	45.0 × 53.0		
		足柄より (戦艦レパルス)	1937 年	油彩・キャンバス	45.5 × 53.0		
		バラ (絶筆)	1967 年	油彩・キャンバス	40.9 × 31.8		
		室内	1945 年	油彩・キャンバス	41.0 × 31.8		
		家居	1945 年	油彩・キャンバス	33.5 × 24.5		
		鴨	制作年不詳	油彩・キャンバス	31.8 × 41.0		
		裸婦	1952 年	油彩・キャンバス	38.0 × 45.5		
		海水浴	制作年不詳	油彩・キャンバス	31.8 × 40.9		
		2 階展示室 / 絵画	中村研一	自画像	制作年不詳	インク・紙	30.0 × 23.0
				猫	制作年不詳	墨・紙	35.0 × 22.0
				婦人像	制作年不詳	インク・紙	35.0 × 25.0
静物	1950 年			油彩・キャンバス	31.8 × 41.0		
静物	1959 年			油彩・キャンバス	53.0 × 45.5		
九谷 徳田八十吉翁大皿 下図	制作年不詳			墨・水彩・紙	51.0 × 46.0		
九谷 立田川大皿 下図	制作年不詳			水彩・クレヨン・紙	49.0 × 49.0		
花	制作年不詳			墨・水彩・紙	48.0 × 36.0		
チューリップ	制作年不詳			水彩・紙	52.0 × 36.0		
パンジー	制作年不詳			墨・水彩・紙	33.0 × 34.0		
九谷焼 うつぎ茶碗半筒形 下図	制作年不詳			墨・水彩・紙	29.0 × 30.0		
つる草	制作年不詳			水彩・紙	34.0 × 22.0		
野草	制作年不詳			水彩・紙	33.0 × 24.0		
コタバル (エスキース)	制作年不詳			墨・鉛筆・紙	29.0 × 40.0		
軍艦	1941 年頃			墨・紙	30.0 × 41.0		
ソロモン海戦図 (エスキース)	制作年不詳			水彩・紙	24.8 × 34.7		
戦闘機 呑龍	制作年不詳			水彩・紙	24.0 × 35.0		
案内図 (居室兼茶ノ間兼画室兼書斎図)	1930 年頃			墨・水彩・紙	53.0 × 45.5		
/ 陶器	中村研一			大樋 桃形	1950 年頃以降	陶	
				瀬戸黒 桃形	1950 年頃以降	陶	
		信楽 半筒形 (銘君が代)	1959 年	陶			
		志野 熊川形	1950 年頃以降	陶			
		備前 丸紋皿	1950 年頃以降	陶			
		備前 角形水指	1950 年頃以降	陶			
		備前 足付深鉢	1950 年頃以降	陶			
		九谷 牡丹図大皿	1950 年頃以降	陶			
		九谷 菊図丸皿	1953 年	陶			
		九谷 浜なし図丸皿	1950 年頃以降	陶			
		出雲 夫人像飾皿	1954 年	陶			
		出雲 自画像飾皿	1954 年	陶			
		九谷 うつぎ図半筒形	1950 年頃以降	陶			
		備前 杏形	1950 年頃以降	陶			
		備前 深鉢透し入り	1950 年頃以降	陶			
		備前 蟹図紐付偏平壺	1950 年頃以降	陶			
		出雲 猫面取手付壺	1950 年頃以降	陶			
		備前 カップ	1950 年頃以降	陶			
		出雲 鶏頭付浅皿	1950 年頃以降	陶			
		出雲 羊頭付浅皿	1950 年頃以降	陶			
		出雲 雉頭付浅皿	1950 年頃以降	陶			
		出雲 うまたで図大皿	1950 年頃以降	陶			
		九谷 深鉢	1958 年	陶			
		瀬戸絵付 すみれ図デミタス	1950 年頃以降	陶			
		瀬戸絵付 蘭花図飾皿	1951 年	陶			
		瀬戸絵付 蘭図飾皿	1950 年頃以降	陶			
		瀬戸絵付 レモン図飾皿	1950 年頃以降	陶			



12 2009年所蔵作品展Ⅰ 中村研一、一枚のラ・ヴィ（生命）
 会期：平成21年1月6日（火）～3月8日（日）
 会場：1階・2階展示室
 開催日数：49日
 観覧料：一般200円、小中学生100円
 ※未就学児、障害者手帳をご提示の方および付添者1名は無料
 入場者数：901人
 一日平均：18人
 出品点数：68点（1階展示室28点、2階展示室40点）
 担当者：神津瑛子
 印刷物：〔チラシ〕A4判両面（カラー）、〔ポスター〕B2判（カラー）



開催趣旨

「人間の顔に表情が無ければつまらない」「絵にもラ・ヴィ（生命）がなければならぬ」と言っていた中村研一。本展覧会ではその画業を概観できる代表作と、中村が繰り返し描いた、夫人像や静物画、裸婦像を展示した。

1階展示室では、コレクションより、「婦人像」「静物」「裸婦」をテーマに、初期から晩年までの各時代の油彩画と素描を紹介した。2階展示室でもテーマに沿った展示を行い、愛猫や妻、身近な静物など、中村研一の生活、日常のモチーフを描いた水彩、墨絵や陶芸作品を紹介した。全体を通し、鑑賞者に、中村研一がいかにモチーフを生き生きと描いていたか、その「生命感」を感じ取ってもらうことを期待した。

関連事業

- (1) ワークショップ「“けんぼしゃん”とあそぼう！～コラージュでアートを楽しむ～」
 日時：平成21年2月11日（水）10:00～15:00
- (2) 講座「画家の交流～中村研一の書簡を読む～」
 日時：平成21年2月21日（土）13:00～16:00
- (3) ミュージアムツアー
 毎週日曜日 14:00～14:30
 会期中6回実施
- (4) ギャラリートーク
 毎週土曜日 14:00～14:30
 会期中5回実施

主要関連記事

- (1) 新聞
 「中村研一の所蔵展 はけの森美術館で開催中」『小金井新聞』、2009年1月11日
 「野川上流域 『武蔵野夫人』の舞台を訪ねて」『アサヒタウンズ』第1811号、2009年1月22日

[作品リスト]

2009年所蔵作品展Ⅰ「中村研一、一枚のラ・ヴィ」 会期 平成21年1月6日(火)～3月8日(日)

	作者	題名	制作年	材質・技法	寸法 (cm)		
1階展示室	中村研一	風景	1922年	油彩・キャンバス	53.0 × 65.0		
		フランス風景	1923年	油彩・キャンバス	60.5 × 50.0		
		足柄より	1938年	油彩・キャンバス	45.0 × 53.5		
		足柄より (アデン)	1937年	油彩・キャンバス	45.0 × 53.0		
		フランス婦人像 (滞欧作)	1928年	油彩・キャンバス	60.5 × 50.0		
		中村正奇氏の肖像	1929年	油彩・キャンバス	91.0 × 73.0		
		婦人像	1945年	油彩・キャンバス	100.0 × 81.0		
		バラ	1965年	油彩・キャンバス	80.5 × 65.5		
		木陰	1963年	油彩・キャンバス	91.0 × 116.5		
		裸婦	1951年	油彩・キャンバス	50.2 × 60.5		
		バラ (絶筆)	1967年	油彩・キャンバス	40.9 × 31.8		
		自画像	1958年	油彩・キャンバス	73.0 × 61.0		
		画室	1948年	油彩・キャンバス	91.0 × 73.0		
		婦人像	1950年	油彩・キャンバス	91.0 × 73.0		
		花を生ける	1963年	油彩・キャンバス	91.0 × 72.8		
		花	1960年	油彩・キャンバス	91.0 × 72.8		
		早春	1962年	油彩・キャンバス	91.0 × 73.0		
		裸婦	1967年	油彩・キャンバス	72.8 × 91.0		
		裸婦	制作年不詳	油彩・キャンバス	91.0 × 72.8		
		画室	1949年	油彩・キャンバス	116.7 × 90.9		
		裸婦	1953年	油彩・キャンバス	72.8 × 91.0		
		裸婦	1965年	油彩・キャンバス	100.0 × 81.0		
		坐裸婦	1965年	油彩・キャンバス	130.0 × 97.0		
		赤布	制作年不詳	油彩・キャンバス	53.0 × 45.5		
		婦人像	制作年不詳	インク・紙	35.0 × 25.0		
		小憩	制作年不詳	インク・紙	25.0 × 35.0		
		裸婦	制作年不詳	インク・紙	30.0 × 40.0		
		樹	制作年不詳	水彩・紙	26.0 × 38.0		
		バラ	制作年不詳	水彩・紙	37.0 × 25.0		
		2階展示室／絵画	中村研一	猫	制作年不詳	墨・紙	35.0 × 22.0
猫	制作年不詳			インク・紙	26.0 × 38.0		
山茶花	制作年不詳			墨、水彩・紙	30.0 × 39.0		
残雪	制作年不詳			水彩・紙	30.0 × 31.0		
雪梅	制作年不詳			墨・紙	25.0 × 33.0		
日ノ出	制作年不詳			墨・紙	23.0 × 30.0		
富子猫	制作年不詳			水彩・紙	23.0 × 23.0		
ストーブ	制作年不詳			墨・紙	25.0 × 28.0		
初便り	制作年不詳			墨・紙	30.0 × 23.0		
人物	1924年			エッチング・紙	18.0 × 13.0		
ストーブ	制作年不詳			墨、インク・紙	25.0 × 17.0		
タバコ具	制作年不詳			墨、インク・紙	14.0 × 20.0		
コーヒー碗	制作年不詳			墨、インク・紙	16.0 × 22.0		
婦人像	1963年			油彩・キャンバス	100.5 × 81.0		
小金井住家ノ図	1958年			墨、水彩・紙	30.0 × 60.0		
陶器	中村研一			瀬戸黒 半筒形	1950年頃以降	陶	
				大樋 桃形	1950年頃以降	陶	
		信楽 半筒形 (銘君が代)	1959年	陶			
		信楽 半筒形 (銘初雪)	1950年頃以降	陶			
		九谷 菊丸皿	1953年	陶			
		備前 角形水指	1950年頃以降	陶			
		備前 足付深鉢	1950年頃以降	陶			
		出雲 猫面取手付壺	1950年頃以降	陶			
		備前 丸紋皿	1950年頃以降	陶			
		九谷 牡丹図大皿	1950年頃以降	陶			
		九谷 うつき図半筒形茶碗	1950年頃以降	陶			
		志野 熊川形	1950年頃以降	陶			
		九谷 藤ノ絵碗形	1950年頃以降	陶			
		志野 筒形	1950年頃以降	陶			
		備前 筒形	1950年頃以降	陶			
		備前 杏形	1950年頃以降	陶			
		九谷 梅図	1950年頃以降	陶			
		信楽 丸形	1950年頃以降	陶			
		瀬戸 飾皿	1950年頃以降	陶			
		瀬戸絵付 すみれ図デミタス	1950年頃以降	陶			
		出雲 うまたで図大皿	1950年頃以降	陶			
		備前 カップ	1950年頃以降	陶			
		出雲 鶏頭付浅皿	1950年頃以降	陶			
		出雲 羊頭付浅皿	1950年頃以降	陶			
		出雲 雉頭付浅皿	1950年頃以降	陶			



13 2009年所蔵作品展Ⅱ 中村研一 春の特集〜花〜

会 期：平成21年3月24日（火）～5月31日（日）

会 場：1階・2階展示室

開催日数：59日

観覧料：一般200円、小中学生100円

※未就学児、障害者手帳をご提示の方および付添者1名は無料

入場者数：805人

一日平均：13人

出品点数：80点（1階36点展示室2階44点）

担当者：大野玲

印刷物：〔チラシ〕A4判両面（カラー）、〔ポスター〕B2判（カラー）



開催趣旨

平成19年度開催の「2007所蔵品展Ⅰ～特集 中村研一と花々～」に続いて、再度「春の特集展示」として、花を描いた作品を紹介した。油彩や水彩による代表作品の他、陶芸作品の下図、水墨画、陶器など、花をモチーフとする作品を幅広く集めた。美術館周辺の豊かな自然環境と共に、季節感を満喫し作品を味わってもらうことを期待した。

1階展示室では、「中村研一と花々」展と同様に、中村の代表作を展望するコーナーと、新たに「花の特集コーナー」を設け、2部構成による展示とした。2階展示室では、花の描かれた陶器作品を中心に、油彩画、水彩画など、所蔵コレクションから厳選した作品を紹介した。

関連事業

(1) ワークショップ

① 「“けんぼしゃん”とあそぼう！～コラージュでアートを楽しむ～」

日時：平成21年4月29日（水） 10:00～15:30

② 「“けんぼしゃん”に挑戦！～花を描く～」

日時：平成21年5月10日（日）10:30～15:30

講師：大野靖（美術家、日本工学院講師、立川美術学院講師）

(2) ミュージアムツアー

毎週日曜日 14:00～14:30

会期中5回実施

(3) ギャラリートーク

毎週土曜日 14:00～14:30

会期中5回実施

主要関連記事

(1) 新聞

「美術館への招待 中村研一記念小金井市立はけの森美術館 武蔵野への暖かい視線」『東京新聞』、2009年5月21日（※『北陸中日新聞』同日付にも掲載）

[作品リスト]

2009年所蔵作品展Ⅱ 中村研一 春の特集～花～ 会期 平成21年1月6日(火)～3月8日(日)

	作者	題名	制作年	材質・技法	寸法(cm)		
1階展示室	中村研一	風景	1922年	油彩・キャンバス	53.0×65.0		
		フランス風景(滞欧作)	1923年	油彩・キャンバス	60.5×50.0		
		足柄より	1938年	油彩・キャンバス	45.7×53.5		
		足柄より(アデン)	1937年	油彩・キャンバス	45.5×53.0		
		フランス婦人像(滞欧作)	1928年	油彩・キャンバス	60.5×50.0		
		中村正奇氏の肖像	1929年	油彩・キャンバス	91.0×73.0		
		婦人像	1945年	油彩・キャンバス	100.0×81.0		
		バラ	1965年	油彩・キャンバス	80.5×65.5		
		木陰	1963年	油彩・キャンバス	91.0×116.5		
		裸婦	1951年	油彩・キャンバス	50.2×60.5		
		バラ(絶筆)	1967年	油彩・キャンバス	40.9×31.8		
		春の特集～花～	中村研一	花(滞欧作)	1924年	油彩・キャンバス	51.8×44.2
				ナデシコ	1948年	油彩・キャンバス	53.0×45.5
				パンジー	制作年不詳	水彩・紙	33.0×34.0
				山茶花	制作年不詳	水彩・紙	30.0×39.0
				バラ	制作年不詳	水彩・紙	52.0×36.0
				チューリップ	制作年不詳	水彩・紙	52.0×36.0
				花	制作年不詳	水彩・紙	48.0×36.0
				アネモネ	制作年不詳	水彩・紙	52.0×36.0
花	制作年不詳			水彩・紙	39.0×29.0		
静物	制作年不詳			水彩・紙	32.0×24.0		
花を生ける	1963年			油彩・キャンバス	91.0×72.8		
バラ	1962年			油彩・キャンバス	90.5×73.0		
早春	1962年			油彩・キャンバス	91.0×73.0		
花	1960年			油彩・キャンバス	91.0×72.8		
花	1950年頃			油彩・キャンバス	60.7×50.0		
九谷焼大皿下図(カーネーション)	1954年頃			水彩・紙	56.0×45.0		
九谷焼大皿下図(八重椿)	1955年頃			水彩・紙	59.0×48.0		
九谷焼大皿下図(菖蒲)	1956年頃			水彩・紙	49.0×49.0		
ゆり	制作年不詳			墨、淡彩・紙	60.0×45.0		
秋海棠	制作年不詳			墨、淡彩・紙	36.0×25.0		
つる草	制作年不詳			墨、淡彩・紙	34.0×22.0		
虎ノ尾	制作年不詳			墨、淡彩・紙	33.0×24.0		
蛙	制作年不詳			墨・紙	28.0×20.0		
静物	制作年不詳			墨、淡彩・紙	26.0×15.0		
フリージャ	制作年不詳			墨・紙	18.0×22.0		
2階展示室/絵画	中村研一			茶碗	制作年不詳	墨、淡彩・和紙	25.0×23.0
				茶碗	制作年不詳	墨、淡彩・和紙	27.0×31.0
				水指	制作年不詳	墨、淡彩・和紙	28.0×34.0
				猫	制作年不詳	墨・紙	35.0×22.0
				猫	制作年不詳	墨・和紙	34.0×25.0
	富子猫			制作年不詳	水彩・紙	23.0×23.0	
	藤田嗣治			研一猫	制作年不詳	水彩・紙	30.0×20.0
	中村研一			裸婦	制作年不詳	墨・紙	23.0×22.0
		自画像	制作年不詳	インク・紙	30.0×23.0		
		裸婦	1952年	油彩・キャンバス	38.0×45.5		
		婦人像	制作年不詳	油彩・キャンバス	41.0×31.8		
		室内	1945年	油彩・キャンバス	41.0×31.8		
		海水浴	制作年不詳	油彩・キャンバス	31.8×40.9		
		室内図(居室兼茶ノ間兼画室兼書斎図)	1930年頃	墨、水彩・紙	26.5×35.5		
		婦人像	1963年	油彩・キャンバス	100.5×81.0		
		/陶器	中村研一	瀬戸黒 半筒形茶碗(梅文)	1950年頃以降	陶	
	九谷 うつぎ図半筒形茶碗			1950年頃以降	陶		
	志野 熊川形茶碗			1950年頃以降	陶		
	九谷 藤ノ絵椀形茶碗			1950年頃以降	陶		
出雲 羊歯図大皿	1950年頃以降			陶			
備前 角形水指	1950年頃以降			陶			
備前 足付深鉢	1950年頃以降			陶			
出雲 猫面取手付壺	1950年頃以降			陶			
備前 丸紋皿	1950年頃以降			陶			
九谷 牡丹図大皿	1950年頃以降			陶			
九谷 菊図丸皿	1953年			陶			
九谷 浜なし図丸皿	1950年頃以降			陶			
九谷 薔薇図丸皿	1950年頃以降			陶			
九谷 たんぼ図丸皿	1950年頃以降			陶			
九谷 花図丸皿(3点セット)	1950年頃以降			陶			
瀬戸 紫陽花図飾皿	1950年頃以降			陶			
出雲 藤図深皿	1954年			陶			
出雲 薔薇図カップ	1950年頃以降			陶			
出雲 赤まんま図花瓶	1950年頃以降			陶			
瀬戸 カラー図飾皿	1950年頃以降			陶			
九谷 栗図飾皿	1950年頃以降			陶			
瀬戸 蘭花図飾皿	1951年			陶			
瀬戸絵付 蘭図飾皿	1951年頃			陶			
瀬戸絵付 すみれ図デミタス	1950年頃以降			陶			
九谷 深鉢	1958年			陶			
出雲 うまたで図大皿	1950年頃以降			陶			
出雲 雉頭付浅皿	1950年頃以降			陶			
出雲 羊頭付浅皿	1950年頃以降			陶			
出雲 鶏頭付浅皿	1950年頃以降			陶			

企画展



14 松本市美術館 田村一男記念室より

冬の彼方に～高原の画家・田村一男の世界～

会 期：平成 20 年 10 月 21 日（火）～ 12 月 7 日（日）

会 場：1 階展示室

開催日数：42 日

観覧料：一般 500 円、小中学生 200 円

※未就学児、障害者手帳をご提示の方および付添者 1 名は無料

入場者数：1,862 人

一日平均：14 人

出品点数：29 点（2 階展示室 39 点）

担当者：大野玲

企画協力：松本市美術館

協 力：東京学芸大学デザイン研究室

印刷物：〔チラシ〕A4 判両面（カラー）、〔ポスター〕B2 判（カラー）、
〔リーフレット〕A5 判三ツ折両面（カラー）



開催趣旨

平成 19 年度、小金井市立はげの森美術館では、「堂本印象美術館展」を開催し、他地域の美術館が持つ個性的なコレクションの紹介という企画展の一つの方向性を示した。本企画展はその成果を受け、さらなる発展を図ったものである。松本市美術館所蔵の田村一男コレクションに着目し、作品を展示するとともに、松本市美術館と田村一男記念室についてパネルで紹介した。

洋画家・田村一男（1904-1997）は山岳風景を多く描き、日本の風土と油彩の絵画表現が見事に融合した風景画の到達点として、高い評価を受けた。また、中村研一が所属した美術団体・光風会の理事を長く務めており、先輩にあたる中村研一とも親交が深かった。1 階展示室では、松本市美術館のコレクションから、信州の冬山を描いた田村一男の油彩画の代表作と、パステル画も併せて展示し、その魅力を紹介した。さらに当館所蔵の田村一男による中村研一宛書簡などを通して両者の交流を紹介し、多角的に田村一男像を提示した。2 階展示室では、当館のコレクションから油彩画、墨絵、戦争画のエスキース、陶器下絵、陶器などにより中村研一の創作活動を紹介した。

関連事業

(1) スペシャルゲストトーク

日時：平成 19 年 11 月 15 日（土）13:00～13:30、14:00～14:30

講師：武藤美紀（松本市美術館学芸員）

(2) スペシャルナイト！直弟子金山桂子さんが語る 田村一男と信州・冬

日時：11 月 8 日（土）17:15～18:25

講師：金山桂子（女子美術大学名誉教授、光風会理事、日展評議員）

(3) ミュージアムツアー

毎週日曜日 14:00～14:30

会期中 6 回実施

主要関連記事

(1) 新聞

「田村一男の世界 冬の彼方に」『新美術新聞』No. 1169、2008年11月21日

「田村一男の『彼方』によせて」『美術通信』第1966号、2008年11月10日

「いち押しガイド 高原の画家の世界展 田村一男 はけの森美術館」『Weekly News 西の風』第989号、2008年12月5日

瀧梯三「評壇 11月の展覧会から 田中一男の世界(10月21日～12月7日/はけの森美術館)」『美
じょん新報』、ビジョン企画出版社、2008年12月20日

下斗米八郎「四季逍遥 第208回 はけの道」『盛岡タイムス』2008年12月23日

(2) 放送

「新日曜美術館」アートシーン (NHK エデュケーショナル、2008年11月23日放送)

[作品リスト]

松本市美術館 田村一男記念室より 冬の彼方に～高原の画家・田村一男の世界 会期 平成20年10月21日(火)～12月7日(日)

	作者	題名	制作年	材質・技法等	寸法 (cm)	所蔵先
1階展示室／	田村一男	雪原の男	1972年	油彩・キャンバス	145.5 × 89.4	松本市美術館
		冬丘	1954年	油彩・キャンバス	91.0 × 60.6	松本市美術館
		明けゆく立山への道	1975年	油彩・キャンバス	145.5 × 89.4	松本市美術館
		冬瀑	1983年	油彩・キャンバス	162.0 × 97.0	松本市美術館
		雪国	1975年	油彩・キャンバス	89.4 × 145.5	松本市美術館
		冬声	1976年	油彩・キャンバス	145.5 × 89.4	松本市美術館
		ほくしん	1988年	油彩・キャンバス	89.4 × 145.5	松本市美術館
		蓼科高原	1996年	油彩・キャンバス	89.4 × 145.5	松本市美術館
		白いやまなみ	1980年	油彩・キャンバス	89.4 × 145.5	松本市美術館
		蔵王	1981年	油彩・キャンバス	162.0 × 97.0	松本市美術館
		北信濃	1984年	油彩・キャンバス	162.0 × 97.0	松本市美術館
		ゆきのくに	1985年	油彩・キャンバス	145.5 × 89.4	松本市美術館
		ふゆはれ	1988年	油彩・キャンバス	89.4 × 145.5	松本市美術館
		くもるおか	1988年	油彩・キャンバス	145.5 × 89.4	松本市美術館
		冬の丘	1988年	油彩・キャンバス	162.0 × 97.0	松本市美術館
		雪原	1953年	油彩・キャンバス	72.7 × 116.8	松本市美術館
		冬野	1986年	油彩・キャンバス	89.4 × 145.5	松本市美術館
		那須の山	1989年	油彩・キャンバス	89.4 × 145.5	松本市美術館
		雪嶺	1977年	油彩・キャンバス	89.4 × 145.5	松本市美術館
		比良暮雪	1979年	油彩・キャンバス	89.4 × 145.5	松本市美術館
		雪国	1980年	油彩・キャンバス	89.4 × 145.5	松本市美術館
		雪の岬	1980年	油彩・キャンバス	89.4 × 145.5	松本市美術館
		白の世界の肖像	1977年	油彩・キャンバス	145.5 × 89.4	松本市美術館
		五竜	1990年	油彩・キャンバス	130.3 × 194.0	松本市美術館
		黒姫	1980年	パステル・紙	47.0 × 54.0	松本市美術館
		樽池	1981年	パステル・紙	47.0 × 54.0	松本市美術館
		樽池	1985年	パステル・紙	47.0 × 54.0	松本市美術館
		白馬	1991年	パステル・紙	50.0 × 60.0	松本市美術館
		那須 雪の日	1989年	パステル・紙	66.0 × 51.0	松本市美術館

2階展示室／絵画

中村研一	裸婦	制作年不詳	墨	24.0 × 32.0
	静物	1959年	油彩	53.0 × 45.5
	雪梅	制作年不詳	墨、羽根ペン	25.0 × 33.0
	ストーブ	制作年不詳	墨、ペン	25.0 × 28.0
	コーヒール	制作年不詳	墨、ペン	16.0 × 22.0
	居間	制作年不詳	水彩、ペン	38.0 × 53.0
	コタバル (エスキース)	1943年?	墨、鉛筆、羽根ペン	29.0 × 40.0
	残雪	制作年不詳	墨、水彩、羽根ペン	30.0 × 31.0
	猫	制作年不詳	マジックペン	26.0 × 38.0
	猫	制作年不詳	墨	35.0 × 22.0
	軍艦	1941年頃	墨	30.0 × 41.0
	ソロモン海戦図エスキース	制作年不詳	水彩	24.8 × 34.7
	戦闘機 呑龍	制作年不詳	墨、水彩、ペン	24.0 × 35.0
	室内図	1930年	墨、水彩、ペン	26.5 × 35.5
	うつぎ九谷半筒形茶碗 下図	制作年不詳	墨、水彩	29.0 × 30.0

／陶器

中村研一	大樋桃形	1950年頃以降	陶	
	瀬戸黒桃形	1950年頃以降	陶	
	志野熊川形	1950年頃以降	陶	
	信楽半筒形 (銘初雪)	1950年頃以降	陶	
	備前丸紋皿	1950年頃以降	陶	44.0 × 22.0 × 3.0
	九谷半筒形 うつぎ図	1950年頃以降	陶	
	九谷 栗鼠図飾皿	1950年頃以降	陶	
	出雲 白画像飾皿	1954年	陶	
	出雲飾皿 婦人像	1954年	陶	
	出雲耳付角皿 鶏図	1950年頃以降	陶	
	出雲深皿 羊歯図	1954年	陶	
	備前 透かし入り深鉢	1950年頃以降	陶	口径 23.0 × 7.5
	備前 蟹図紐付偏平壺	1950年頃以降	陶	
	出雲取手付猫面壺	1950年頃以降	陶	
	備前カップ	1950年頃以降	陶	
	備前 杵型	1950年頃以降	陶	
	出雲 鶏頭付浅皿	1950年頃以降	陶	
	出雲 羊頭付浅皿	1950年頃以降	陶	
	出雲 雉頭付浅皿	1950年頃以降	陶	
	瀬戸 羊図飾皿	1950年頃以降	陶	
	瀬戸 鳥図飾皿	1950年頃以降	陶	
	瀬戸 野菜図丸皿	1950年頃以降	陶	
	九谷飾皿 旦那様用	1950年頃以降	陶	
	九谷飾皿 奥様用	1950年頃以降	陶	

平成 21 (2009) 年度

所蔵作品展



15 2009 年度所蔵作品展Ⅲ 中村研一アトリエおもちゃ箱

会 期：平成 21 年 9 月 12 日 (土) ～ 10 月 31 日 (土)

会 場：1 階・2 階展示室

開催日数：43 日

観覧料：一般 200 円、小中学生 100 円

※未就学児、障害者手帳をご提示の方および付添者 1 名は無料

入場者数：1,315 人

一日平均：30 人

出品点数：65 点 (1 階展示室 24 点、2 階展示室 41 点)

担 当：神津瑛子

ワークショップコーナーデザイン：加藤みつこ

印刷物：〔チラシ〕A4 判両面 (カラー)、〔ポスター〕B2 判 (カラー)



開催趣旨

中村研一の確かな描写力を支えた“真摯に楽しむ姿勢”に注目し、遊び心にあふれたユーモラスな作品を中心に展示した。

1 階展示室では、コレクションの中から絵画作品のほか、中村研一が 50 歳頃から始めた陶芸に着目し、陶器をモチーフとした油彩画、墨絵、また陶器制作にあたっての下絵などを展示し、中村の造形の端々に現われる、洒落な遊び心を紹介した。また、中村研一の商品を楽しく鑑賞する手助けとするため、ワークシートやパズル、塗り絵などができる「ワークショップコーナー」を 1 階展示室内に設置した。展示作品の側で実際に創作活動を行うことで、制作者の心に沿い、新たな視線で作品をとらえる機会となることを期待した。2 階展示室は、中村が制作した陶器を中心に、陶器をモチーフとした墨絵や素描など、1 階の展示内容と連関性を持たせた内容で構成した。

関連事業

(1) ギャラリートーク

毎週土曜日及び日曜日

会期中 8 回実施

[作品リスト]

2009 年度所蔵作品展Ⅲ 中村研一アトリエおもちゃ箱！ 会期 平成 21 年 9 月 12 日（土）～10 月 31 日（土）

	作者	題名	制作年	技法・素材	寸法 (cm)		
1 階展示室	中村研一	自画像	1958 年	油彩・キャンバス	73.0 × 61.0cm		
		花 (滞欧作)	1924 年	油彩・キャンバス	51.8 × 44.2cm		
		バラ (絶筆)	1967 年	油彩・キャンバス	40.9 × 31.8cm		
		静物	1955 年	油彩・キャンバス	45.5 × 53.0cm		
		静物	1959 年	油彩・キャンバス	53.0 × 45.5cm		
		コタバルにて	1942 年	油彩・キャンバス	53.0 × 41.0cm		
		早春	1962 年	油彩・キャンバス	91.0 × 73.0cm		
		夏の庭	1964 年	油彩・キャンバス	116.5 × 91.0cm		
		夏	1948 年	油彩・キャンバス	91.0 × 73.0cm		
		裸婦	制作年不詳	油彩・キャンバス	65.0 × 53.0cm		
		秋 (小金井庭)	制作年不詳	油彩・キャンバス	50.0 × 60.5cm		
		画室	制作年不詳	墨、水彩・紙	43.0 × 35.0cm		
		室内図 (居室兼茶ノ間兼画室兼書齋図)	1930 年頃	墨、水彩・紙	26.5 × 35.5cm		
		婦人像	制作年不詳	油彩・キャンバス	60.6 × 50.0cm		
		婦人像	1963 年	油彩・キャンバス	100.5 × 81.0cm		
		筭	制作年不詳	水彩・紙	23.0 × 28.5cm		
		九谷 深鉢	1958 年				
		茶碗図案	制作年不詳	水彩、紙	27.0 × 33.0cm		
		タバコ具	制作年不詳	水彩、紙	27.0 × 24.0cm		
		姉妹	制作年不詳	墨・淡彩、紙	24.0 × 20.0cm		
		婦人像 (緑蔭)	制作年不詳	クレパス、紙	34.0 × 23.0cm		
		富子猫	制作年不詳	水彩、紙	23.0 × 23.0cm		
		静物 栓抜き	制作年不詳	墨・淡彩、紙	39.0 × 51.0cm		
		くり	制作年不詳	パステル、紙	24.0 × 25.0cm		
		2 階展示室 / 絵画	中村研一	筆立て	制作年不詳	墨・紙	24.0 × 17.0cm
				バリ・カフェ	制作年不詳	墨、インク・紙	19.0 × 22.0cm
				芦ノ湖	制作年不詳	墨・紙	24.0 × 27.0cm
				朝食卓	制作年不詳	木炭、水彩・紙	50.0 × 33.0cm
				富子像	制作年不詳	インク、淡彩・紙	33.0 × 24.0cm
				自画像	制作年不詳	パステル、墨・紙	33.0 × 24.0cm
				果物鉢	制作年不詳	墨・紙	26.0 × 35.0cm
				バラ	制作年不詳	墨、水彩・紙	31.0 × 45.0cm
				裸婦	制作年不詳	墨、水彩・紙	32.0 × 25.0cm
裸婦	1952 年			油彩・キャンバス	38.0 × 45.5cm		
ゴルフ場	1942 年			油彩・キャンバス	45.0 × 53.0cm		
フランス風景 (滞欧作)	1923 年			油彩・キャンバス	60.5 × 50.0cm		
花	1960 年			油彩・キャンバス	91.0 × 72.8cm		
陶器	中村研一			出雲 雉頭付浅皿	1950 年頃以降	陶	
				出雲 羊頭付浅皿	1950 年頃以降	陶	
				出雲 鶏頭付浅皿	1953 年	陶	
				瀬戸 羊図飾皿	1950 年頃以降	陶	
		九谷 栗図飾皿	1950 年頃以降	陶			
		備前 角形水指	1950 年頃以降	陶			
		備前 水指	1950 年頃以降	陶			
		備前 足付深鉢	1950 年頃以降	陶			
		備前 花瓶	1950 年頃以降	陶			
		出雲 取手付猫面壺	1950 年頃以降	陶			
		出雲 羊歯図大皿	1950 年頃以降	陶			
		出雲 合歡図深皿	1950 年頃以降	陶			
		九谷 牡丹図大皿	1950 年頃以降	陶			
		瀬戸 野菜図丸皿 (6 点セット)	1950 年頃以降	陶			
		出雲 カップ	1950 年頃以降	陶			
		出雲 薔薇図カップ	1950 年頃以降	陶			
		出雲 取手付壺	1954 年	陶			
		備前 紐穴付花入れ	1950 年頃以降	陶			
		志野 筒形茶碗 (イニシャル)	1950 年頃以降	陶			
		出雲 赤まんま図花瓶	1950 年頃以降	陶			
		瀬戸絵付 レモン図飾皿	1950 年頃以降	陶			
		瀬戸 鳥図飾皿	1950 年頃以降	陶			
		瀬戸 キリスト教聖画図飾皿 (6 点セット)	1950 年頃以降	陶			
		備前 丸紋皿	1950 年頃以降	陶			
		出雲 ドンキホーテ図深皿	1950 年頃以降	陶			
		出雲 果物図深皿	1950 年頃以降	陶			
		出雲 鶏図耳付角皿	1950 年頃以降	陶			
		出雲 菜果図耳付角皿	1950 年頃以降	陶			



16 2010年度所蔵作品展 I 中村研一自然の歌

会 期：平成 22 年 3 月 2 日（火）～5 月 30 日（日）

会 場：1 階・2 階展示室

開催日数：78 日

観覧料：一般 200 円、小中学生 100 円

※未就学児、障害者手帳をご提示の方および付添者 1 名は無料

無料開館日 5 月 15 日（土）、16 日（日）

入場者数：1,935 人

一日平均：24 人

出品点数：75 点（1 階 29 点、2 階 46 点）

担当者：神津瑛子

印刷物：〔チラシ〕A4 判両面（カラー）、〔ポスター〕B2 判（カラー）

開催趣旨

戦災でアトリエを失った洋画家・中村研一が、戦後の移住先として小金井を選択した背景には、竹林や湧水など豊かな自然を気に入ったことが一因としてあった。本展覧会では、所蔵作品から、自宅の庭を描いた色彩感覚にあふれる風景画や、日常に向けるまなざしを感じさせる静物デッサン、陶器の図柄に見る大胆に意匠化された植物文様など、中村の多彩な制作活動を、“自然”をキーワードに浮かび上がらせた。

1 階展示室では、自然や静物を主題とする作品を選び、油彩、水彩、墨絵を展示した。また、婦人像や裸婦など、中村研一の代表的な作品のうち人物を描いた油彩画も併せて紹介を行った。2 階展示室では、図案化された植物が絵付けされた陶器を複数展示し、中村研一による作陶の魅力を紹介した。

関連事業

(1) ワークショップ「“けんぼしゃん”とあそぼう！～コラージュでアートを楽しむ～」

日時：2010 年 3 月 22 日（月）10:30～15:00

(2) ギャラリートーク

毎週土曜日

会期中 18 回実施

[作品リスト]

2010 年度所蔵作品展 I 中村研一 自然の歌 会期 平成 22 年 3 月 2 日 (火) ~ 5 月 30 日 (日)

作者	題名	制作年	技法・素材	寸法 (cm)	
1 階展示室	中村研一	風景	1922 年	油彩・キャンバス	53.0 × 65.0
		フランス風景 (滞欧作)	1923 年	油彩・キャンバス	60.5 × 50.0
		小金井住家ノ図	1958 年	墨、水彩・紙	30.0 × 60.0
		ベランダ	制作年不詳	水彩・紙	43.0 × 35.0
		庭	1963 年	油彩・キャンバス	80.5 × 61.0
		夏庭	1963 年	油彩・キャンバス	80.5 × 65.3
		バラ	1965 年	油彩・キャンバス	80.5 × 65.5
		花	1960 年	油彩・キャンバス	91.0 × 72.8
		静物	1947 年	油彩・キャンバス	53.0 × 45.5
		チューリップ	制作年不詳	水彩・紙	52.0 × 36.0
		バラ	制作年不詳	水彩・紙	43.0 × 31.0
		シクラメン	制作年不詳	水彩・紙	35.0 × 25.0
		ふしくろせんとう	制作年不詳	水彩・紙	26.0 × 34.0
		蛙	制作年不詳	墨・紙	29.0 × 24.0
		紫陽花	制作年不詳	墨、水彩・紙	24.0 × 30.0
		朝顔	制作年不詳	水彩・紙	35.0 × 27.0
		カラジューム	制作年不詳	水彩・紙	42.0 × 34.0
		自画像	1958 年	油彩・キャンバス	73.0 × 61.0
		婦人像	1950 年	油彩・キャンバス	80.3 × 65.2
		婦人像	1959 年	油彩・キャンバス	116.5 × 91.0
		木陰	1963 年	油彩・キャンバス	91.0 × 116.5
		裸婦	1952 年	油彩・キャンバス	100.0 × 80.3
		裸婦	1965 年	油彩・キャンバス	130.5 × 97.0
		バラ (絶筆)	1967 年	油彩・キャンバス	40.9 × 31.8
		書簡	制作年不詳	墨、淡彩・和紙	26.0 × 56.0
		とり	制作年不詳	インク・紙	31.0 × 30.0
		静物 (はくさい)	制作年不詳	墨、淡彩・紙	30.0 × 23.0
		魚	制作年不詳	水彩・紙	22.0 × 25.5
		ロブスター	制作年不詳	墨、淡彩・和紙	32.0 × 43.0

2 階展示室 / 絵画

中村研一	猫	制作年不詳	墨・紙	35.0 × 22.0
	猫	制作年不詳	墨・和紙	34.0 × 25.0
	水田	制作年不詳	墨・紙	22.0 × 30.0
	ミカン摘み	制作年不詳	墨・紙	35.0 × 29.0
	居間	制作年不詳	インク・紙	10.0 × 34.0
	サイゴン	制作年不詳	水彩・紙	35.0 × 24.0
	サイゴン	制作年不詳	水彩・紙	26.0 × 34.5
	窓辺 (海)	制作年不詳	水彩・紙	24.0 × 35.0
	朝食卓	制作年不詳	水彩・紙	50.0 × 33.0
	庭 (梅茶畑)	制作年不詳	墨、水彩・紙	49.0 × 32.0
	風景 (戸隠)	1951 年	油彩・板	27.0 × 22.0
	昭南の思い出 (海の見える庭)	1943 年	油彩・キャンバス	45.5 × 53.0
	鴨	制作年不詳	油彩・キャンバス	31.8 × 41.0
	窓辺	1948 年	油彩・キャンバス	45.5 × 53.0
	早春	1962 年	油彩・キャンバス	91.0 × 73.0
	九谷 山吹図大皿下図	1950 年頃以降	水彩・紙	47.0 × 60.0

陶器

中村研一	瀬戸黒 半筒形茶碗 (梅文)	1950 年頃以降	陶
	九谷 うつぎ図半筒形茶碗	1950 年頃以降	陶
	志野 熊川形茶碗	1950 年頃以降	陶
	九谷 藤ノ絵椀形茶碗	1950 年頃以降	陶
	九谷 牡丹図大皿	1950 年頃以降	陶
	備前 花瓶	1950 年頃以降	陶
	備前 紐穴付花入れ	1950 年頃以降	陶
	備前 蟹図紐付偏平壺	1950 年頃以降	陶
	備前 水指	1950 年頃以降	陶
	備前 角形水指	1950 年頃以降	陶
	出雲 羊歯図大皿	1950 年頃以降	陶
	出雲 丸皿	1950 年頃以降	陶
	出雲 赤まんま図花瓶	1950 年頃以降	陶
	出雲 果物図深皿	1950 年頃以降	陶
	出雲 合歡図深皿	1950 年頃以降	陶
	出雲 雉頭付浅皿	1950 年頃以降	陶
	出雲 羊頭付浅皿	1950 年頃以降	陶
	出雲 鶏頭付浅皿	1953 年	陶
	出雲 取手付壺	1954 年	陶
	出雲 薔薇図カップ	1950 年頃以降	陶
	出雲 四ツ耳付花瓶	1950 年頃以降	陶
	備前 透かし入り深鉢	1950 年頃以降	陶
	備前 カップ	1950 年頃以降	陶
	瀬戸絵付 レモン図飾皿	1950 年頃以降	陶
	瀬戸 鷹図中皿	1950 年頃以降	陶
	瀬戸 紫陽花図飾皿	1950 年頃以降	陶
	九谷 たんぼ図丸皿	1950 年頃以降	陶
	九谷 菖蒲図丸皿	1950 年頃以降	陶
	瀬戸 蘭花図飾皿	1951 年	陶
	瀬戸絵付 蘭図飾皿	1951 年頃	陶

企画展



17 田中絹代生誕百周年記念 田中絹代～シネマに恋して～

会 期：平成 21 年 7 月 11 日（土）～ 8 月 16 日（日）

会 場：1 階展示室

開催日数：32 日

観覧料：一般 400 円、小中学生 200 円

※未就学児、障害者手帳をご提示の方および付添者 1 名は無料

入場者数：1,219 人

一日平均：38 人

出品点数：77 点（2 階展示室 39 点）

担 当：神津瑛子

企画協力：NPO 法人田中絹代メモリアル協会

ゲストキュレーター：河波茅子

（NPO 法人田中絹代メモリアル協会事務局長）

協力：下関市、一般社団法人小林正樹監督遺託業務世話人会・芸游会、

プロマイドのマルベル堂、東宝株式会社、松竹株式会社、

東京学芸大学デザイン研究室、小金井市文化財センター

印刷物：〔チラシ兼ポスター〕 B3 判両面（カラー）、

〔リーフレット〕 B3 変形判両面（カラー）



開催趣旨

田中絹代は 14 歳で映画界に足を踏み入れ、後に自らも映画監督となるなど、映画とともに生きた女優である。また、昭和 26 年には「はげ」周辺を舞台とした映画『武蔵野夫人』に主演している。平成 21 年は絹代の生誕百周年、さらに『武蔵野夫人』原作小説の作者、大岡昇平の生誕百周年でもある。日本を代表する女優・田中絹代を通じ、日本映画界の変遷、また「はげ」をめぐる戦後の文化人達の往還を紹介した。

〈下関市立近代先人顕彰館 田中絹代ぶんか館〉開館を進めていた下関市、絹代の遺品管理、顕彰活動を行う NPO 法人田中絹代メモリアル協会などの協力を得て、田中絹代生誕百周年を記念する短期集中型企画とし、展示と連動した各種イベントを盛り込んだ。1 階展示室では、プロマイドのマルベル堂の協力により、写真や映画スチールなどのパネル展示を中心に、映画シナリオ、遺品などから田中絹代の生涯を紹介した。また展示室内に「特集展示 武蔵野タイムスリップ！」コーナーを設け、往時の野川、「はげ」周辺の様子をうかがうことのできる模型や写真資料を展示した。2 階展示室は、コレクションから水彩画や陶器などを展示し中村研一の創作活動を紹介した。

関連事業

(1) 内覧会

日時：平成 21 年 7 月 10 日（金）15:00～17:00

(2) 絹代に恋して！スペシャルトーク

日時：平成 21 年 7 月 11 日（土）13:00～13:30、14:00～14:30 の計 2 回

講師：河波茅子氏（NPO 法人田中絹代メモリアル協会事務局長）

(3) ワークショップ「スター☆なりきり朗読会～絹代映画の台本を味わう～」

日時：平成 21 年 8 月 1 日（土）13:00～16:00

講師：酒井孝宏氏（劇団 徒紀の奏）

(4) 上映会「はげ美でシネ恋ナイト」

①『マダムと女房』松竹株式会社

日時：平成 21 年 7 月 25 日（土）18:00～20:30

②『武蔵野夫人』東宝株式会社

日時：平成 21 年 8 月 8 日（土）18:00～20:30

主要関連記事

(5) 散策会「武蔵野遠足～『武蔵野夫人』と歩く～」

日時：平成 21 年 8 月 5 日（水）10:00～16:00

講師：多田哲（小金井市文化財センター学芸員）

(1) 新聞

広中正則「田中絹代生誕 100 周年 ゆかりの品 70 点展示 小金井」（『読売新聞』武蔵野版 2009 年 7 月 25 日

「“田中絹代”企画展 はげの森美術館で開催中」（『小金井新聞』2009 年 7 月 21 日

(2) 放送

JR 東日本 中央快速線トレインチャンネル「東京ぶらぶら散歩」東小金井篇、武蔵小金井篇、2009 年 7 月 16 日～7 月 22 日放映

[作品リスト]

田中絹代生誕百周年記念 田中絹代～シネマに恋して～ 会期 平成 21 年 7 月 11 日（土）～8 月 16 日（日）

1 階展示室 /

作者	タイトル	材質・技法等	サイズ (cm)	所蔵
写真パネル	田中絹代 顔写真		42 × 53	芸游会
写真パネル	父 久米吉 (1871-1912)		32.5 × 40	芸游会
写真パネル	母 ヤス (1872-1937)		32.5 × 40	芸游会
写真パネル	絹代 10 歳のころ		13 × 40	芸游会
写真パネル	昭和 11 年 姉 繁子 (1898-1941) と		37 × 52	田中絹代メモリアル協会
写真パネル	昭和 11 年 晩年の母と		29.5 × 20.5	田中絹代メモリアル協会
写真パネル	昭和 12 年 鎌倉旭ヶ丘		52 × 37	田中絹代メモリアル協会
写真パネル	兄 祥平 (1908-1971)		21 × 29.5	田中絹代メモリアル協会
写真パネル	昭和 47 年 兄 祥平の納骨 下関市霊園		21 × 29.5	田中絹代メモリアル協会
写真パネル	着物の手入れ		40 × 32.5	芸游会
写真パネル	昭和 12 年 母の仏壇の前で		29.5 × 42	芸游会
写真パネル	昭和 27 年 溝口健二監督と 撮影の合間に		23 × 33	田中絹代メモリアル協会
写真パネル	大阪琵琶少女歌劇 真ん中が絹代		32.5 × 40	田中絹代メモリアル協会
写真パネル	大正 14 年 松竹蒲田撮影所俯瞰図		57.0 × 44.5	田中絹代メモリアル協会
写真パネル	初めてのプロマイド		42 × 53	田中絹代メモリアル協会
写真パネル	監督 田中絹代		40 × 32.5	田中絹代メモリアル協会
写真パネル	昭和 30 年 帝国ホテルで		40 × 27.5	田中絹代メモリアル協会
写真パネル	昭和 33 年 椿山荘にて 日本監督協会再結成記念写真		53.5 × 36	田中絹代メモリアル協会
写真パネル	傘をさして		38.5 × 46.5	芸游会
写真パネル	三崎の家		46.5 × 60	田中絹代メモリアル協会
写真パネル	三崎の家、海の景色		60 × 40.5	田中絹代メモリアル協会
写真パネル	メモリアル協会これまでの活動			田中絹代メモリアル協会
写真パネル	『元禄女』	スチール写真	32.5 × 40	田中絹代メモリアル協会
写真パネル	『マダムと女房』	スチール写真	40 × 32.5	田中絹代メモリアル協会
写真パネル	『お琴と佐助』	スチール写真	47 × 56.9	田中絹代メモリアル協会
写真パネル	『愛染かつら』	スチール写真	46.9 × 57	田中絹代メモリアル協会
写真パネル	『愛染かつら』看護婦と	スチール写真	40 × 25.0	田中絹代メモリアル協会
写真パネル	『風の中の牝鷄』	スチール写真	57 × 47	田中絹代メモリアル協会
写真パネル	『山椒大夫』	スチール写真	40 × 32.5	田中絹代メモリアル協会
ポスター	「風の中の牝鷄」	映画ポスター	60 × 84	田中絹代メモリアル協会
ポスター	「四谷怪談」	映画ポスター	60 × 84	田中絹代メモリアル協会
ポスター	「西鶴一代女」	映画ポスター	23 × 74	田中絹代メモリアル協会
ポスター	「おかあさん」	映画ポスター	60 × 84	田中絹代メモリアル協会
ポスター	「少年死刑囚」	映画ポスター	60 × 43	田中絹代メモリアル協会
ポスター	「椿山節考」	映画ポスター	60 × 84	田中絹代メモリアル協会
ポスター	「この空のある限り」	映画ポスター	60 × 84	田中絹代メモリアル協会
ポスター	「赤ひげ」	映画ポスター	60 × 84	田中絹代メモリアル協会
ポスター	「おれの行く道」	映画ポスター	52 × 73	田中絹代メモリアル協会
台本	「お琴と佐助」	映画台本	17.5 × 24.5	田中絹代メモリアル協会
台本	「銀座化粧」	映画台本	17.5 × 24.5	田中絹代メモリアル協会
台本	「恋文」	映画台本	17.5 × 24.5	田中絹代メモリアル協会
台本	「流れる」	映画台本	17.5 × 24.5	田中絹代メモリアル協会

作者	タイトル	制作年	材質・技法等	サイズ (cm)	所蔵	
	パンフレット 「三婆」		映画台本	17.5 × 24.5	田中絹代メモリアル協会	
	パンフレット 「月は上りぬ」		映画パンフレット	18.5 × 26	田中絹代メモリアル協会	
	パンフレット 「乳房よ永遠なれ」		映画パンフレット	18.5 × 26	田中絹代メモリアル協会	
	パンフレット 「月夜の傘」		映画パンフレット	18.5 × 26	田中絹代メモリアル協会	
	パンフレット 「あやに愛しき」		映画パンフレット	18.5 × 26	田中絹代メモリアル協会	
	パンフレット 「赤ひげ」		映画パンフレット	20.5 × 27.5	田中絹代メモリアル協会	
	チラシ 「真珠夫人」		映画チラシ	15.5 × 24.5	田中絹代メモリアル協会	
	チラシ 「愛染かつら」		映画チラシ	12.5 × 12.5	田中絹代メモリアル協会	
	複製品 アクターズチェア		椅子	47 × 84.3 × 44.5	田中絹代メモリアル協会	
	複製品 デイレクターズチェア		椅子	47 × 84.3 × 44.5	田中絹代メモリアル協会	
	資料 「週間朝日」表紙		雑誌	18 × 25.5	田中絹代メモリアル協会	
	資料 「真相」記事頁		雑誌	18 × 26	田中絹代メモリアル協会	
	田中絹代	直筆手紙		手紙	17.5 × 25	田中絹代メモリアル協会
		硝子コップ		遺品		芸游会
うちわ			遺品		芸游会	
半衿			遺品		下関市	
夏帯			遺品		下関市	
夏帯			遺品		下関市	
夏帯			遺品		下関市	
田中絹代	扇 サイン		遺品		下関市	
	扇 桜・流水		遺品		下関市	
	帽子		遺品		下関市	
	手袋		遺品		下関市	
	髪飾り		遺品		下関市	
	メダル (水原)		遺品		下関市	
	万年筆 二本 (パーカー・シェーファー)		遺品		下関市	
	和服 二具 (合戦図・京友禅)		遺品		下関市	
向井潤吉	肖像画		油彩	65.5 × 77 ※額装含む	下関市	
武蔵野コーナー	写真パネル				芸游会	
	写真パネル				芸游会	
	写真パネル				芸游会	
	写真パネル				芸游会	
	写真パネル				芸游会	
	写真パネル				芸游会	
2階展示室／絵画	中村研一	猫	1960年代	墨・筆	35.0 × 22.0	
	藤田嗣治	研一猫	制作年不詳	水彩・紙	30.0 × 20.0	
	中村研一	富子猫	制作年不詳	水彩・紙	23.0 × 23.0	
		コタハルの女	1942年	水彩・紙	24.0 × 17.0	
		蘇州	1938年	水彩・紙	24.0 × 34.0	
		兵士	1942年頃	水彩・紙	36.5 × 26.5	
		果物	1950年～60年代	水彩・紙	26.0 × 39.0	
		裸婦	1960年代	水彩・紙	25.0 × 33.0	
		富子像	1950年～60年代	水彩・紙	33.0 × 24.0	
		小金井住家ノ図	1958年頃	水彩・紙	30.0 × 60.0	
		婦人像	1955年頃	油彩・キャンバス	41.0 × 31.8	
		寄港	1942年	油彩・板	35.0 × 26.0	
	中村琢二	江ノ浦	1974年	油彩・キャンバス	36.0 × 45.0	
	／陶器	中村研一	大樋 碗形茶碗	1950年頃以降	陶	
黒染茶碗 銘「大われ」			1950年頃以降	陶		
信楽 半筒形茶碗 銘「君が代」			1959年	陶		
備前 半筒形茶碗			1950年頃以降	陶		
出雲 羊園図大皿			1950年頃以降	陶		
備前 角形水指			1950年頃以降	陶		
備前 足付深鉢			1950年頃以降	陶		
備前 紐穴付花入れ			1950年頃以降	陶		
備前 丸紋皿			1950年頃以降	陶		
九谷 牡丹図大皿			1950年頃以降	陶		
九谷 菊図丸皿			1953年	陶		
九谷 薔薇図丸皿			1953年頃	陶		
九谷 花図丸皿 (3点セット)			1950年頃以降	陶		
裸婦図丸皿			1950年頃以降	陶		
備前カップ			1950年頃以降	陶		
信楽 透し入り角深皿			1950年頃以降	陶		
備前 透し入り深鉢			1950年頃以降	陶		
備前 蓋物			1950年頃以降	陶		
出雲 雉頭付浅皿			1950年頃以降	陶		
出雲 羊頭付浅皿			1950年頃以降	陶		
出雲 鶏頭付浅皿			1950年頃以降	陶		
出雲 夫人像飾皿			1954年	陶		
出雲 自画像飾皿			1954年	陶		
出雲 うまたで図大皿			1950年頃以降	陶		
九谷 深鉢			1958年	陶		
九谷 菖蒲図丸皿			1950年頃以降	陶		
九谷 角皿 旦那様用			1950年頃以降	陶		
九谷 角皿 奥様用			1950年頃以降	陶		
出雲 鶏図 耳付角皿			1950年頃以降	陶		
出雲 菜果図 耳付角皿			1950年頃以降	陶		

企画展



18 ガラス絵～浜松市美術館の名品～

会 期：平成 21 年 11 月 14 日（土）～平成 22 年 1 月 29 日（金）

会 場：1 階展示室

開催日数：61 日

観覧料：一般 500 円、小中学生 200 円

※未就学児、障害手帳をご提示の方および付添者 1 名は無料

入場者数：2,763 人

一日平均：45 人

出品点数：77 点（2 階展示室 44 点）

担 当：大野玲

展示指導：増田幸雄（浜松市美術館館長、美術家）

企画協力：浜松市美術館

協 力：東京学芸大学デザイン研究室

印刷物：〔ポスター〕B2 判片面（カラー）、〔チラシ〕A4 判両面（カラー）、
〔リーフレット〕A5 判三ツ折両面（カラー）

開催趣旨

平成 19 年度、20 年度に続き、美術館の個性的かつ良質なコレクションの面白さを紹介する企画展示の第 3 弾として、浜松市美術館が所蔵するガラス絵コレクションをとりあげた。ガラス絵は板ガラス片面に絵具で着色したもので、鮮やかな色彩や多彩な画題が魅力である。浜松市美術館が所蔵するガラス絵は、400 余りに上り、国内有数のコレクションである。

本企画展では、一般にあまり馴染みのないガラス絵について、その魅力を伝えるため浜松市美術館のガラス絵コレクションを代表する作品を紹介した。展示は「Ⅰ ヨーロッパの聖画」「Ⅱ 中国のガラス絵」「Ⅲ 長崎系のガラス絵」「Ⅳ 江戸および東京系のガラス絵」「Ⅴ 現代作家のガラス絵」の 5 部構成とし、地域・年代に分けて作品を展示することで、ガラス絵の誕生から、中国への伝播、日本への輸入と浮世絵の影響、さらに昭和に入り作家によって新たにガラス絵制作が行われるまでを追い、変遷を分かりやすく紹介した。2 階展示室は、所蔵作品から、油彩、水彩、墨絵、陶器と幅広く展示し、中村研一の制作活動を概観した。

関連事業

(1) 内覧会

平成 21 年 11 月 10 日（金）15:00～17:00

(2) 特別ワークショップ「ガラス絵をみる！描く！」

日時：平成 21 年 12 月 6 日（日）10:00～11:30、13:00～14:30、15:00～16:30

計 3 回

講師：吉川利行（浜松市美術館学芸員）

(3) ワークショップ「ガラス絵に挑戦」

日時：①平成 21 年 12 月 20 日（日）10:00～11:00、14:00～15:00 計 2 回

②平成 22 年 1 月 24 日（日）10:00～11:00、14:00～15:00 計 2 回

(4) ギャラリートーク

会期中 2 回実施

(5) 鑑賞教室

対象：小金井市立小学校 8 校

（第一小学校、第二小学校、第三小学校、第四小学校、本町小学校、前原小学校、南小学校、東小学校）の 4 年生（総数 830 人）

主要関連記事

(1) 新聞

「珍しいガラス絵展 はけの森美術館で企画展」『小金井新聞』、2009年12月1日
 「はけの森美術館 小金井市 ガラス絵～浜松市美術館の名品」『Weekly News 西の風』、第1042号、
 2010年1月1日

(2) 放送

「新日曜美術館」アートシーン（NHK エデュケーショナル、2010年1月24日放送）



[作品リスト]

ガラス絵～浜松市美術館の名品～ 会期 平成21年11月14日（土）～平成22年1月29日（金）

	作者	題名	制作年	材質・技法等	寸法 (cm)	所蔵
1階展示室/ I. ヨーロッパの 聖画		キリスト降誕図		ガラス絵	17.0 × 13.0	浜松市美術館
		聖母子図		ガラス絵	28.0 × 18.0	浜松市美術館
		人物図		ガラス絵	50.0 × 39.0	浜松市美術館
II. 中国		時計を持つ三人の紅毛女人		ガラス絵	49.0 × 35.0	浜松市美術館
		赤い服を着てコップを持つ紅毛人		ガラス絵	49.0 × 35.0	浜松市美術館
		赤い上衣を着た紅毛少女		ガラス絵	38.0 × 28.0	浜松市美術館
		紅毛家族団欒図 その一		ガラス絵	50.0 × 71.0	浜松市美術館
		紅毛家族団欒図 その二		ガラス絵	50.0 × 71.0	浜松市美術館
		広東港内の景		ガラス絵	30.0 × 40.0	浜松市美術館
		中国樓閣山水図2		ガラス絵	41.8 × 57.7	浜松市美術館
		西洋風景瀬海図		ガラス絵	36.0 × 67.0	浜松市美術館
		中国風景漁獲図		ガラス絵	39.0 × 59.0	浜松市美術館
		二人の中国女人を前景とする中国風景		ガラス絵	31.0 × 31.0	浜松市美術館
		牡丹と鳥（鏡）		ガラス絵	23.5 × 34.0	浜松市美術館
		牡丹と雀		ガラス絵	48.0 × 35.0	浜松市美術館
		黄服を着た中国婦人図		ガラス絵	51.0 × 33.0	浜松市美術館
	青服を着た中国婦人図		ガラス絵	50.0 × 53.0	浜松市美術館	
III. 長崎系の ガラス絵		紅毛女人海辺舞蹈図		ガラス絵	25.0 × 60.0	浜松市美術館
		外輪船航行図		ガラス絵	26.0 × 67.0	浜松市美術館
		和蘭船図		ガラス絵	26.0 × 73.0	浜松市美術館
		海辺城廓図		ガラス絵	25.0 × 11.0	浜松市美術館
		海辺城廓前紅毛人遊歩図		ガラス絵	25.0 × 11.0	浜松市美術館
		海洋を走る和蘭帆船図		ガラス絵	26.0 × 20.0	浜松市美術館
		牡丹と錦鶏鳥		ガラス絵	30.0 × 36.0	浜松市美術館
	桜と錦鶏鳥		ガラス絵	30.0 × 35.0	浜松市美術館	
IV. 江戸および 東京系のガラス絵		女と洋童		ガラス絵	24.5 × 35.0	浜松市美術館
		猫と火鉢に寄る女		ガラス絵	24.0 × 35.0	浜松市美術館
		手古舞美人		ガラス絵	26.0 × 18.0	浜松市美術館
		簪を挿す女		ガラス絵	30.0 × 38.0	浜松市美術館
		猫を抱く娘		ガラス絵	29.0 × 25.0	浜松市美術館
		朝比奈三郎		ガラス絵	40.0 × 29.5	浜松市美術館
		倭風俗不忍池湖畔朝霧図		ガラス絵	40.0 × 60.0	浜松市美術館
		役者絵		ガラス絵	28.0 × 19.0	浜松市美術館
		はず		ガラス絵	28.5 × 69.7	浜松市美術館
		牡丹と菊と朝顔		ガラス絵	34.5 × 50.0	浜松市美術館
		近江八景全体の図		ガラス絵	44.5 × 65.0	浜松市美術館
		富士遠望		ガラス絵	39.0 × 59.5	浜松市美術館
		近江八景図		ガラス絵	75.0 × 50.0	浜松市美術館

	作者	題名	制作年	材質・技法等	寸法 (cm)	所蔵
(上方系のガラス、 インドのガラス絵)		塔の見える境内		ガラス絵	43.5 × 59.0	浜松市美術館
		人物図		ガラス絵	62.0 × 76.0	浜松市美術館
V. 現代作家の ガラス絵	小出柄重	市街風景	1924 年	ガラス絵	21.0 × 26.0	浜松市美術館
	瑛九	踊子	1951 年	ガラス絵	16.8 × 11.5	浜松市美術館
	絹谷幸二	女の顔 1	1983 年	ガラス絵	14.8 × 10.4	浜松市美術館
	佐藤泰生	女	1986 年	ガラス絵	19.5 × 15.5	浜松市美術館
	北川民次	楽士 A	1962 年	ガラス絵	15.0 × 20.3	浜松市美術館
	檀田伸也	風景	1989 年	ガラス絵	12.0 × 18.9	浜松市美術館
	南薫造	戎克	制作年不詳	ガラス絵	22.0 × 27.3	浜松市美術館
	宇佐美圭司	ガラス絵のための光る梢	1992 年	ガラス絵	45.0 × 45.0	浜松市美術館

参考展示	資料	ガラス絵の制作過程	ガラス絵	浜松市美術館
------	----	-----------	------	--------

2階展示室／絵画

中村研一	マレーシア風俗	制作年不詳	墨、水彩・紙	28.7 × 39.7
	南方風俗	制作年不詳	鉛筆、淡彩・紙	37.8 × 27.0
	基地	1941 年頃	墨、水彩・紙	27.5 × 36.5
	ソロモン海戦図 (エスキース)	制作年不詳	水彩・紙	24.8 × 34.7
	裸婦	制作年不詳	水彩・紙	23.5 × 31.5
	裸婦	制作年不詳	墨・紙	23.0 × 22.0
	婦人像	制作年不詳	インク・紙	35.0 × 25.0
	マラヤの装い	制作年不詳	墨、インク・紙	36.0 × 27.0
	自画像	制作年不詳	インク・紙	30.0 × 23.0
	富子像	制作年不詳	木炭、水彩・紙	33.0 × 24.0
	猫	制作年不詳	墨・紙	35.0 × 22.0
	雪	制作年不詳	油彩・板	27.0 × 21.0
	風景	1939 年	油彩・キャンバス	38.5 × 45.5
	家居	1945 年	油彩・キャンバス	33.5 × 24.5
	バラ (絶筆)	1967 年	油彩・キャンバス	40.9 × 31.8
	画室	1948 年	油彩・キャンバス	91.0 × 73.0
	九谷 うつぎ図半筒形茶碗下図	制作年不詳	墨、水彩・紙	29.0 × 30.0
	富子猫	制作年不詳	水彩・紙	23.0 × 23.0
	富子像	制作年不詳	油彩・キャンバス	

／陶器

中村研一	瀬戸黒 桃形茶碗	1950 年以降	陶
	出雲 筒形茶碗	1950 年以降	陶
	信楽 半筒形茶碗 銘「君が代」	1959 年	陶
	信楽 半筒形茶碗 銘「初雪」	1950 年以降	陶
	九谷 牡丹図大皿	1950 年以降	陶
	備前 丸紋皿	1950 年以降	陶
	備前 足付深鉢	1950 年以降	陶
	備前 角型水指	1950 年以降	陶
	九谷 菊図丸皿	1953 年	陶
	出雲 自画像飾皿	1954 年	陶
	出雲 婦人像飾皿	1950 年以降	陶
	出雲 雉頭付浅皿	1950 年以降	陶
	出雲 羊頭付浅皿	1950 年以降	陶
	出雲 鶏頭付浅皿	1950 年以降	陶
	備前 透し入り深鉢	1950 年以降	陶
	備前 紐穴付花入れ	1950 年以降	陶
	出雲 取手付猫面壺	1950 年以降	陶
	九谷 梅図香合	制作年不詳	陶
	備前 香合	制作年不詳	陶
	信楽 丸型香合	制作年不詳	陶
	九谷 うつぎ図半筒形茶碗	制作年不詳	陶
	志野 熊川形茶碗	1950 年以降	陶
	九谷 藤絵碗形茶碗	1950 年以降	陶
	備前 半筒形茶碗	1950 年以降	陶
	備前 半筒形茶碗	1950 年以降	陶

所蔵作品展



19 2010 年所蔵作品展 中村研一の人物画

～特別展示 新収蔵品「シンガポールへの道」～

会 期：平成 22 年 7 月 17 日 (土) ～ 10 月 3 日 (日)

会 場：1 階・2 階展示室

開催日数：68 日

観覧料：一般 200 円、小中学生 100 円

※未就学児、障害者手帳をご提示の方および付添者 1 名は無料

入場者数：1,403 人

一日平均：26 人

出品点数：73 点 (1 階展示室 32 点、2 階展示室 41 点)

担 当：大野玲

印刷物：〔ポスター〕 B2 判片面 (カラー)、〔チラシ〕 A4 判両面 (カラー)

開催趣旨

洋画家・中村研一の堅実・明快で写実を重んじる画風は、昭和新写実時代を担うものとして高く評価されてきた。その本領が発揮された主題の一つが人物画であることから、本展では中村の人物画に着目した。

さらに、中村研一の生涯に渡る画業の中で特筆されるものに戦争画がある。当館コレクションには、中村研一が戦争画を制作する際に描きためたエスキースや、戦地でスケッチした兵士像などが多く所蔵されているが、展示機会が少なかった。このような戦争画関連作品を、新たに寄贈された《シンガポールへの道》(1943 年)の収蔵記念特別展示に併せて展示した。1 階展示室は 2 部構成とし、前半部は初期の人物像から晩年にかけての裸婦像まで、油彩と素描を、後半部は、《シンガポールへの道》を中心に、戦争画のエスキースや戦地取材で赴いた南方の風俗を描いた素描を紹介した。2 階展示室はコレクションの中から、風景、静物をテーマとした作品と陶器を紹介した。

関連事業

(1) ワークショップ

① 「“けんぼしゃん”とあそぼう！～コラージュでアートを楽しむ～」

日時：平成 22 年 7 月 31 日 (土) 10:30 ～ 15:00

② 「“けんぼしゃん”とあそぼうスペシャル！～コラージュで万華鏡～」

日時：平成 22 年 9 月 23 日 (木) 10:30 ～ 15:00

(2) ギャラリートーク

毎週土曜日 14:00 ～ 14:30

会期中 9 回実施

(3) 夏休み企画！木曜模写

木曜日 10:00 ～ 16:00

主要関連記事

(1) 新聞

「10 月 3 日まで開催一はけの森美術館中村研一人物画 寄贈の戦争画も初の展示」『小金井新聞』、2010 年 8 月 21 日

「はけの森美術館 中村研一戦争画公開 戦後 65 年、3 度目の日の目」『美術通信』No. 2021、2010 年 9 月 10 日

[作品リスト]

2010 年所蔵作品展 中村研一の人物画～特別展示 新収蔵品「シンガポールへの道」～

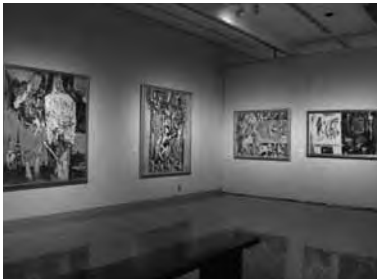
会期 平成 22 年 7 月 17 日 (土) ～ 10 月 3 日 (日)

	作者	題名	制作年	材質・技法	寸法 (cm)		
1 階展示室	中村研一	K 氏夫人像	1922 年	油彩・キャンバス	53.0 × 45.5		
		フランス婦人像 (滞欧作)	1928 年	油彩・キャンバス	60.5 × 50.0		
		顔	制作年不詳	墨、水彩・紙	27.0 × 32.0		
		自画像	制作年不詳	クレパス、墨・紙	33.0 × 24.0		
		自画像	制作年不詳	インク・紙	30.0 × 23.0		
		夏	1948 年	油彩・キャンバス	91.0 × 73.0		
		室内	1957 年	油彩・キャンバス	116.7 × 90.9		
		夏	1950 年	油彩・キャンバス	116.7 × 90.9		
		裸体	1951 年頃	油彩・キャンバス	100.2 × 80.5		
		裸婦	1955 年頃	油彩・キャンバス	91.0 × 72.8		
		坐裸婦	1965 年	油彩・キャンバス	130.0 × 97.0		
		婦人像 (緑陰)	制作年不詳	クレパス・紙	34.0 × 23.0		
		マラヤの装い	制作年不詳	墨・紙	36.0 × 27.0		
		裸婦	制作年不詳	墨、インク・紙	23.5 × 31.5		
		少憩	制作年不詳	鉛筆・紙	25.0 × 35.0		
		少憩	制作年不詳	墨・紙	25.0 × 35.0		
		裸婦	制作年不詳	コンテ・紙	43.0 × 32.0		
		裸婦	1961 年	油彩・キャンバス	53.0 × 40.9		
		コタバルにて	1942 年	油彩・キャンバス	53.0 × 41.0		
		編物	1945 年	油彩・キャンバス	45.5 × 37.9		
		中村正奇氏の肖像	1929 年	油彩・キャンバス	91.0 × 73.0		
		F 氏像	1934 年	油彩・キャンバス	80.5 × 65.0		
		婦人像	1945 年	油彩・キャンバス	100.0 × 81.0		
		兵士	1941 年頃	墨、水彩・紙	27.0 × 37.5		
		「コタ・バル」のエスキース	1943 年	墨・紙	28.0 × 38.5		
		「コタ・バル」のエスキース	1943 年	墨・紙	28.0 × 38.5		
		シンガポールへの道	1943 年	油彩・キャンバス	129.0 × 161.0		
		マレーシア風俗	制作年不詳	墨、水彩・紙	28.7 × 39.4		
		南方風俗	制作年不詳	鉛筆、淡彩・紙	37.8 × 27.0		
		兵士	1942 年頃	水彩・紙	36.5 × 26.5		
		南方婦人像	制作年不詳	鉛筆、墨・紙	35.0 × 27.3		
		コタバルの女	1942 年	水彩・紙	24.0 × 17.0		
		2 階展示室 / 絵画	中村研一	バンジー	制作年不詳	墨、水彩・紙	33.0 × 34.0
				果物	制作年不詳	墨、水彩・紙	37.0 × 43.0
				花	制作年不詳	墨、水彩・紙	48.0 × 36.0
				風景	制作年不詳	墨・紙	16.0 × 18.0
				瀬戸内	制作年不詳	水彩・紙	20.0 × 28.0
				日光中禅寺湖	1958 年	鉛筆、水彩・紙	29.0 × 40.0
				包頭	制作年不詳	水彩・紙	26.0 × 34.5
				徐州	1940 年	鉛筆、墨、水彩・紙	24.0 × 34.0
開封新民公園 (中国)	制作年不詳			鉛筆、水彩・和紙	31.0 × 43.0		
足柄より	1938 年			油彩・キャンバス	45.7 × 53.5		
婦人像	1948 年			油彩・キャンバス	45.5 × 53.0		
裸婦	1952 年			油彩・キャンバス	38.0 × 45.5		
バラ (絶筆)	1967 年			油彩・キャンバス	40.9 × 31.8		
自画像	1958 年			油彩・キャンバス	73.0 × 61.0		
室内図 (居室兼茶ノ間兼画室兼書斎図)	1930 年頃			墨、水彩・紙	26.5 × 35.5		
/ 陶器	中村研一			瀬戸黒 桃形茶碗	1950 年頃以降	陶	
				出雲 筒形茶碗	1950 年頃以降	陶	
				信楽 半筒形茶碗 (銘君が代)	1959 年	陶	
				志野 筒形茶碗	1950 年頃以降	陶	
				出雲 うまたで図大皿	1950 年頃以降	陶	
		備前 角形水指	1950 年頃以降	陶			
		備前 丸紋皿	1950 年頃以降	陶			
		備前 足付深鉢	1950 年頃以降	陶			
		出雲 取手付猫面壺	1950 年頃以降	陶			
		九谷 浜なし図丸皿	1950 年頃以降	陶			
		出雲 自画像飾皿	1954 年	陶			
		出雲 婦人像飾皿	1954 年	陶			
		備前 面取角皿	1950 年頃以降	陶			
		備前 蓋物	1950 年頃以降	陶			
		裸婦図丸皿	1950 年頃以降	陶			
		信楽 透かし入り角深皿	1950 年頃以降	陶			
		出雲 雉頭付浅皿	1950 年頃以降	陶			
		出雲 羊頭付浅皿	1950 年頃以降	陶			
		出雲 鶏頭付浅皿	1953 年	陶			
		瀬戸 野菜図丸皿 (6 点セット)	1950 年頃以降	陶			
		瀬戸絵付 すみれ図デミタス	1950 年頃以降	陶			
		九谷 牡丹図大皿	1950 年頃以降	陶			
		九谷 深鉢	1958 年	陶			
		九谷 栗図飾皿	1950 年頃以降	陶			
		瀬戸 羊図飾皿	1950 年頃以降	陶			
		瀬戸 カラー図飾皿	1950 年頃以降	陶			

企画展



- 20 新潟市新津美術館より 菅岡了一 具象と抽象の狭間で
 会 期：平成22年11月9日(火)～平成23年1月23日(日)
 会 場：1階展示室
 開催日数：61日
 観覧料：一般500円、小中学生200円
 ※未就学児、障害者手帳をご提示の方および付添者1名は無料
 入場者数：2,069人
 一日平均：33人
 出品点数：27点 (2階展示室 45点)
 担 当：神津瑛子
 企画協力：新潟市新津美術館
 協 力：東京学芸大学デザイン研究室
 印刷物：〔ポスター〕B2判片面(カラー)、〔チラシ〕A4判両面(カラー)、
 〔リーフレット〕A5判三ツ折両面(カラー)



開催趣旨

地方の美術館の優れたコレクションを紹介する展示の4弾目として、当館と同じ市立美術館、かつ、精力的な活動を行っている新潟市新津美術館の菅岡了一コレクションに着目し企画展示を行った。さらに菅岡了一コレクションと館の紹介によって美術館同士の交流にも繋げることも目的の一つとした。菅岡了一(1907～1987)は、ほとんど独学で絵を学び、日中・太平洋戦争を経験、戦後は中村研一と同じく光風会に所属し、活動した。絵画における「抽象と具象の接点」を追い求め、現実と非現実、日常と非日常の混在する画風を模索した、画家・菅岡了一の魅力を展観した。

初期作品から晩年作まで、風景、聖書からのモチーフなど、油彩画の代表作をテーマ別に分類し、また関連する水彩画も併せて展示した。なお2階展示室については当館の所蔵作品から、中村研一の渡欧作、婦人像、静物などの油彩画と墨絵、陶器を展示し、中村の画業を紹介した。本企画展は約3カ月の長期企画展示であることから、各種普及事業、小金井市内の市立小学校鑑賞教室、シンポジウムなど、展示期間中に多数の事業を組み込んだ。

関連事業

- (1) ワークショップ「絵とお話の旅～絵に物語をプレゼントしよう～」
 日時：2010年11月23日(火) 15:00～17:30
 講師：志茂田景樹(作家、タレント、よい子に読みきかせ隊・隊長)
- (2) 講演「新潟の美術のDNA—象徴主義と土の記憶」
 日時：2010年12月12日(日) 14:00～15:30
 講師：小林一吉(新潟市新津美術館学芸員)

- (3) シンポジウム「画家のアトリエと美術館 アトリエ・住居の保存公開～佐藤秀三による建築を例に～」
日時：平成 22 年 11 月 14 日（日）13:00～15:30
講師：内田青蔵（神奈川大学工学部建築学科教授）、村山万介（台東区立朝倉彫塑館研究員）、
橋本善八（世田谷美術館学芸部美術課長）、薩摩雅登（東京藝術大学大学美術館教授、小金井
市立はげの森美術館学芸顧問）
会場：小金井市市民会館 「萌え木ホール」

(4) 鑑賞教室

対象：小金井市立小学校 8 校
（第一小学校、第二小学校、第三小学校、第四小学校、本町小学校、緑小学校、南小学校、東
小学校）の 4 年生（総数 861 人参加）

主要関連記事

(1) 新聞

「笹岡了一展 「感動が持続する絵画」を模索して」（『新美術新聞』2010 年 8 月 1・11 日合併号、
No. 1223）

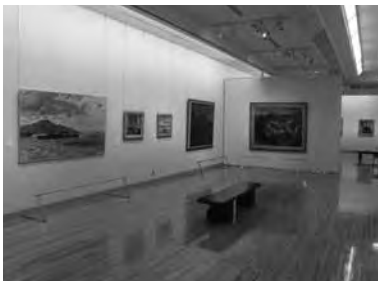
【作品リスト】

新潟市新津美術館より 笹岡了一 具象と抽象の狭間で 会期 平成22年11月9日(火)～平成23年1月23日(日)

	作者	題名	制作年	材質・技法	寸法 (cm)	所蔵		
1階展示室／	笹岡了一	纏足	1946年	油彩・キャンバス	116.7×91.0	新潟市新津美術館		
		隊商	1953年	油彩・キャンバス	162.0×130.5	新潟市新津美術館		
		背面裸婦	1959年	油彩・キャンバス	40.9×31.8	新潟市新津美術館		
		安邑(山西)	1960年	油彩・キャンバス	80.5×100.0	新潟市新津美術館		
		郷寧(山西)	1960年	油彩・キャンバス	80.5×100.0	新潟市新津美術館		
		放蕩息子の帰宅	1961年	油彩・キャンバス	168.5×130.0	新潟市新津美術館		
		神々の饗宴	1963年	油彩・キャンバス	162.0×131.0	新潟市新津美術館		
		放蕩息子の帰宅	1963年	油彩・キャンバス	162.0×130.5	新潟市新津美術館		
		地層	1965年	油彩・キャンバス	162.0×131.0	新潟市新津美術館		
		王様の出発	1966年	油彩・キャンバス	145.3×112.5	新潟市新津美術館		
		夏の日	1968年	油彩・キャンバス	130.0×194.0	新潟市新津美術館		
		流沙	1968年	油彩・キャンバス	145.5×112.5	新潟市新津美術館		
		鳥の春	1971年	油彩・キャンバス	112.0×145.3	新潟市新津美術館		
		踏絵A	1973年	油彩・キャンバス	97.0×130.3	新潟市新津美術館		
		踏絵B	1973年	油彩・キャンバス	80.5×130.5	新潟市新津美術館		
		八番街のラーメン店	1975年	油彩・キャンバス	112.0×145.5	新潟市新津美術館		
		竈王昇天	1975年	油彩・キャンバス	130.0×80.3	新潟市新津美術館		
		カンボ・デ・クリプターナの黒い家	1977年	油彩・キャンバス	130.0×194.0	新潟市新津美術館		
		カンボ・デ・クリプターナ(風車の丘)	1978年	油彩・キャンバス	90.0×130.5	新潟市新津美術館		
		桃源	1985年	油彩・キャンバス	162.1×130.3	新潟市新津美術館		
		流沙(山西作品Ⅱ)	1986年	油彩・キャンバス	162.0×130.0	新潟市新津美術館		
		スペインの少女	1978年	コンテ、顔彩・紙	46.0×34.0	新潟市新津美術館		
		コレヒドール島を望む	1943年	鉛筆、顔彩・紙	34.0×50.0	新潟市新津美術館		
		ルネタ公園(於マニラ)	1943年	鉛筆、顔彩・紙	34.0×52.0	新潟市新津美術館		
		マニラ果物賣の娘	1943年	鉛筆、顔彩・紙	30.2×22.8	新潟市新津美術館		
		梅の庭(武州越生)	1950年	墨、顔彩・紙	30.0×40.0	新潟市新津美術館		
		白浜燈台(於南海荘)	1983年	墨、顔彩・紙	32.0×41.0	新潟市新津美術館		
		2階展示室／絵画	中村研一	梅	制作年不詳	インク・紙	19.0×14.0	
				九谷 うつぎ図半筒形茶碗下図	1950年頃以降	墨、水彩・紙	29.0×30.0	
				茶碗図案(タケノコ)	1950年頃以降	鉛筆、水彩・紙	23.0×29.0	
				果物鉢	制作年不詳	墨・紙	26.0×35.0	
果物	制作年不詳			墨、水彩・紙	37.0×43.0			
人物	制作年不詳			コンテ・紙	26.0×35.0			
芸人	制作年不詳			墨・紙	25.0×35.0			
歌劇	制作年不詳			墨・紙	24.0×30.0			
バリ・カフェ	制作年不詳			墨、インク・紙	19.0×20.0			
雪	制作年不詳			油彩・板	27.0×21.0			
縫物	1945年			油彩・キャンバス	45.5×37.9			
バラ(絶筆)	1967年			油彩・キャンバス	40.9×31.8			
フランス風景	1923年			油彩・キャンバス	60.5×50.0			
婦人像	制作年不詳			油彩・板	27.3×22.0			
富子像	制作年不詳			油彩・キャンバス	23.0×23.0			
富子像	制作年不詳			油彩・キャンバス				
／陶器	中村研一			瀬戸黒 半筒形茶碗(梅文)	1950年頃以降	陶		
		信楽 半筒形茶碗 銘「初雪」	1950年頃以降	陶				
		九谷 うつぎ図半筒形茶碗	1950年頃以降	陶				
		九谷 藤ノ絵椀形茶碗	1950年頃以降	陶				
		九谷 牡丹図大皿	1950年頃以降	陶				
		備前 足付深鉢	1950年頃以降	陶				
		備前 角型水指	1950年頃以降	陶				
		備前 丸紋皿	1950年頃以降	陶				
		備前 透し入り深鉢	1950年頃以降	陶				
		出雲 羊歯図大皿	1950年頃以降	陶				
		出雲 自画像飾皿	1954年	陶				
		出雲 婦人像飾皿	1954年	陶				
		出雲 ドン・キホーテ図深皿	1950年頃以降	陶				
		出雲 合歓図深皿	1950年頃以降	陶				
		信楽 平皿	1950年頃以降	陶				
		信楽 透し入り角深皿	1950年頃以降	陶				
		信楽 杵型	1950年頃以降	陶				
		出雲 雉頭付浅皿	1950年頃以降	陶				
		出雲 羊頭付浅皿	1950年頃以降	陶				
		出雲 鶏頭付浅皿	1950年頃以降	陶				
		瀬戸 キリスト図飾皿	1950年頃以降	陶				
		瀬戸 有翼牡牛図飾皿	1950年頃以降	陶				
		瀬戸 大天使図飾皿	1950年頃以降	陶				
		瀬戸 鳥図飾皿	1950年頃以降	陶				
		瀬戸 頭柱図飾皿	1950年頃以降	陶				
		瀬戸 ライオン図飾皿	1950年頃以降	陶				
		瀬戸 レモン図飾皿	1950年頃以降	陶				
		出雲 取手付壺	1954年	陶				
		出雲 取手付猫面壺	1950年頃以降	陶				



- 21 開館5周年記念特別展「中村研一展 制作の軌跡・日常の跡形」
 会期：平成23年3月6日（日）～平成23年5月22日（日）
 会場：1階展示室
 開催日数：66日
 観覧料：一般400円、小中学生200円
 ※未就学児、障害者手帳をご提示の方および付添者1名は無料
 入場者数：1,418人
 一日平均：21人
 出品点数：32点（※2階展示室34点）
 担当：荒木和
 協力：東京学芸大学デザイン研究室
 印刷物：〔ポスター〕B2判片面（カラー）、〔チラシ〕A4判両面（カラー）、〔リーフレット〕A4判（A3中綴じ）8P図版8点、写真2点（カラー）、〔略年譜（改訂版）〕A3判二つ折り両面（モノクロ、リーフレット折込み）



開催趣旨

はげの森美術館の開館5周年を記念し、所蔵コレクションの中心である中村研一の画業を、初期から第二次世界大戦までと、戦後小金井に居を構えてから晩年までの2章構成で紹介した。

平成18年度に当館が開館した際の回顧展では、中村研一作品に通底する「リアリズム」に注目した。しかし、この「リアリズム」を実現するための方法・画風は変遷しており、特に終戦と小金井への転居は大きな転換点として捉えられる。本企画展では5周年の節目の年に開館記念展とは異なる視点から中村の画業を概観した。また、館の歩みを振り返るために、開館以降の展示企画を紹介するスペースを設けた。2階展示室では、開館以降に新たに当館収蔵となった中村研一作品の紹介のほか関連小企画として、所蔵作品から画家の制作・生活の記憶を留めるモチーフや作品を選び、展示した。

関連事業

- (1) プレイイベント「集まれ！はげ美5周年宣伝部」
 日時：平成23年3月5日（土）①11:00～12:00、②14:00～15:00
- (2) トークイベント「小金井に来るまでの中村／はげの森での研一」
 日時：平成23年4月24日（日）、13:00～16:00
- (3) こきんちゃん1日館長
 日時：平成23年5月5日（木・祝）
 「1日館長セレモニー」13:30～16:00
 「1日館長ごあいさつ」①12:00～②15:00～
- (4) ギャラリートーク
 4月9日（土）14:00～14:30
 ※3月20日（土）は東日本大震災の影響で実施せず

[作品リスト]

開館 5 周年記念特別展「中村研一展 制作の軌跡・日常の跡形」 会期 平成 23 年 3 月 6 日 (日) ~平成 23 年 5 月 22 日 (日)

	作者	題名	制作年	材質・技法	寸法 (cm)	所蔵
1 階展示室 / I. 画家としての 出発から終戦まで 1920 ~ 1945	中村研一	自画像	1920 年	油彩・キャンバス	60.6 × 45.5	東京藝術大学大学美術館
		山本ヒロ像	1920 年	油彩・キャンバス	63.5 × 56.0	
		風景	1922 年	油彩・板	53.0 × 65.0	
		花	1924 年	油彩・キャンバス	51.8 × 44.2	
		ジャンヌ・マリー・ジャクレーの肖像	1924 年	油彩・キャンバス	63.0 × 53.0	横浜美術館 (寄託作品)
		中村正奇氏の肖像	1929 年	油彩・キャンバス	91.0 × 73.0	
		足柄より	1938 年	油彩・キャンバス	45.7 × 53.5	
		南支某基地	1941 年	油彩・キャンバス	112.0 × 194.0	東京国立近代美術館(無期限貸与)
		宿泊先	1942 年	油彩・キャンバス	45.0 × 53.0	
		南の海	1942 年	油彩・キャンバス	54.0 × 46.0	
		シンガポールへの道	1943 年	油彩・キャンバス	129.0 × 1601.0	
		コタ・バル B	1944 年	油彩・キャンバス	130.0 × 162.0	東京国立近代美術館 (無期限貸与)
		蘇州	1938 年	水彩、鉛筆・紙	24.0 × 34.0	
		婦人像 (コタバル)	1942 年	水彩、インク・紙	30.8 × 23.0	
II. はけの森で描く 1945 ~ 1967	中村研一	婦人像	1945 年	油彩・キャンバス	100.0 × 80.3	
		マラヤの装い	1946 年	油彩・キャンバス	90.5 × 73.0	東京藝術大学大学美術館
		マラヤの装い	1946 年頃	墨・紙	36.0 × 27.0	
		画室	1948 年	油彩・キャンバス	91.0 × 73.0	
		婦人像	1950 年	油彩・キャンバス	80.3 × 65.2	
		裸婦	1952 年	油彩・キャンバス	100.0 × 80.3	
		裸婦	1955 年	油彩・キャンバス	45.5 × 53.0	
		小金井住家ノ図	1958 年	水彩、墨・紙	30.0 × 60.0	
		朝食卓	1958 年頃	水彩、コンテ・紙	50.0 × 33.0	
		ベランダ	制作年不詳	水彩、インク・紙	43.0 × 35.0	
		自画像	1958 年	油彩・キャンバス	73.0 × 61.0	
		花	1960 年	油彩・キャンバス	91.0 × 72.8	
		早春	1962 年	油彩・キャンバス	91.0 × 73.0	
		木陰	1963 年頃	油彩・キャンバス	91.0 × 116.5	
		夏の庭	1964 年	油彩・キャンバス	116.5 × 91.0	
		裸体	1964 年頃	油彩・キャンバス	91.0 × 116.6	
		座裸婦	1965 年	油彩・キャンバス	130.5 × 97.0	
		バラ (絶筆)	1967 年	油彩・キャンバス	40.9 × 31.8	
		2 階展示室 / 小特集 1 ここにある モチーフたち	中村研一	アトリエにて	1947 年	油彩・キャンバス
静物	1959 年			油彩・キャンバス	53.0 × 45.5	
夏庭	1963 年			油彩・キャンバス	80.5 × 65.3	
秋	1965 年?			油彩・キャンバス	50.0 × 60.5	
タバコ具	1952 年頃			水彩、コンテ・紙	27.0 × 24.0	
花と創造	1961 年頃			墨・紙	30.0 × 32.0	
筆立て	制作年不詳			墨・紙	24.0 × 17.0	
居間	制作年不詳			水彩、インク・紙	38.0 × 53.0	
静物	制作年不詳			水彩、墨・紙	32.0 × 24.0	
山茶花	制作年不詳			水彩、墨・紙	30.0 × 39.0	
花	制作年不詳			水彩・紙	40.0 × 28.0	
庭 (梅・茶・畑)	制作年不詳			水彩、墨・紙	49.0 × 32.0	
樹	制作年不詳			水彩・紙	26.0 × 38.0	
灯籠	制作年不詳			墨・紙	62.0 × 35.0	
筍	制作年不詳			水彩、鉛筆・紙	23.0 × 28.0	
静物 (くり)	制作年不詳			水彩、鉛筆・紙	25.5 × 36.0	
九谷深鉢	1958 年			陶	29.0 × h12.3	
出雲取手付猫面壺	1950 ~ 1959 年			陶	19.3 × 20.6 × 16.0	
出雲花瓶 赤まんま図	1950 ~ 1960 年			陶	19.5 × 21.5 × 13.7	
備前杵形	1950 年以降			陶	8.8 × 20.3 × 15.5	
備前カップ	1950 年以降	陶	高さ 14.6・径 12.3			
九谷飾皿 栗図	1950 年以降	陶	高さ 2.7・径 20.4			
/ 小特集 2 2006 ~ 2010 年の 新収蔵作品	中村研一	華僑の娘	1942 年	インク・紙	31.0 × 24.3	
		裸婦	制作年不詳	墨・紙	34.9 × 24.4	
		灯籠図・俳句	制作年不詳	墨、水彩・紙	38.5 × 47.3	
		船と犬	制作年不詳	鉛筆・紙	30.0 × 37.2	
		静物	制作年不詳	墨・紙	31.5 × 40.7	
		静物	制作年不詳	墨・紙	31.3 × 27.5	
		信楽花生	1950 年以降	陶、金属	9.5 × h17.2	
		信楽花生	1950 年以降	陶	10.5 × h20.8	
		備前花生	1955 ~ 1962 年	陶	10.5 × h23.7	
		九谷水指 銘 七夕	1950 年以降	本体：陶、 蓋：木 (黒漆塗)、金属	16.5 × 16.3 × 17.5	
		信楽水指	1961 年	陶	19.5 × h17.5	
		常滑水指 銘 秋野	1957 年	陶	23.5 × h19.0	

3. 教育普及事業

概要

小金井市立はけの森美術館の教育普及事業は、『提言』による「2. 事業計画、(1) 事業の方針」の「美術等に接する喜びをより深く享受できる場づくりを目指し、市民参画・参加型の各種教育普及プログラムを行う」との提言内容に基づく。内容は概ね以下の6つに大別される。

- ①展示の内容をより深く解説し、作品の見かたを提示する展示解説
- ②制作・作業等実体験を通じて展示の内容に接し、興味の展開を図るワークショップ
- ③子ども向け体験型ワークショップ
- ④創作活動の魅力を伝えるためのきっかけとなる一般向けアート講座
- ⑤美術館での鑑賞教室や、学校に赴いての出張授業
- ⑥美術館を知ってもらうための職場体験学習等

平成 18 年度

開館年である平成 18 年度には、展覧会関連事業として、ギャラリートーク、夏季は子ども向けのキッズ・トーク等を実施した。また、ワークショップでは子どもワークショップ「アートって何？」などを通じて、展覧会内容とも連動した教育普及事業を行い、学校教育との連携という観点においても、市内の小中学校に対する鑑賞教室を試験的に行った。

平成 19 年度

18 年度の結果を受け、展覧会関連事業としてギャラリートークを継続し、また出品作家によるギャラリートークも実施した。また、本年度は「Art-Full」の関連事業としてワークショップ「窓から見た風景～風景画を描こう！～」、「サウンド・エンカウンター」など、特に子どもを対象にした参加型のワークショップ、パフォーマンスを充実させた。公開シンポジウム「小さな美術館からの声～市民と共に歩む今とこれから～」を開催し、広く市民とともに考え、議論する場を設けた。学校教育との連携としては、鑑賞教室に加え、小学校への出張授業を行い、特に図工科教員との連携の本格化を目指した。

平成 20 年度

展覧会関連事業としてギャラリートーク、スペシャルゲストトークのほか、学芸員と参加者が対話する形式の「ミュージアムトーク」を実施した。展覧会関連のワークショップでは、本年度以降シリーズ化する「“けんぼしちゃん”とあそぼう！～コラージュでアートを楽しむ～」、「美術館で横写！」を行った。また、企画展「田村一男展」に合わせて「スペシャルナイト！直弟子金山桂子さんが語る 田村一男と信州・冬」と題したトークイベントを実施した。さらに、市民参加のワークショップ「アートエコバッグをつくろう！～江戸東京野菜でお絵かき～」を行った。これは展示内容からの発展ではなく、ワークショップだけを独立して行うもので、当館としては初の試みとなった。学校教育との連携では引き続き鑑賞教室、出張授業の2点を重視する方針を取り、調べ学習等の調査支援、近隣中学校の職場体験学習の受入れも行った。

平成 21 年度

展覧会関連事業はギャラリートークのほか、スペシャルゲストトーク「絹代に恋して！スペシャルトーク」を行った。ワークショップ「“けんぼしちゃん”とあそぼう！～コラージュでアートを楽しむ～」を20年度に続き実施し、さらに、その発展的ワークショップ「“けんぼしちゃん”に挑戦！～花を描く～」、企画展出品作品に対する理解を深めることを目的としたワークショップ「ガラス絵をみる！描く！」、「ガラス絵に挑戦」を実施した。さらに講座「寺子屋・はけ美”小さな美術館からの声” Part2」を開催し、19年度に開催した公開シンポジウムの成果を参加者と検討した。企画展「田中絹代～シネマに恋して～」では講演会「特別講演 富永一矢氏をお招きして」と上映会「はけ美でシネ恋ナイト」が好評を得た。展覧会別立事業では、「きらきら☆えんげきあそび～美術館で演劇ワークショップ～」、「響水（ひびきみず）～遙かなる水の音～」を実施した。学校教育との連携は例年に倣い、鑑賞教室、出張授業、調査支援、職場体験学習の他、本年度は大学の見学授業の受入れを実施した。

平成 22 年度

展覧会関連事業としてギャラリートーク、ミュージアムツアーのほか、ワークショップでは「“けんぼしちゃん”とあそぼう！～コラージュでアートを楽しむ～」、「“けんぼしちゃん”とあそぼうスペシャル！～コラージュで万華鏡～」、外部講師による「絵とお話の旅～絵に物語をプレゼントしよう～」を行った。また、企画展「新潟市新津美術館より 笹岡一 抽象と具象の狭間で」展に合わせ、講演会「新潟の美術のDNA 象徴主義と土の記憶」と、シンポジウム「画家のアトリエと美術館 アトリエ・住居の保存公開～佐藤秀三による建築を例に～」を開催した。開館5周年記念特別展開館記念「中村研一展 制作の軌跡・日常の跡形」では、展覧会の周知を図る「イベント」を当館で初めて実施した。展覧会別立のワークショップでは、「ごくらくらくごワークショップ～美術館で落語をあそぼう～」「バルーンの森で迷路あそび」を行った。この他にも市立小学校と連携した鑑賞教室、中学生の職場体験学習、大学の見学授業の受入れ等を実施した。

1. 教育普及事業

1. 展覧会関連事業

1) ギャラリートーク

来館者と一緒に展示室を回り、毎回 30 分程度で作品解説と美術館の紹介を行った。来館者の作品鑑賞を助け、学芸員との交流の場を設けることで、より親しみやすい美術館となることを期待した。主に所蔵作品展での事業だが、企画展においても特別企画としてゲスト講師によるギャラリートークを変則的に実施した。また、平成 18 年度は＜夏休み企画＞として子ども向けのギャラリートークを行った。通常はおおむね展覧会会期中の毎週土曜日 14 時から実施した。

※平成 18 年度、19 年度に関しては参加人数記録なし。

平成 18 年度

展覧会名	展示開催期間	参加費等	実施数	担 当
開館記念所蔵作品展Ⅰ	4月1日(土)～7月2日(日)		5	
開館記念所蔵作品展Ⅱ	7月11日(火)～9月24日(日)	参加無料 (要観覧券)	3	横田佳世 (学芸員)
企画展「中村研一回顧展」	10月7日(火)～11月26日(日)		12	
企画展「Art-Full アート湧くはけの森」	12月16日(土)～2月12日(月)		7	
		合計	27	

夏休みキッズ・トーク（子ども向けギャラリートーク）

内 容：夏休みの子ども向けに実施した。1階展示室で開催中の「開館記念所蔵作品展Ⅱ」のギャラリートークを行い、子ども用ワークシートを活用しながら作品を鑑賞した。最後に、10月から開催する企画展「中村研一回顧展」の紹介も行った。

日 時：平成 18 年 8 月 29 日（火）、30 日（水）各 13:30～14:30

会 場：1 階展示室

対 象：小学生

担 当：大野玲（当館学芸員）、後藤保紀（当館学芸補助）

参加費：無料

学芸員と学生スタッフによるギャラリートーク

内 容：企画展「Art-Full アート湧くはけの森」の関連企画として実施した。学芸員とワークショップに参加した学生ボランティアスタッフが、フリートークの形式で作品解説を行った。

日 時：①平成 18 年 12 月 23 日（土）14:00～14:30

②平成 19 年 1 月 13 日（土）11:00～11:30、

③1 月 28 日（日）14:00～14:30、

④2 月 4 日（日）11:00～11:30 全 4 回

会 場：1 階展示室

担 当：横田佳世（当館学芸員）・学生ボランティア：（東京学芸大学、武蔵野美術大学、津田塾大学）

参加費：無料（要観覧券）

平成 19 年度

展覧会名・イベント名	展示開催期間	参加費等	実施数	担 当
2007 年所蔵作品展 I 中村研一と花々	3 月 20 日 (火) ～ 6 月 10 日 (日)	参加無料 (要観覧券)	6	大野玲 (学芸員)
2007 年所蔵作品展 II 中村研一の見た風景	6 月 26 日 (火) ～ 9 月 30 日 (日)		19	松山ひとみ、 奥友絵里子 (学芸員)
企画展 京都府立堂本印象美術館展	10 月 23 日 (火) ～ 12 月 9 日 (土)		4	
企画展 Art-Full 2 CIRCULATION 天から地から	1 月 12 日 (土) ～ 3 月 12 日 (水)		3	横田佳世 (学芸員)
企画展 Art-Full 2+子どもたち	3 月 14 日 (金) ～ 3 月 16 日 (日)	無料	1	
合計			33	

作家によるギャラリートーク

内 容：子どもワークショップの講師を務め、企画展「Art-Full 2 CIRCULATION 天から地から」へ出品した作家自らが、作品解説や制作過程について、フリートーク形式でギャラリートークを行った。

日 時：平成 20 年 2 月 2 日 (土) 14:00 ～ 14:30

会 場：1 階展示室

講 師：多田正美 (サウンドエンカウンター)

参加費：無料 (要観覧券)

参加者：9 人

平成 20 年度

展覧会名	展示開催期間	参加費等	実施数	参加人数	担 当
2008 年所蔵作品展 I 中村研一 人と芸術	3 月 29 日 (土) ～ 6 月 1 日 (日)	参加無料 (要観覧券)	6	109	松山ひとみ (学芸員)
2008 年所蔵作品展 II 中村研一 画家のまなざし	7 月 1 日 (火) ～ 10 月 5 日 (日)		12	106	大野玲 (学芸員)
企画展 高原の画家・田村 一男の世界	10 月 21 日 (火) ～ 12 月 7 日 (日)		2	11	
2009 年所蔵作品展 I 一枚のラ・ヴィ (生命)	1 月 6 日 (火) ～ 3 月 8 日 (日)		5	21	
2009 年所蔵作品展 II 中村研一 春の特集～花～	3 月 24 日 (火) ～ 5 月 31 日 (日)		5	32	
合計			30	279	

スペシャルゲストトーク

内 容：企画展「高原の画家・田村一男の世界」の関連企画として、松本市美術館田村一男記念展示室の担当学芸員をゲストに迎えたギャラリートークを実施した。参加者との会話しつつ進めるフリートーク形式、1回約30分程度とした。ギャラリートークに参加することで、鑑賞者がより深く田村一男作品を味わい楽しむことを期待した。

日 時：平成20年11月15日（土）13:00～13:30、
14:00～14:30 全2回

会 場：1階展示室

対 象：年齢制限なし

講 師：武藤美紀（松本市美術館学芸員）

担 当：大野玲（当館学芸員）

参加費：無料（要観覧券）

参加者：延べ21人



展覧会名	展示開催期間	参加費等	実施数	参加人数	担 当
2008年所蔵作品展Ⅰ 中村研一 人と芸術	3月29日（土）～6月1日（日）	参加無料 （要観覧券）	2	12	松山ひとみ （学芸員）
2008年所蔵作品展Ⅱ 中村研一 画家のまなざし	7月1日（火）～10月5日（日）		7	42	神津瑛子 （学芸員）
企画展 高原の画家・田村 一男の世界	10月21日（火）～12月7日（日）		6	47	
2009年所蔵作品展Ⅰ 一枚のラ・ヴィ（生命）	1月6日（火）～3月8日（日）		6	13	
2009年所蔵作品展Ⅱ 中村研一 春の特集～花～	3月24日（火）～5月31日（日）		5	35	
合計			26	149	

ミュージアムツアー

学芸員による鑑賞ツアーとして、主に所蔵作品展会期中の毎週日曜日14時から実施した。ワークシートを用い、学芸員と来館者が意見交換をしつつ、鑑賞する。様々な層の参加者に、共に絵を観て語り合う喜び、面白さを感じてもらうことを期待した。ワークシートを介し来館者との対話を重視することで、トークの内容をさらに深めた。

平成 21 年度

展覧会名	展示開催期間	参加費等	実施数	参加人数	担 当
2009 年所蔵作品展Ⅲ 中村研一 アトリエおもちゃ箱	9 月 12 日 (土) ~ 10 月 31 日 (土)	参加無料 (要観覧券)	8	77	大野玲・ 神津瑛子 (学芸員)
企画展 ガラス絵 ～浜松市美術館の名品～	11 月 14 日 (土) ~ 1 月 23 日 (金)		2	22	
2010 年所蔵作品展Ⅰ 中村研一 自然の歌	3 月 2 日 (火) ~ 5 月 30 日 (日)		18	65	
合計			28	164	

スペシャルゲストトーク「絹代に恋して！スペシャルトーク」

特別企画	<p>内 容：企画展「田中絹代～シネマに恋して～」の関連企画として、ゲストキュレーターを務めた河波氏によるギャラリートークを実施した。参加者との相互の会話をまじえたフリートーク形式とし、2回実施した。</p> <p>日 時：平成 21 年 7 月 11 日 (土) ① 13:00 ~ 13:30、 ② 14:00 ~ 14:30 全 2 回</p> <p>講 師：河波茅子氏 (NPO 法人田中絹代メモリアル協会 事務局長)</p> <p>会 場：1 階展示室</p> <p>参加費：無料 (要観覧券)</p> <p>参加者：計 17 人 (① 9 人、② 8 人)</p>
------	--



平成 22 年度

展覧会名	展示開催期間	参加費等	実施数	参加人数	担 当
2010 年所蔵作品展Ⅱ 中村研一の人物画	7 月 17 日 (土) ~ 10 月 3 日 (日)	参加無料 (要観覧券)	10	70	神津瑛子・ 荒木和 (学芸員)
開館 5 周年記念特別展 中村研一展 制作の軌跡・日常 の跡形	3 月 6 日 (日) ~ 5 月 22 日 (日)		—	—	
合計			10	70	

2) ワークショップ

美術館におけるワークショップは、参加者が制作体験などを通して、美術作品の創作プロセスを理解したり、芸術への関心を深めたり、創造性を育むことを目的としている。作家や専門家、あるいは学芸員が講師を務め、参加者と相互にコミュニケーションする機会としてもその意義は大きい。

平成 18 年度

[1] 子どもワークショップ「アートって何？」

「アートって何？」は小金井市内の小学 4 年生を対象としたワークショップとその成果による企画展示（12 月に開催）であり、企画展「Art-full アート湧くはけの森」とも関連している。ワークショップでは国内外で活躍する現代美術作家 4 人を講師に招き、子どもたちが自身のおかれている場所・環境と向き合いながら作家と共に創作を行った。各ワークショップは 4 人の作家別の日程で行われ、その様子はビデオで記録し、後日展示において上映した。参加者が体験した創作活動の様子や、作家との交流を、記録映像によって追体験できるようにした。また、本ワークショップでは学生ボランティアが運営スタッフとなり、作家および子ども達の補助として 8 人、撮影・VTR 作成として 6 人のスタッフが各日交替で参加した。

1. 音に向かうこと・出会うこと～自然素材とエレクトロニクスで遊ぶ～

内 容：各自が気になる、楽器にはない音を出す「もの」を持ち寄り、即興演奏を行い、「音の場」を体験した。

日 時：平成 18 年 9 月 2 日（土）10:30～17:00

会 場：小金井市前原暫定集会施設

講 師：多田正美（フォトサウンドアーティスト）

学生ボランティア（撮影）：東京工学院専門学校

学生ボランティア（ワークショップ補助）：東京学芸大学、津田塾大学

参加費：100 円（保険料として）

参加者：7 人



2. じぶんがいた場所～いつも歩く道、ひみつ基地、自分のテリトリーにじぶんの「あと」を残そう～

内 容：野川周辺を歩き、石や板など素材を集め、そこに絵や模様を描いたりする。自分にとって特別となった素材は再び元の場所に戻し、写真を撮る。

日 時：平成 18 年 9 月 9 日（土）10:00～17:00

会 場：小金井市野川周辺

講 師：吉澤美香（画家）

学生ボランティア（撮影）：東京工学院専門学校

学生ボランティア（ワークショップ補助）：東京学芸大学、武蔵野美術大学

参加費：100 円（保険料として）

参加者：10 人



3. 10年後のわたし～君がぼくを写す。わたしが君を写す。そこに10年後のわたしたちがいる。

10年後のその時に、ひとりひとりが君たちに伝える言葉を捜す～

内 容：それぞれが背景となる場所を選択し、パラフィン紙でできた服を着て、その風景に向かい合う。そのポートレイトを子ども同士で撮り、10年後の自分と街に向けた言葉をビデオ・テープに残す。

日 時：平成 18 年 9 月 16 日（土）10:00～17:00

会 場：小金井市前原暫定集会施設ほか小金井市内

講 師：松下誠子（画家）

学生ボランティア（撮影）：東京工学院専門学校

学生ボランティア（ワークショップ補助）：東京学芸大学、津田塾大学

参加費：100 円（保険料として）

参加者：6 人



4. 大きな写真～巨大化した写真から何がみえる？～

内 容：皆で同じ場所を歩き、各自が持参したデジタルカメラで、気になったもの、見つけたものの写真を撮影する。その中から、作家と共に子どもたちそれぞれが、自分にとっての一枚を選ぶ。

日 時：平成 18 年 9 月 30 日（土）10:00～17:00

会 場：小金井市前原暫定集会施設

講 師：柴田敏雄（写真家）

学生ボランティア（撮影）：東京工学院専門学校

学生ボランティア（ワークショップ補助）：東京学芸大学、武蔵野美術大学

参加費：100 円（保険料として）

参加者：7 人



[2] 美術館で花を描く！

「2007 年所蔵作品展～特集 中村研一と花々～」の開催に合わせ、「花」に着目した特別講演会と、館内で花を描く実技講座の 2 部構成の企画を実施した。

第 1 部では、展示室内にて「花と美術」をめぐる講演を行い、参加者に対して中村の作品に興味をもってもらうことを期待した。鑑賞者、評論者、制作者、それぞれの立場の多角的な視点から、花を描いた作品の画像を交えつつ、お話しいただいた。

第 2 部は、展示作品の模写をするコースと、展示作品と同じモチーフ（生花）を描くコースとに分かれ、講師の指導助言のもと花の絵を描いた。中村研一作品の描写力、表現力の確かさを、実感をもって学ぶ貴重な機会とした。当日は展示室や美術館中庭で、思い思いの色彩表現で創作に集中する参加者の姿が見られた。最後に作品の鑑賞会を行い、講師から作品の講評を受けた。

内 容：第 1 部 講演「人はなぜ花を描くのか」

第 2 部 美術館で花を描く

① 研一さんに弟子入り！模写コース

② 研一さんに挑戦！ライバルコース

日 時：平成 19 年 3 月 24 日（土）13:00～16:00

会 場：1 階展示室、中庭

対 象：市内在住・在勤者

講 師：河村正之（東京学芸大学教授）

参加費：無料（要観覧券）

参加者：計 22 人（① 11 人、② 11 人）



[1] 窓から見た風景～風景画を描こう！～

「2007 年所蔵作品展Ⅱ～特集 中村研一の見た風景～」の開催に合わせ、風景画のワークショップを実施した。館内で作品鑑賞を、屋外で絵画制作を行い、鑑賞教育と造形活動を連関させたプログラムを目指した。

屋外スケッチの際は、単に景色を眺めて描くのではなく、小さな「枠」を小道具として使用し、そこから覗き込んだ風景を描いた。制作者の視界を枠線で囲むことにより、絵画の画面がある意図によって“切り取られた”ものであることを理解し、画家の創作過程を意識することによってその後の鑑賞を深めることにつなげた。開催日を夏休み期間に設定し、コース別に対象を分けるなど、幅広い年齢層が参加しやすい工夫を図った。

内 容：①武蔵野公園・一日コース

はけの森美術館に集合し、弁当を持って都立武蔵野公園に出発。自然豊かな野外での制作を行った。家族・親子での参加が多く見られた。

②美術館周辺・半日コース

はけの森美術館周辺、主に「美術の森」緑地で身近な自然に触れ、新しい風景を発見しながら、夏の色彩にあふれた作品を制作した。

日 時：①平成 19 年 8 月 4 日（土）10:00～15:00

②平成 19 年 8 月 23 日（木）《午前の部》10:00～12:00、《午後の部》13:30～15:30

会 場：①都立武蔵野公園 ②2 階会議室、「美術の森」緑地

対 象：①市内在住・在勤の小学生以上 ②小学 4～6 年生（午前の部）、中学生（午後の部）

参加費：大人 300 円、小中学生 200 円（保険料および観覧料）

参加者：計 28 人（① 10 人、②小学生 10 人、中学生 8 人）



[2] 子どもワークショップ

企画展「Art-Full 2 CIRCULATION 天から地から」の関連事業として、小金井市内在住の小学 4 年生を対象に、子どもワークショップを行った。ワークショップで子どもたちが本展に出品するアーティスト 2 人と一緒に創りあげた作品は、「Art-Full 2 CIRCULATION 天から地から」終了後に連続して始まる「『Art-Full2』+子どもたち展」に、作家の作品と共に展示された。

平成 18 年度開催の「Art-Full アート湧くはけの森」と同様、子どもワークショップと「『Art-Full2』+子どもたち展」をサポートする学生ボランティアを募集し、ボランティアスタッフ 8 名が、交替でワークショップの実施、展示鑑賞の補助にあたった。また、企画展のゲストエドゥケーター塚本瑞恵氏（双ギャラリー）から指導助言を受けた。

1. 大きな写真～巨大化した写真から何が見える？

内 容：各自が持参したデジタルカメラで写真を撮影。撮影後、その中から作家と共に自分の一枚を選び、映写して皆で鑑賞した。

日 時：平成20年2月2日（土）13:00～16:00

会 場：2階会議室、「美術の森」緑地

対 象：小学校4年生

講 師：柴田敏雄（写真家）

学生ボランティア：東京学芸大学、津田塾大学、武蔵野美術大学

参加費：無料（要観覧券）

参加者：11人



2. 音と宇宙／音あそび／音を作る（自然とエレクトロニクスを通して）

内 容：各自が気になる「楽器ではない音」を持ち寄り、音から学ぶ体験をした。展示室内で、持ち寄った素材を使って音を作ったり、講師と一緒に演奏することで新たな音の発見がもたらされることを期待した。

日 時：平成20年3月15日（土）14:00～16:30

会 場：1階展示室

対 象：小学校4年生

講 師：多田正美（フォトサウンドアーティスト）

学生ボランティア：東京学芸大学、武蔵野美術大学

参加費：無料（要観覧券）

参加者：9人



[3] パフォーマンス「サウンド・エンカウンター」

内 容：講師が長年にわたって国内外で実践してきた、映像と音楽、即興演奏等の融合的パフォーマンス「サウンド・エンカウンター」を、「Art-Full 2」の展示作品の前で鑑賞した。

日 時：平成 20 年 1 月 26 日（土）14:00～15:00

会 場：1 階展示室

講 師：多田正美（フォトサウンドアーティスト）

学生ボランティア：東京学芸大学、武蔵野美術大学

参加費：無料（要観覧券）

参加者：30 人



[1] “けんぼしゃん”とあそぼう！～コラージュでアートを楽しむ～

内 容：「2008 年所蔵作品展Ⅱ 中村研一、画家のまなざし」、「2009 年所蔵作品展Ⅰ 中村研一、一枚のラ・ヴィ（生命）」の関連企画。「けんぼしゃん」は中村研一の子どもの時代の愛称であり、来館者に親しんでもらうために講座名に使用した。幼少のころから絵を描くことが好きだった中村にちなみ、子どもから大人まで楽しめる創作主体の内容にした。美術館の過去の展示のチラシやポスターを自由に切り貼りし、各自が思い思いのコラージュ作品を創作した。

①日 時：平成 20 年 8 月 3 日（日）10:00～15:00

会 場：2 階会議室

参加費：無料（要観覧券）

参加者：16 人（一般 6 人、小中学生 10 人）

②日 時：平成 21 年 2 月 11 日（水・祝）10:00～15:00

会 場：2 階会議室

参加費：無料（要観覧券）

参加者：12 人（一般 6 人、小中学生 6 人）



[2] 美術館で模写！

内 容：模写は絵画を学ぶにあたり非常に重要な方法のひとつであり、作品理解を深める上でも有効である。小金井市制施行 50 周年記念特別企画として、「2008 年所蔵作品展Ⅱ 中村研一、画家のまなざし」会期中、希望者には画材・イーゼルを貸し出し、参加者は 1 階展示室で好きな作品を選び模写を行った。参加者の自主性を重んじつつ、模写の支援、作品保護の指示を学芸員が行い、また他の来館者に配慮して、定員を 1 日 5 名とした。

日 時：「2008 年所蔵作品展Ⅱ 中村研一、画家のまなざし」会期中金曜日 10:00～16:00

① 7 月 27 日（日）※臨時実施、② 8 月 1 日（金）、③ 8 月 10 日（日）※臨時実施、

④ 8 月 11 日（金）、⑤ 8 月 15 日（金） 全 5 回実施

会 場：1 階展示室

参加費：無料（要観覧券）

参加者：計 16 人（① 3 人、② 4 人、③ 2 人、④ 2 人、⑤ 5 人）



[1] “けんぼしゃん”とあそぼう！～コラージュでアートを楽しむ～

内 容：平成 20 年度から所蔵作品展の関連企画として実施していたコラージュ創作のワークショップが好評だったため、平成 21 年度も引き続き、「2009 年所蔵作品展Ⅱ 中村研一 春の特集～花～」関連企画、「2010 年所蔵作品展Ⅰ 中村研一自然の歌」関連企画として開催した。

日 時：①平成 21 年 4 月 29 日（水） 10:00～15:00
※「2009 年所蔵作品展Ⅱ 中村研一 春の特集～花～」関連企画
②平成 22 年 3 月 22 日（月）10:30～15:00
※「2010 年所蔵作品展Ⅰ 中村研一 自然の歌」関連企画

会 場：2 階会議室

参加費：無料（要観覧券）

参加者：① 16 人（大人 9 人、子ども 7 人）、
② 16 人（大人 7 人、子ども 9 人）



[2] “けんぼしゃん”に挑戦！～花を描く～

内 容：「2009 年 所蔵作品展Ⅱ 中村研一 春の特集～花～」関連企画として実施。中村研一作品と同一モチーフである「花」を描くことで、創作と鑑賞の両方の体験からより深く中村作品を味わう機会とした。最初に展示作品について学芸員によるギャラリートークを行い、活動の導入とし、講師による指導・アドバイスをもとに参加者が自由に花を描いた。最後に講師から全体講評を行い、活動の総括をした。

日 時：平成 21 年 5 月 10 日（日）10:00～15:00

会 場：中庭

講 師：大野靖

（美術家、日本工学院講師、
立川美術学院講師）

参加費：無料（要観覧券）

参加者：8 人

（大人 7 人、子ども 1 人）



[3] スター☆なりきり朗読会～絹代映画の台本を味わう～

内 容：「生誕百周年記念 田中絹代～シネマに恋して～」関連企画として実施。田中絹代の代表作「春琴抄」の複製台本をつかって往年の名台詞を朗読で楽しんだ。

日 時：平成 21 年 8 月 1 日 13:00～16:00

会 場：2 階会議室

対 象：中学生以上

講 師：酒井孝宏（劇団徒紀の奏代表）

参加費：無料（要観覧券）

参加者：3 名

[4] 武蔵野遠足～「武蔵野夫人」と歩く～

内 容：「生誕百周年記念 田中絹代～シネマに恋して～」関連企画として実施。大岡昇平「武蔵野夫人」の登場人物たちが歩いた道を、当時を偲びながら散策した。ＪＲ西国分寺駅からはけの森美術館まで、野川沿いに、史跡、公園、神社などの名所を訪ねながら講師の案内で歩き、到着後、企画展見学を行った。

日 時：平成 21 年 8 月 5 日（水）10:00～16:00

会 場：小金井市内、1 階展示室

対 象：中学生以上

講 師：多田哲（小金井市文化財センター学芸員）

参加費：一般 430 円、中学生 230 円（入館料および保険料）

参加者：18 人



[5] 特別ワークショップ ガラス絵をみる！描く！

内 容：企画展「ガラス絵～浜松市美術館の名品～」展関連企画として実施した。浜松市美術館より講師を招き、ガラス絵の歴史や特徴についてのお話をうかがいつつガラス絵を制作する、約 1.5 時間の特別ワークショップである。制作と鑑賞とをつなげ、楽しみながらより深くガラス絵の魅力を知ってもらうことを目指した。

ガラス絵制作の基礎知識について講師から指導を受け、参加者各自がハガキ大のガラス製フォトスタンドを用いて、ガラス絵制作を行った。まず下絵を描き、下絵をペンでガラスに写し、線で描いた絵にアクリル絵具で着色、作品を乾かし、額に入れて完成した。最後に、講師と学芸員の案内で企画展鑑賞を行った。

日 時：平成 21 年 12 月 6 日（日）① 10:00～11:30、② 13:00～14:30、③ 15:00～16:30

全 3 回

会 場：2 階会議室

講 師：吉川利行（浜松市美術館指導主事・学芸員）

参加費：無料（要観覧券）

参加者：計 34 人（① 12 人、② 10 人、③ 12 人）



[6] ワークショップ ガラス絵に挑戦

内 容：企画展「ガラス絵～浜松市美術館の名品～」関連企画として実施した。当館学芸員の指導のもと、前掲 [5] と同様、小さなガラス製フォトスタンドを用いてガラス絵を制作した。ガラス絵の歴史や描き方の基礎知識について解説を交えつつ、約 1 時間で気軽に楽しめるワークショップとした。

日 時：平成 21 年 12 月 20 日（日）① 10:00～11:00、② 14:00～15:00、
1 月 24 日（日）③ 10:00～11:00、④ 14:00～15:00 全 4 回

会 場：2 階会議室

参加費：無料（要観覧券）

参加者：計 46 人（① 10 人、② 12 人、③ 12 人、④ 12 人）

平成 22 年度

[1] “けんぼしゃん”とあそぼう！～コラージュでアートを楽しむ～

内 容：「2010 年所蔵作品展Ⅱ 中村研一の人物画」関連企画として、平成 20・21 年度に引き続き、チラシやポスターを使い、自由にコラージュ作品を制作するワークショップを行った。

日 時：平成 22 年 7 月 31 日（土）10:30～15:00

会 場：2 階会議室

参加費：無料（要観覧券）

参加者：8 人



[2] 夏休み企画！木曜模写

内 容：「2010 年所蔵作品展Ⅱ 中村研一の人物画」関連企画として実施。夏休み期間に合わせて、中村研一作品の作品理解を深めるために模写を行った。

日 時：平成 22 年 8 月 19 日（木）

会 場：1 階展示室

参加費：無料（要観覧券）

参加者：2 人

[3] “けんぼしゃん”とあそぼうスペシャル！～コラージュで万華鏡～

内 容：「2010年所蔵作品展Ⅱ 中村研一の人物画」関連企画として、従来実施してきたコラージュを制作するワークショップの特別編となる万華鏡キットを用いて万華鏡を、制作するワークショップを行った。紙筒に観察物となるビーズ等を入れ、さらに万華鏡の側面にチラシやポスターなどでコラージュをして、参加者それぞれがオリジナルの装飾をした。また、画用紙でのコラージュ作りも行った。

日 時：平成22年9月23日（木）10:30～15:00

会 場：2階会議室

参加費：無料（要観覧券）

参加者：14人（大人6人、子ども8人）



[4] ワークショップ 絵とお話の旅～絵に物語をプレゼントしよう～

内 容：企画展「笹岡一 抽象と具象の狭間で」展関連企画として、笹岡一の作品を鑑賞し、そこから得られた発想をもとに物語を創造するワークショップを実施した。参加者は、選んだ作品から自由に想像をふくらませ、物語を創作した。

さらに参加者による物語を講師が発展させ、1階展示室内で読み聞かせを行った。また参加者自身による物語の朗読も行い、展示作品に物語を「プレゼント」した。

日 時：平成22年11月23日（火）15:00～18:00

会 場：1階展示室、2階会議室

対 象：小学生以上

講 師：志茂田景樹（作家、タレント、よい子に読み聞かせ隊・隊長）

参加費：無料（要観覧券）

参加者：10人（大人4人、子ども6人）



3) 講座

平成 20 年度

[1] 画家の交流～中村研一の書簡を読む～

平成 20 年度所蔵作品展Ⅱ「中村研一、画家のまなざし」の関連企画として、中村宛の書簡を講読する講座を実施した。中村研一と他の画家たちとの間で交わされた手紙類を読み、研一の人柄や当時の画家同士の交流を知り、作品理解につなげる。また、自筆の手紙類を直接扱うことで、参加者がその時代に思いをめぐらし、中村研一と画家仲間との交流を身近に感じることを期待した。

内 容：中村研一その他、藤田嗣治、南薫造、堂本印象らの書簡について、各資料の背景や、作家や作品について図版などを用いながら紹介した。さらに書簡を読み、その内容や感想を発表した。また、中村富子氏（中村研一夫人）を招き、当時のお話をうかがった。

日 時：①平成 20 年 9 月 6 日（土）、②平成 21 年 2 月 21 日（土） 各日 13:00～16:00

会 場：2 階会議室

対 象：中学生以上

参加費：無料（要観覧券）

参加者：① 3 人、② 4 人

平成 21 年度

[1] 寺子屋・はけ美 “小さな美術館からの声” Part2

内 容：平成 19 年度に実施したシンポジウム「小さな美術館からの声～市民とともに歩む今とこれから～」の記録 DVD を鑑賞し、またシンポジウムの報告書「小さな美術館からの声」（平成 21 年 4 月刊）を配布した。シンポジウム開催の意義、またその成果などについて意見交換をした。ここから「はけ美」（小金井市立はけの森美術館）の持つ良さ、今後について考えた。

日 時：平成 21 年 4 月 12 日（日） 13:00～16:00

会 場：2 階会議室

対 象：中学生以上

参加費：一般 200 円、中学生 100 円

参加者：3 人

4) 講演会

平成 20 年度

[1] スペシャルナイト！直弟子金山桂子さんが語る 田村一男と信州・冬

内 容：企画展「高原の画家・田村一男の世界」関連企画として実施。金山桂子氏は田村一男に師事した現役の画家。展示作品を前に、画家同士のやりとり、制作時の様子、松本市美術館 田村一男記念室の設立経緯など、多岐に渡る内容をお話しいただいた。特に松本市美術館 田村一男記念室設立については、コレクションと「場」の関係や、田村の信州への思い、信州での制作・作品についてなど、多岐にわたって説明をうかがった。新たな観点から作品を鑑賞し、田村一男の作品世界への理解を深める機会とした。最後に参加者からの質疑応答を行い、講師との歓談の時間を取った。

日 時：平成 20 年 11 月 8 日（土）17:15～18:25

講 師：金山桂子氏（女子美術大学名誉教授、光風会理事、日展評議員）

会 場：1 階展示室

参加費：無料

参加者：43 人



平成 21 年度

[1] 特別講演 富永一矢氏をお招きして

内 容：「田中絹代～シネマに恋して～」展関連企画として 1 階展示室内で、武蔵野に因んだ講演会を実施した。美術館周辺地域にゆかりの深い富永一矢氏を招き、田中絹代主演映画『武蔵野夫人』と原作小説の作者・大岡昇平にまつわるエピソードを中心に、戦後の武蔵野の歴史を語っていただいた。

2 部構成とし、まず、中町天神集会所で講演Ⅰを行い、講師とともに野川を散策し、はげの森美術館へ移動した。後半は「特集展示～武蔵野タイムスリップ!～」コーナーで当時の写真を見ながら、さらにお話をうかがった。

日 時：平成 21 年 8 月 15 日（土）①〈講演Ⅰ〉13:00～15:00

②〈講演Ⅱ〉15:00～16:00

会 場：①中町天神集会所 ②1 階展示室

講 師：富永一矢（東京学芸大学客員教授、NPO 法人小金井雑学大学学長）

参加費：無料（要観覧券）

参加者：延べ 86 人（① 44 人、② 42 人）



[2] 特別講演 小学生のガラス絵制作～方法と実践～

内 容：企画展「ガラス絵～浜松市美術館の名品～」に先立って、小金井市内図工科教諭を対象に、ガラス絵制作の方法やその特徴、面白さなどについての講演会を実施した。5限目は浜松市美術館指導主事・吉川利行氏をゲストティーチャーに図工授業とその見学会を行い、6限目に教諭を対象とした講演会を行った。授業見学と合わせた講演会とすることで、児童がガラス絵の特殊な技法・表現に親しみながら作品制作をするための方法や指導の留意点が、より実践的・具体的に教諭の間で共有されることを期待した。

日 時：平成 21 年 9 月 11 日（金）13:30～15:30（5、6 時限）

会 場：小金井市立南小学校図工室

対 象：小金井市立小学校図工専科教諭および小金井市教育研究会図工部教諭

講 師：吉川利行（浜松市美術館指導主事）

共 催：小金井市教育研究会図工部

参加者：31 人

平成 22 年度

[1] 新潟の美術の DNA—象徴主義と土の記憶

内 容：企画展「新潟市新津美術館より 笹岡了一 抽象と具象の狭間で」の関連企画として実施した。笹岡了一コレクションを所有する新潟市新津美術館の学芸員を講師に招き、新潟の風土と歴史に関する話題を交えつつ、笹岡了一の人生と作品について作品画像を紹介しながらお話しいただいた。

会 場：2 階会議室

対 象：中学生以上

日 時：平成 22 年 12 月 12 日（日）14:00～15:30

講 師：小林一吉（新潟市新津美術館学芸員）

参加費：無料（要観覧券）

参加者：19 人



[2] トークイベント「小金井に来るまでの中村／はけの森での研一」

内 容：「開館 5 周年記念特別展 中村研一展 制作の軌跡・日常の跡形」の関連企画として、第二次世界大戦中・戦後それぞれの中村研一の姿を明らかにする 2 部構成のトークイベントを行った。前半は戦中期の中村研一について、近代日本絵画史の立場から、後半は戦後の小金井移住後について、人柄・交遊関係も含め、親しい人の視点からお話いただき、「中村研一」のあり方を多層的に描き出した。

会 場：2 階会議室

対 象：中学生以上

日 時：平成 23 年 4 月 24 日（日）13:30～16:00

講 師：河田明久

（千葉工業大学准教授）

馬目世母子

（元財団法人中村研一記

念美術館理事長秘書）

参加費：無料

参加者：20 人



5) シンポジウム

平成 19 年度

[1] 公開シンポジウム「小さな美術館からの声～市民と共に歩む今とこれから～」

「京都府立堂本印象美術館展」の関連企画として実施。小金井市立はげの森美術館設立の経緯や、コレクションの由来による制約・限界について、市民に理解を深めてもらい、個性的な市立美術館の存在を周知させることを図った。東京都内の様々な小規模美術館の活動例を紹介することで、当館の今までの活動を見直すとともに、今後の美術館活動における具体的な課題や問題点を考える場とした。

内 容：中村研一、朝倉文夫、向井潤吉といった日本の近代美術を担った芸術家たち。現在、東京都内には、彼らの名前を冠した美術館があり、作品が保存・公開されている。本シンポジウム開催時の企画展「京都府立堂本印象美術館展」に因み、京都府立堂本印象美術館の紹介を導入として、シンポジウムに参加した各美術館の学芸員がそれぞれの魅力を紹介しながら、参加者と一緒にこれからの美術館活動を探った。Ⅰ.学芸員による個人美術館の紹介 Ⅱ.大学院生による全国個人美術館基礎調査報告 Ⅲ.パネリストによるパネルディスカッションの3部構成で、小規模美術館の意義、現状と今後の課題について考察を深めた。

日 時：平成 19 年 11 月 11 日（日）13:30～15:30

会 場：小金井市市民会館「萌え木」ホール

出演者：○パネリスト（発表順）

薩摩雅登（東京藝術大学大学美術館教授、小金井市立はげの森美術館学芸顧問）

守安美栄（世田谷美術館美術担当課学芸員）

村山万介（台東区立朝倉彫塑館学芸員）

○ゲスト

田中淳（東京文化財研究所美術部黒田記念近代現代美術研究室室長）

○コーディネーター

鈴木廣之（東京学芸大学教育学部教授）

参加費：無料

参加者：54 人



[1] 公開シンポジウム「画家のアトリエと美術館 アトリエ・住居の保存公開～佐藤秀三による建築を例に～」

企画展「新潟市新津美術館より 笹岡了一 具象と抽象の狭間で」の関連企画として実施。小金井市の中村研一、世田谷区の向井潤吉、千葉県流山市の笹岡了一がそれぞれ戦後に建てたアトリエ・住居は、いずれも建築家・佐藤秀三によるものだった。美術家と建築家が意見を交換し、様々な意図を込めて建てたアトリエ―すなわち美術家が暮らし、創作した「場」そのものを、保存し公開する意義とは何か。美術館とアトリエとの関係などについて、施設の公開・活用のあり方、地域社会との関わり、文化財保護や環境保全など多方向から検討した。

内 容：作家のアトリエや住居が現存していることの意義や、個人美術館に与える影響、作家の作品と創作された環境を総合的に保存、公開、活用する方法を、Ⅰ.基調講演 Ⅱ.事例報告 Ⅲ.ディスカッションの3部構成で検討した。Ⅰでは、建築学的観点から、文化財保護、環境保全などの方法や課題について、当館所有の中村研一住居・茶室を例に、本シンポジウムの議論の導入部としての方向づけを示した。Ⅱは、佐藤秀三設計施工の建築物を持つ、はげの森美術館を含む3つの美術館の事例紹介を行った。Ⅲでは、基調講演・事例紹介の内容をうけ、講師らによるディスカッションを行った。

日 時：平成 22 年 11 月 14 日（日）13:00～15:30

会 場：小金井市市民会館 「萌え木」ホール

講 師：○基調講演

内田青蔵（神奈川大学工学部教授）

○事例紹介

村山万助（台東区立朝倉彫塑館研究員）

橋本善八（世田谷美術館学芸部美術課長）

薩摩雅登（東京藝術大学大学美術館教授、小金井市立はげの森美術館学芸顧問）

○進行

荒木和（当館学芸員）

参加費：無料

参加者：21 人

6) 特別企画

平成 21 年度

企画展「田中絹代生誕百周年記念 田中絹代～シネマに恋して～」関連企画

[1] はけ美でシネ恋ナイト

企画展「田中絹代生誕百周年記念 田中絹代～シネマに恋して～」に合わせ、閉館後の展示室で映画作品を上映した。美術館周辺の「はけ」を舞台とした小説「武蔵野夫人」を映像化した映画を鑑賞することで、参加者に往時の武蔵野を知ってもらい、展覧会への理解を深める機会とした。また、小金井市では市立文化・教育施設の連携事業として、公民館本館で毎月映画上映会を開催しており、ここでも6月、7月の上映作品に田中絹代主演の映画2作品を取り上げた。PR面での協力によって、公民館と美術館、双方の利用者層の拡大につながることを期待した。

内 容：①『マダムと女房』松竹株式会社、昭和6年（1931）

②『武蔵野夫人』東宝株式会社、昭和26年（1951）

日 時：①平成21年7月25日（土）18:00～20:30

②平成21年8月8日（土）18:00～20:30

会 場：1階展示室

参加費：無料

参加者：86人（①36人、②50人）



企画展「開館 5 周年記念特別展 中村研一展 制作の軌跡・日常の跡形」関連企画

[1] プレイベント「集まれ！はげ美 5 周年宣伝部」

内 容：一般公開開始前日に市民を展覧会に招待し、展示を観てもらい、感想や印象をもとに口コミ、チラシ配布やインターネット媒体など、それぞれ可能な方法で「宣伝」してもらおう企画。学芸員によるギャラリーツアーを実施し、参加者には記念物と広報物のセットをプレゼントした。本イベント開催後、数人の参加者がブログやツイッターで本展を話題にした記事を公開した。

日 時：平成 23 年 3 月 5 日（土）① 11:00 ～ 12:00、② 14:00 ～ 15:00

会 場：1 階展示室

参加費：無料

参加者：12 名（① 7 名、5 名）

[2] こきんちゃん 1 日館長

内 容：5 周年の 5 月 5 日、小金井市のイメージキャラクター・こきんちゃんが 1 日館長として美術館に登場した。鈴木茂哉館長からの「辞令交付」（展示室内）と、2 回の「1 日館長ごあいさつ」（前庭）を行った。本企画を目当てに来館した方もおり、そのほぼ全員が、展覧会にも入場した。

日 時：平成 23 年 5 月 5 日（木・祝）

1 日館長任命セレモニー 10:30 ～

1 日館長ごあいさつ ① 12:00 ～、② 15:00 ～

参加費：無料

